

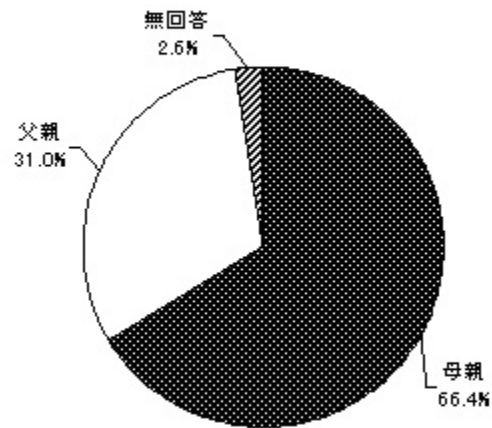
## 第2章 育児中父母調査結果

### 1. 回答者の属性

#### (1) 本人の性別

性別は、母親が66.4%、父親が31.0%となっている。(図表2-1-1)

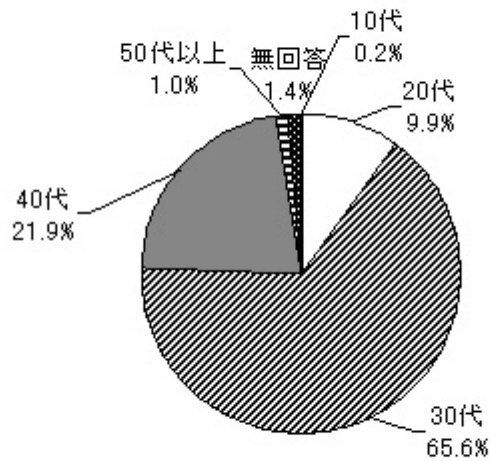
図表2-1-1 本人の性別 (単数回答 n=12,895)



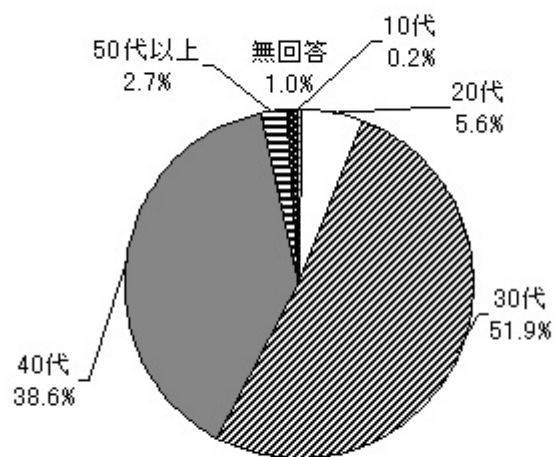
## (2)本人の年齢

年齢は、母親では30代が65.6%、40代が21.9%で、20代は9.9%にとどまっている。父親では30代が51.9%、40代が38.6%で、20代は5.6%にとどまっている。(図表2-1-2)

図表2-1-2 本人の年齢  
【母親】(単数回答 n=8,563)



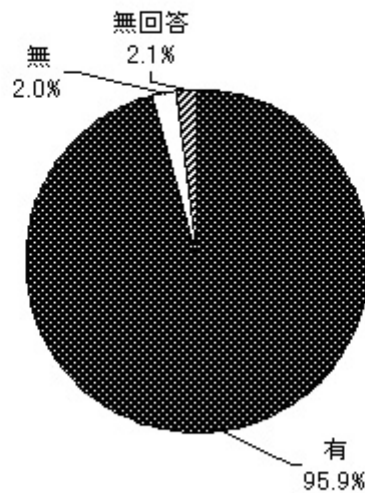
【父親】(単数回答 n=3,995)



### (3)配偶者の有無

配偶者のある人は95.9%、ない人は2.0%であった。(図表2-1-3)

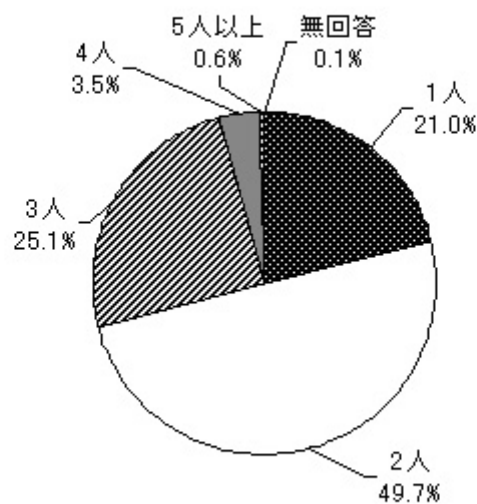
図表2-1-3 配偶者の有無 (単数回答 n=12,895)



### (4)子どもの人数

子どもの人数は、平均 2.1 人であった。子どもの人数別の状況をもても、「2人」が49.7%で最も多かった。次いで「3人」が25.1%となっている。(図表2-1-4)

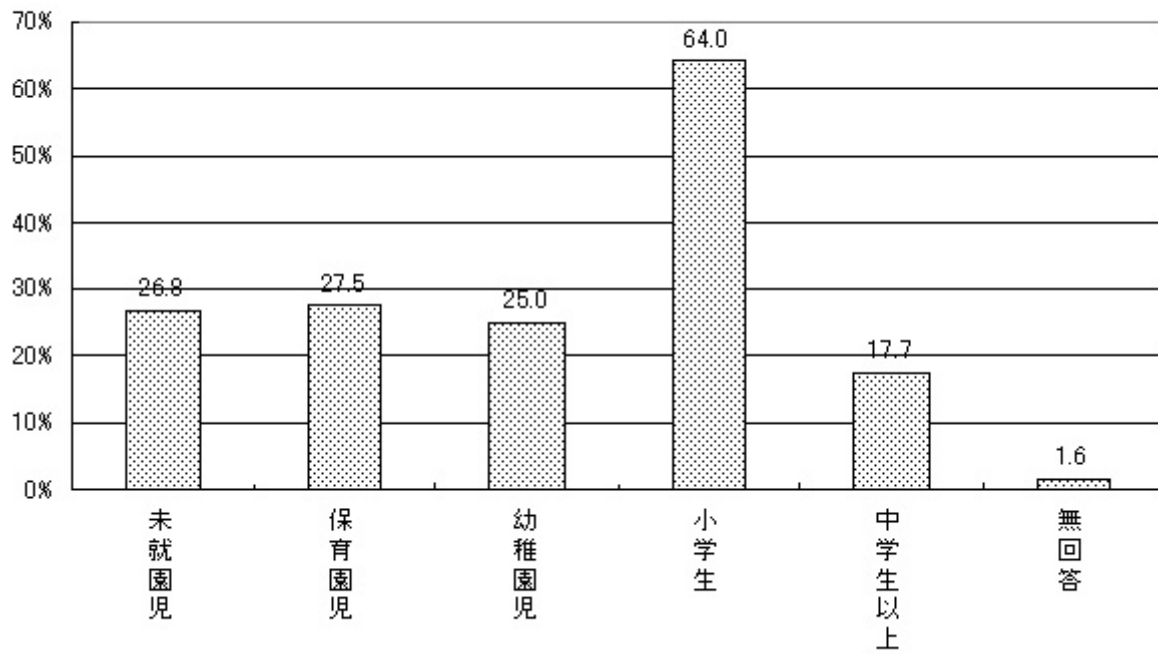
図表2-1-4 子どもの人数 (単数回答 n=12,895)



### (5)子どもの学齢

子どもの学齢については、小学生が64.0%と最も多く、保育園児が27.5%、未就園児が26.8%、幼稚園児が25.0%、中学生以上が17.7%となっている。(図表2-1-5)

図表2-1-5 子どもの学齢 (複数回答 n=12,895)

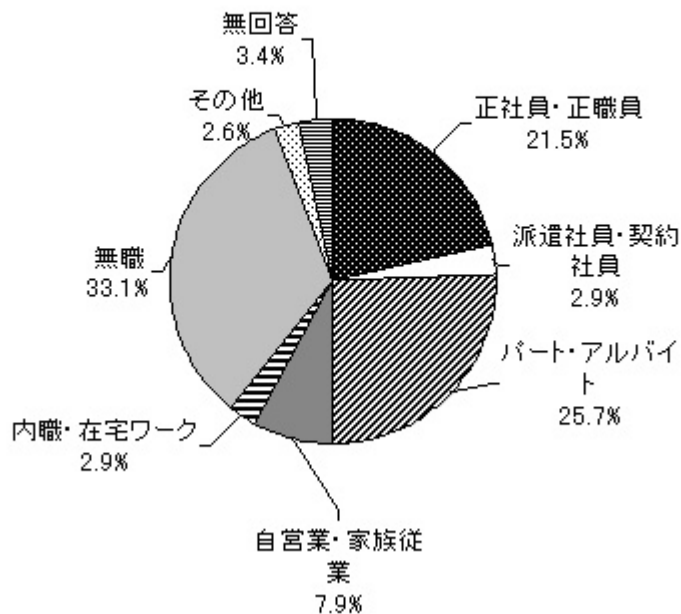


## (6) 本人の就業形態

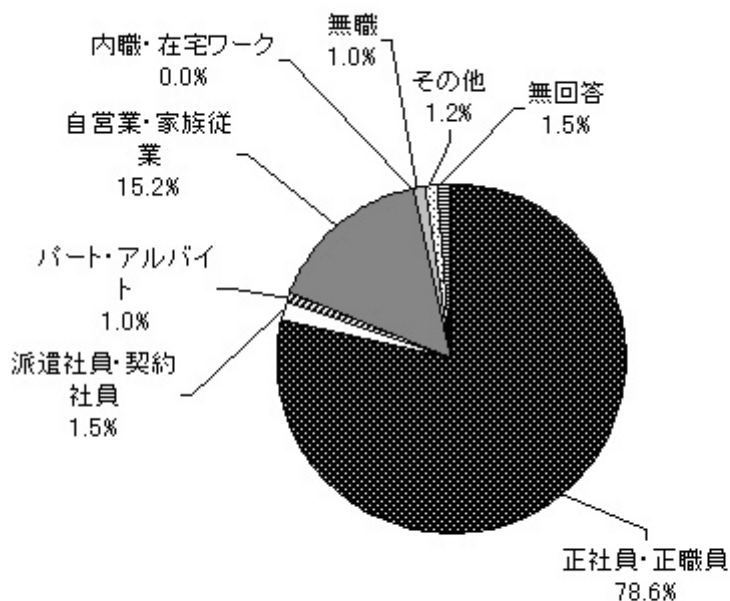
母親の63.5%が有職者で、パート・アルバイトが25.7%、正社員・正職員が21.5%となっている。無職は33.1%であった。

父親は、正社員・正職員が78.6%と約8割を占めた。次いで自営業・家族従業が15.2%となっている。(図表2-1-6)

図表2-1-6 本人の就労形態  
【母親】(単数回答 n=8,563)



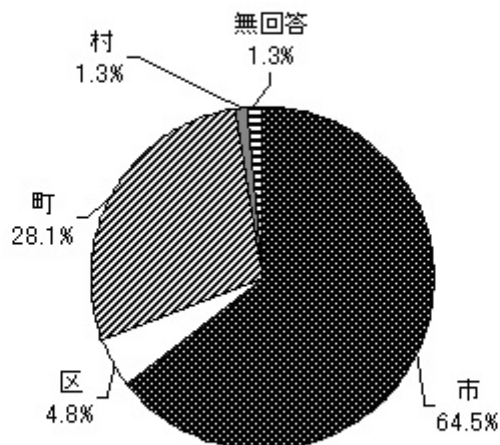
【父親】(単数回答 n=3,995)



### (7)居住地

居住地は、「市」が64.5%と最も多く、ついで「町」の28.1%となっている。市区部の居住者が約7割を占めている。(図表2-1-7)

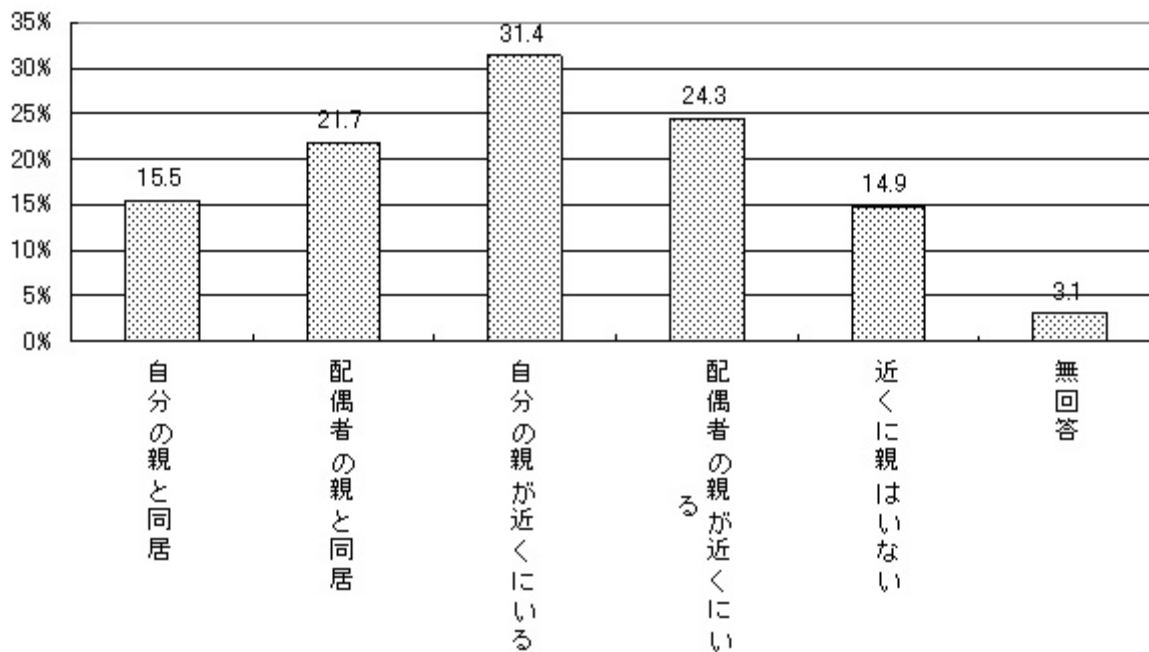
図表2-1-7 居住地(単数回答 n=12,895)



### (8)親との同別居

親との同別居の状況は、身近に親がいる人が約8割を占め、「近くに親はいない」は14.9%であった。(図表2-1-8)

図表2-1-8 親との同別居(複数回答 n=12,895)



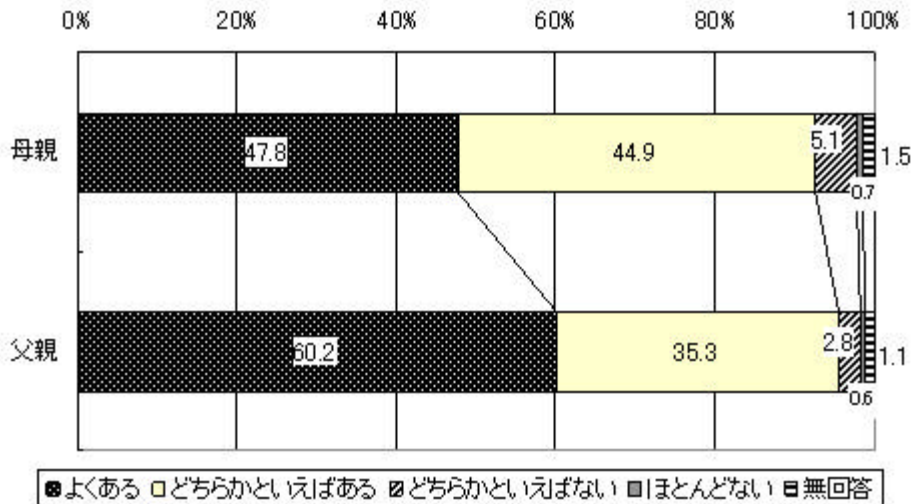
## 2. 子育てをしていて日ごろ感じることについて

### (1) 子どもと一緒にいることで安らぐか？

子どもと一緒にいることで安らぐかを尋ねたところ、「よくある」または「どちらかといえばある」と回答している割合は、母親は92.7%、父親も95.5%と、どちらも9割を超えている。

「よくある」の回答(母親47.8%、父親60.2%)の差をみると、父親のほうが子どもと一緒にいることで安らぎを感じている人の割合が高い。(図表2-1-9)

図表2-1-9 子どもと一緒にいることで安らぐ【性別】  
(単数回答 母親 n=8,563 父親 n=3,995)

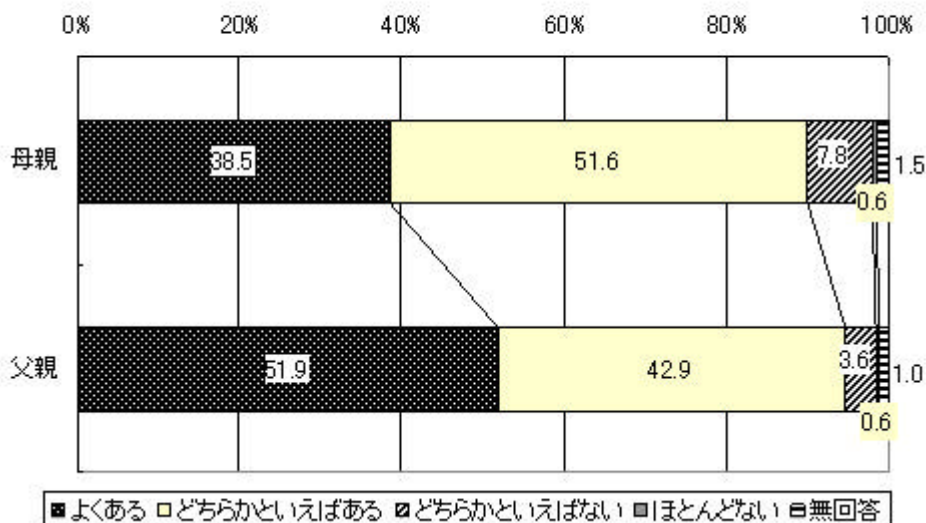


### (2) 生活に張り合い・やる気を感じるか？

生活に張り合い・やる気を感じるかについては、「よくある」または「どちらかといえばある」と回答している割合は、母親は90.1%、父親も94.8%とどちらも9割を超えている。

「よくある」の回答(母親38.5%、父親51.9%)の差をみると、父親のほうが子育てをしていて生活に張り合い・やる気を感じる人の割合が高い。(図表2-1-10)

図表2-1-10 生活に張り合い・やる気を感じる【性別】  
(単数回答 母親 n=8,563 父親 n=3,995)

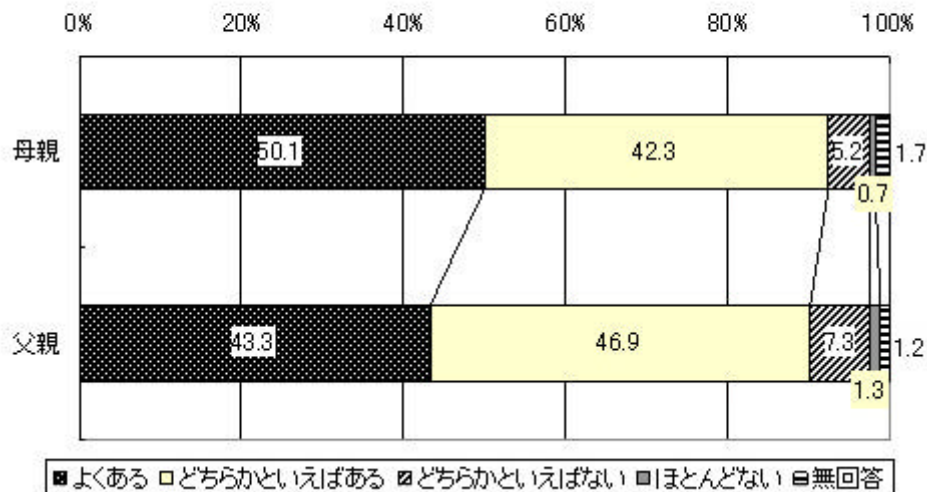


(3)子育てをしていることによって自分も人間的に成長していると感じるか？

子育てをしていることによって自分も人間的に成長していると感じるかについては、「よくある」または「どちらかといえばある」と回答している割合は、母親は92.4%、父親も90.2%とどちらも9割を超えている。

「よくある」の回答（母親50.1%、父親43.3%）の差をみると、母親のほうが子育てをしていることによって自分も人間的に成長していると感じる人の割合がやや高い。（図表2-1-11）

図表2-1-11 子育てしていることによって自分も人間的に成長していると感じる【性別】  
 (単数回答 母親 n=8,563 父親 n=3,995)



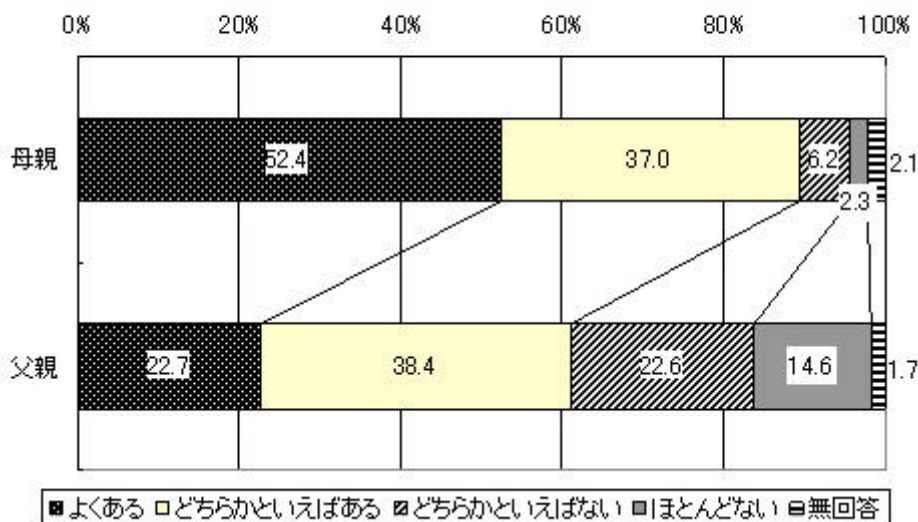


#### (4)子どもを通じて友だちが増えたか？

子どもを通じて友だちが増えたかについては、「よくある」または「どちらかといえばある」と回答している割合は、母親は89.4%で9割近いのに対して、父親は61.1%と6割強にとどまった。

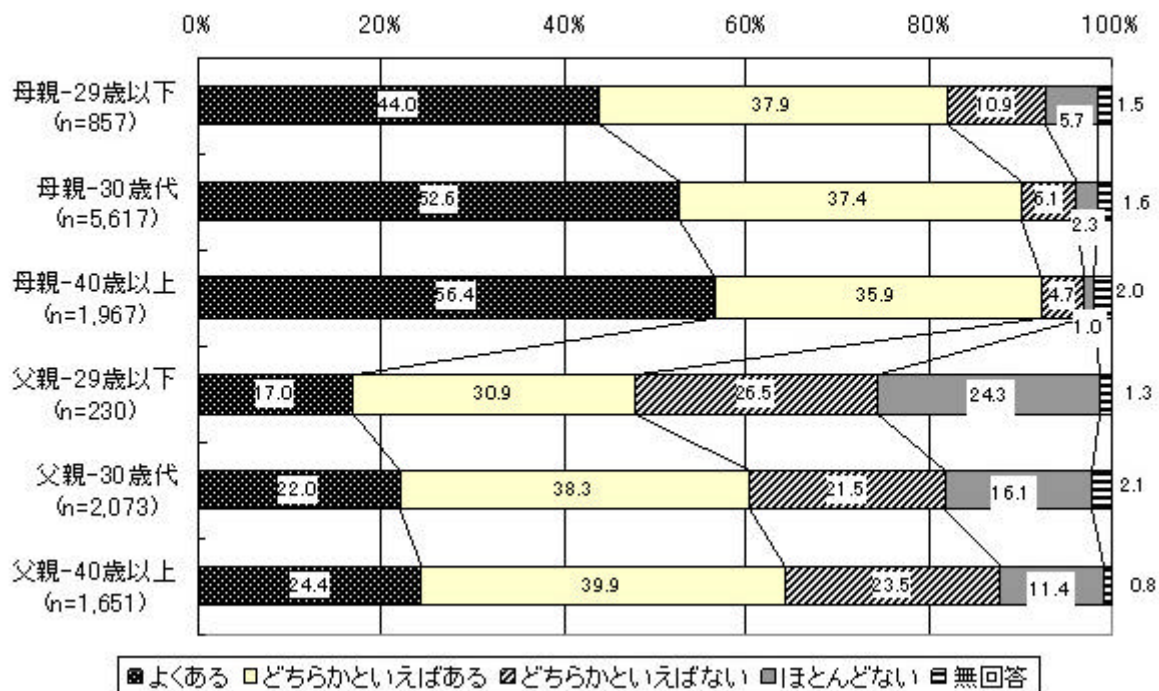
「よくある」の回答（母親52.4%、父親22.7%）の差をみると、母親のほうが子どもを通じて友だちが増えたと感じる人の割合が高い。（図表2-1-12）

図表2-1-12 子どもを通じて友達が増えた【性別】  
（単数回答 母親 n=8,563 父親 n=3,995）



性・年齢別にみると、母親と父親ともに、年代が若いほど子どもを通じて友だちが増えた人の割合が低くなっている。また、父親では「よくある」または「どちらかといえばある」と回答している割合は、どの年代も母親の半分以下となっている。（図表2-1-13）

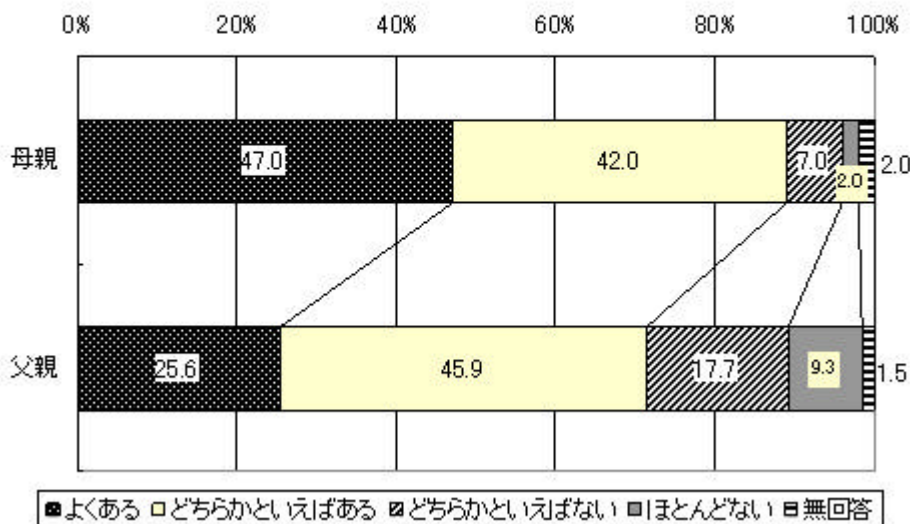
図表2-1-13 子どもを通じて友達が増えた【性・年齢別】（単数回答）



(5)子どもを通じて地域を知るきっかけが増えたか？

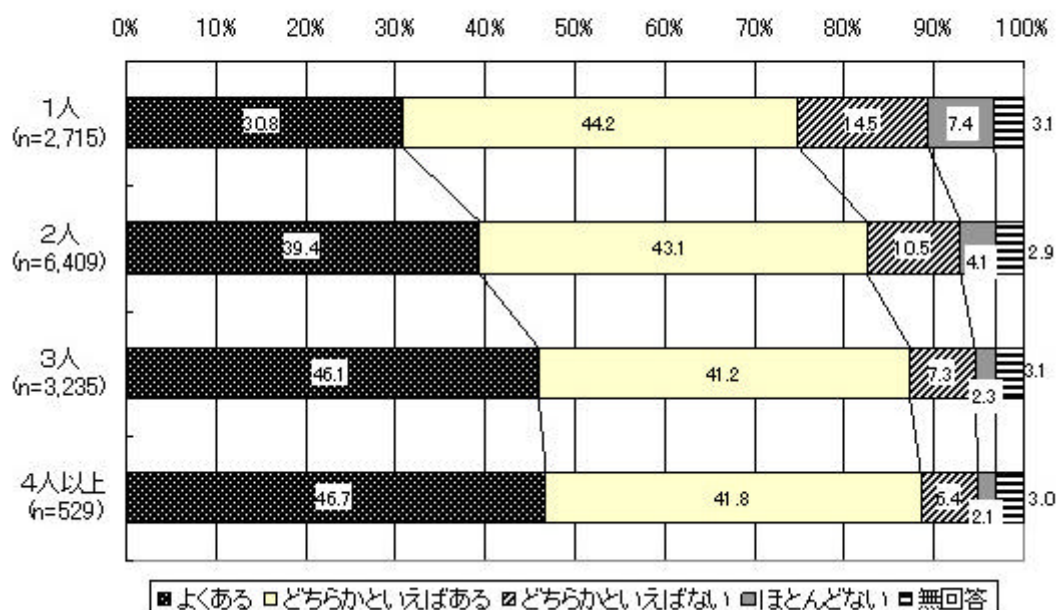
子どもを通じて地域を知るきっかけが増えたかについては、「よくある」または「どちらかといえばある」と回答している割合は、母親は89.0%と9割近いのに対して、父親は71.5%と7割強であった。「よくある」の回答（母親47.0%、父親25.6%）の差をみると、母親のほうが子どもを通じて地域を知るきっかけが増えたと感じる人の割合が高い。（図表2-1-14）

図表2-1-14 子どもを通じて地域を知るきっかけが増えた【性別】  
（単数回答 母親 n=8,563 父親 n=3,995）



子どもの人数別にみると、子どもの数が多いほど、「よくある」割合が増えている。（図表2-1-15）

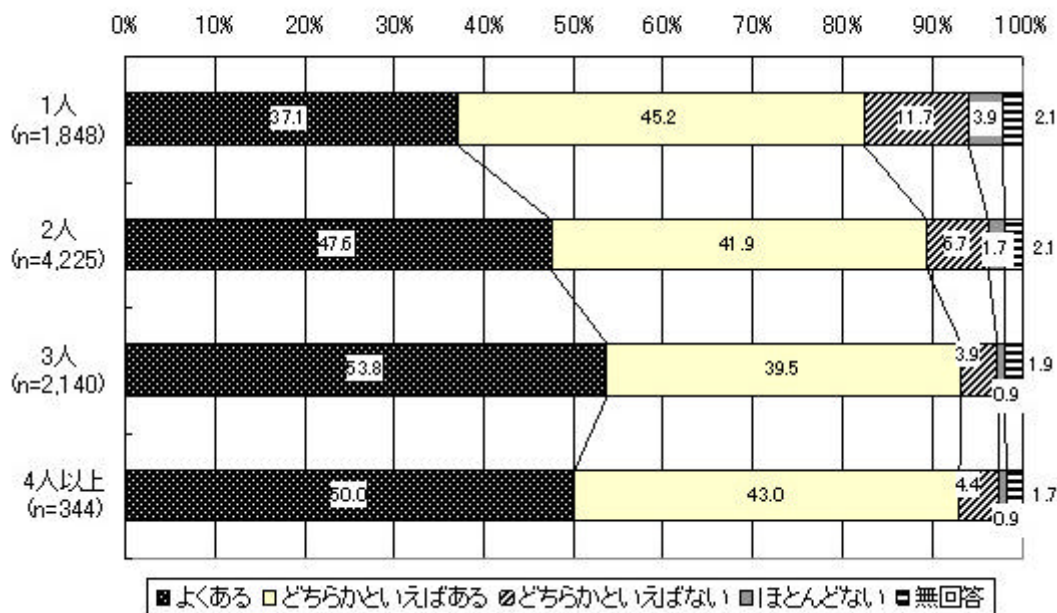
図表2-1-15 子どもを通じて地域を知るきっかけが増えた【子どもの数別】  
（単数回答）



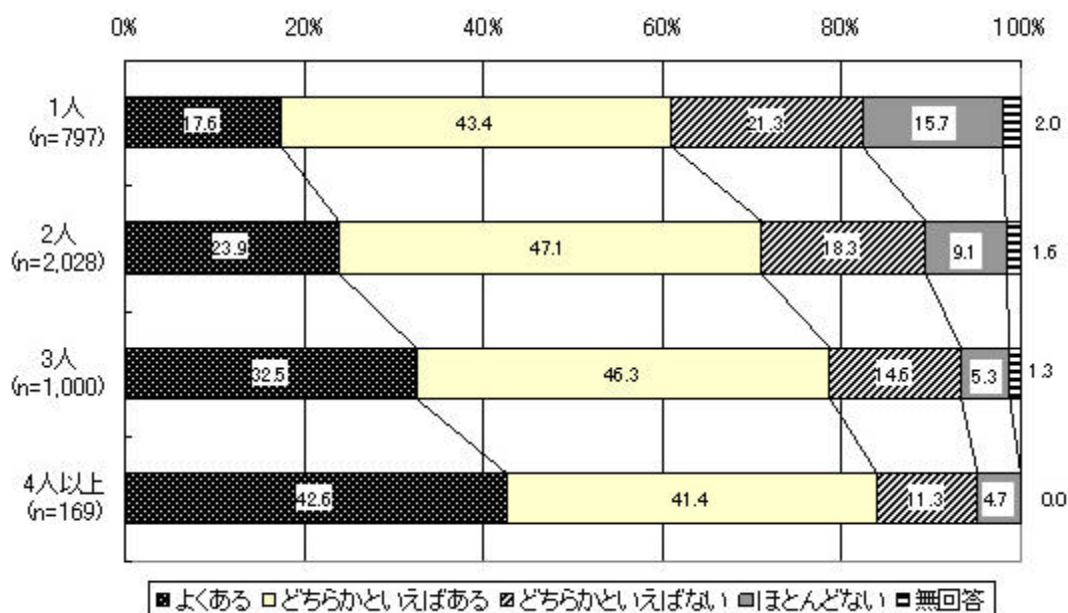
地域を知るきっかけについて、子どもの数別をさらに性別にみると、母親と父親ともに子どもの数が増えるにしたがって「よくある」または「どちらかといえばある」と回答している割合は増えている。

ただし、子どもの数が1人の場合の「よくある」または「どちらかといえばある」の回答の割合の差をみると、母親が82.3%、父親が61.0%と21.3ポイントの差があるが、4人以上の場合にはこの差は、母親93.0%、父親84.0%で9.0ポイントとなり、子どもの数が多くなるほど母親と父親の差が小さくなっている。(図表2-1-16、図表2-1-17)

図表2-1-16 子どもを通じて地域を知るきっかけが増えた【母親・子どもの数別】  
(単数回答)

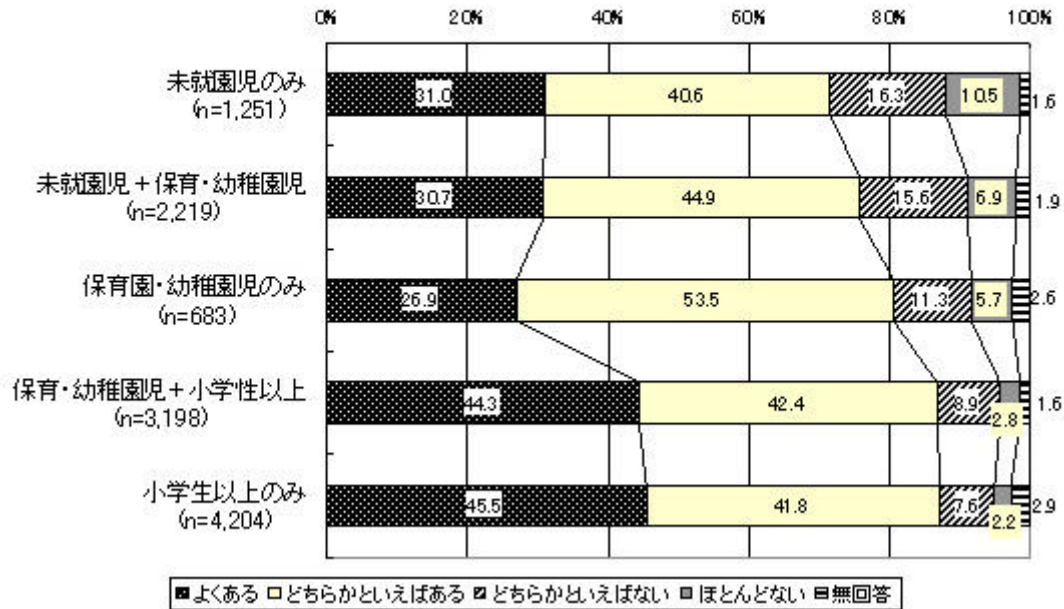


図表2-1-17 子どもを通じて地域を知るきっかけが増えた【父親・子どもの数別】  
(単数回答)



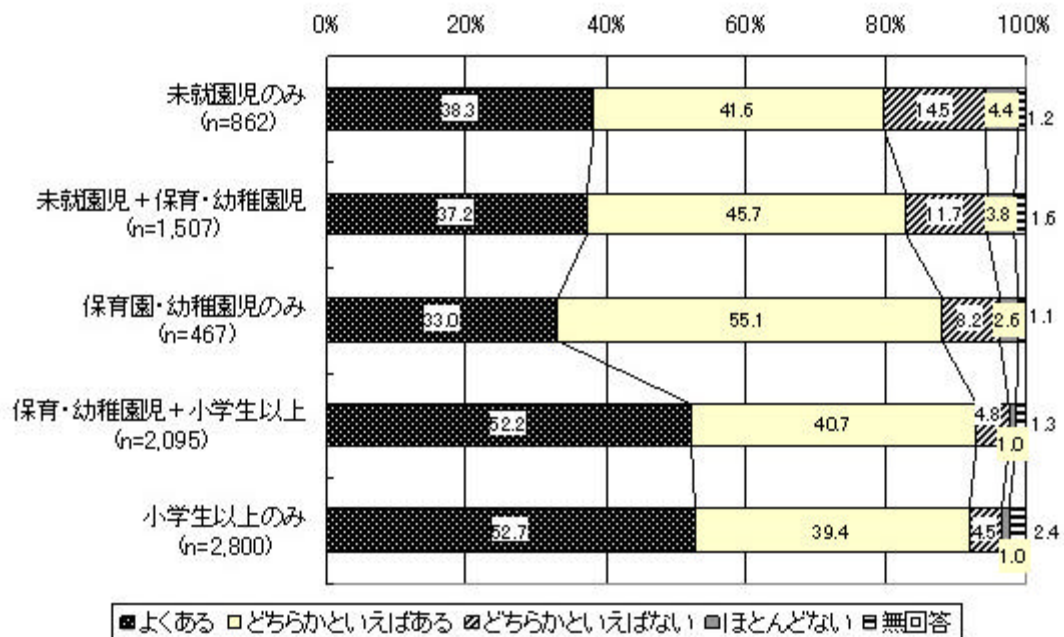
地域を知るきっかけについて、子どもの学齢別にみると、小学生がいる家庭のほうが、いない家庭よりも、「よくある」割合が高くなっている。(図表2-1-18)

図表2-1-18 子どもを通じて地域を知るきっかけが増えた【子どもの学齢別】  
(単数回答)



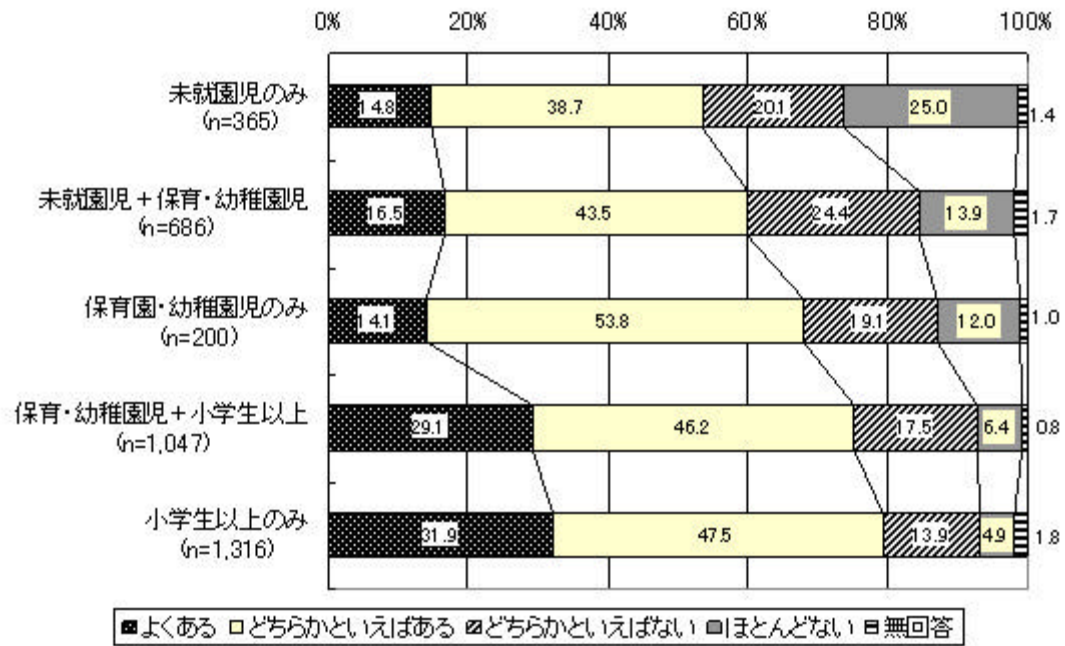
地域を知るきっかけについて、子どもの学齢別をさらに母親・父親別にみると、やはり母親よりも父親のほうがすべての学齢の場合で「よくある」割合が低くなっている。(図表2-1-19、図表2-1-20)

図表2-1-19 子どもを通じて地域を知るきっかけが増えた【母親・子どもの学齢別】  
(単数回答)





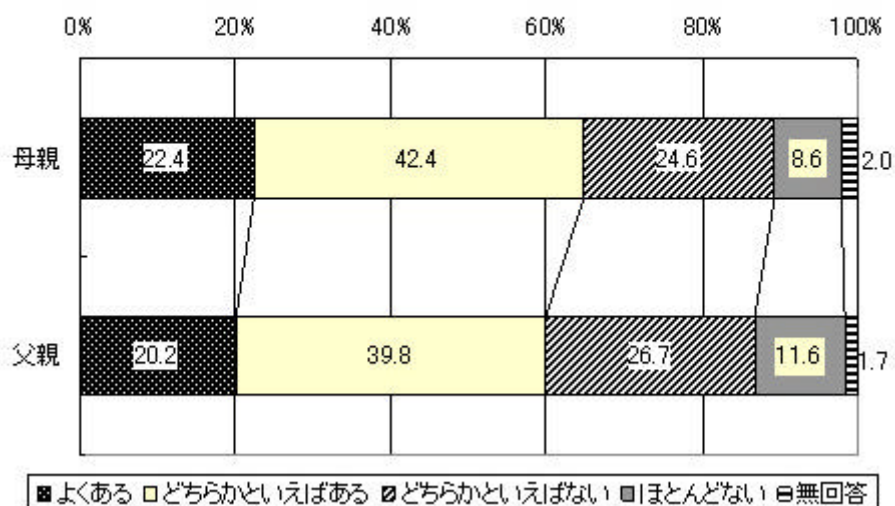
図表2-1-20 子どもを通じて地域を知るきっかけが増えた【父親・子どもの学齢別】  
(単数回答)



(6) 経済的に不安を感じるか？

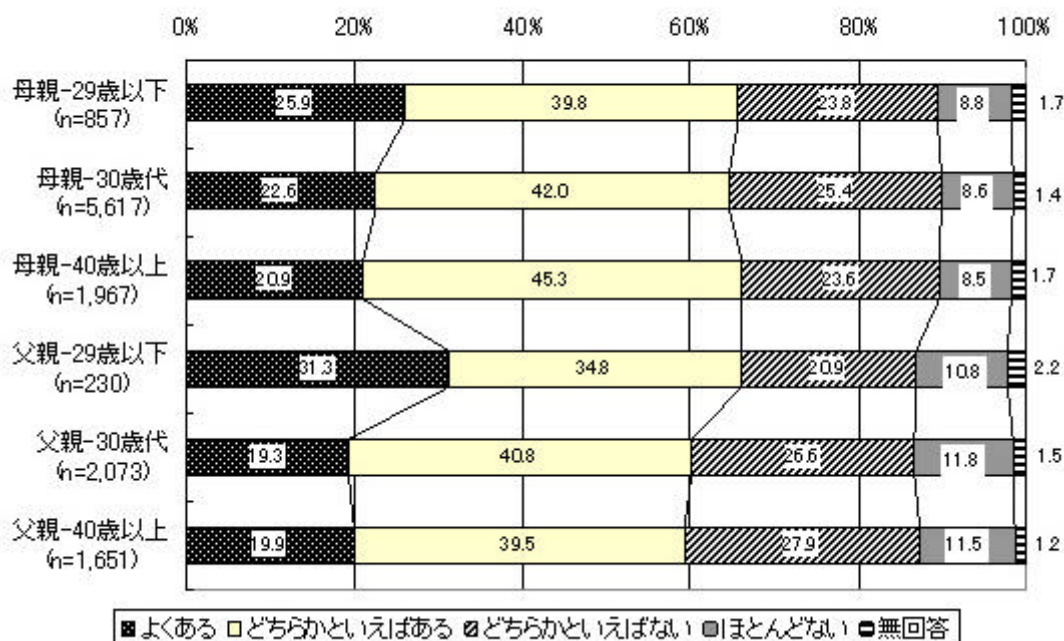
経済的に不安を感じるかについては、「よくある」または「どちらかといえばある」と回答している割合は、母親は64.8%、父親は60.0%と、ともに6割に達している。(図表2-1-21)

図表2-1-21 経済的に不安を感じる【性別】  
(単数回答 母親 n=8,563 父親 n=3,995)



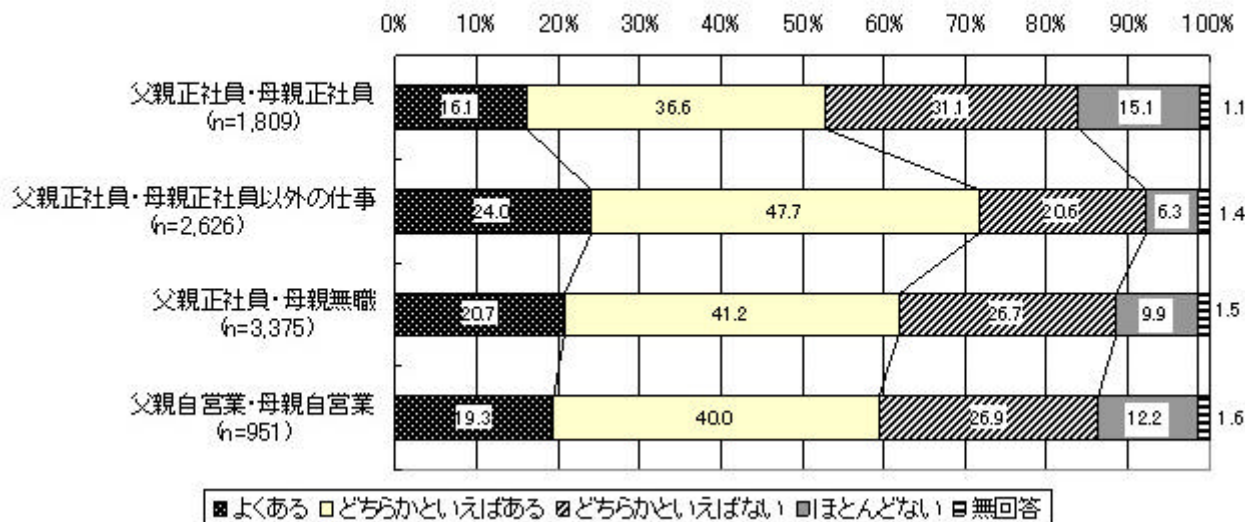
性・年齢別にみると、母親と父親ともに、年代が若いほど「よくある」と回答している人の割合が高くなっている。(図表2-1-22)

図表2-1-22 経済的に不安を感じる【性・年齢別】(単数回答)



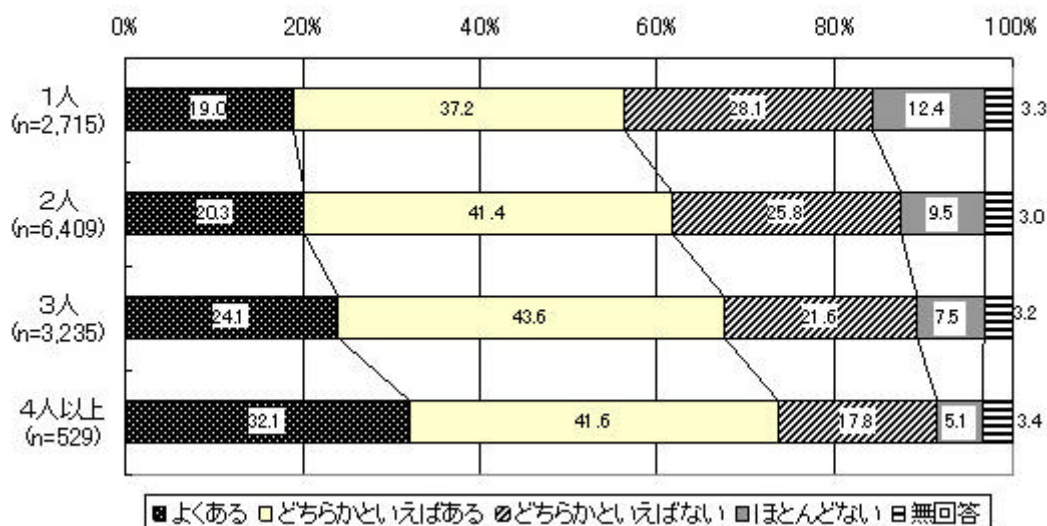
経済的な不安について、夫婦の就労状況別にみると、「父親正社員・母親正社員以外の仕事」の夫婦の不安が、「よくある」または「どちらかといえばある」をあわせて 71.7%と、他の就労状況よりも高い割合になっている。(図表 2 - 1 - 23)

図表2-1-23 経済的に不安を感じる【夫婦の就労状況別】(単数回答)



経済的な不安について、子どもの数別にみると、「よくある」または「どちらかといえばある」と回答している割合は、子どもが1人では 56.2%、2人では 61.7%、3人では 67.7%、4人以上では 73.7%と、子どもの数が増えるほど経済的な不安を感じる人の割合も高くなっている。(図表 2 - 1 - 24)

図表2-1-24 経済的に不安を感じる【子どもの数別】(単数回答)

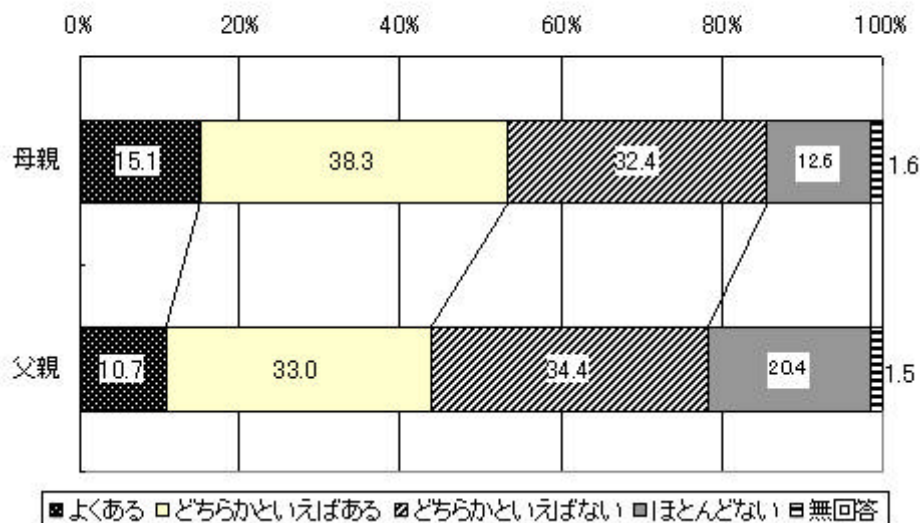


(7)体力的に不安を感じるか？

体力的に不安を感じるかについては、「よくある」または「どちらかといえばある」と回答している割合は、母親は53.4%で、父親は43.7%であった。

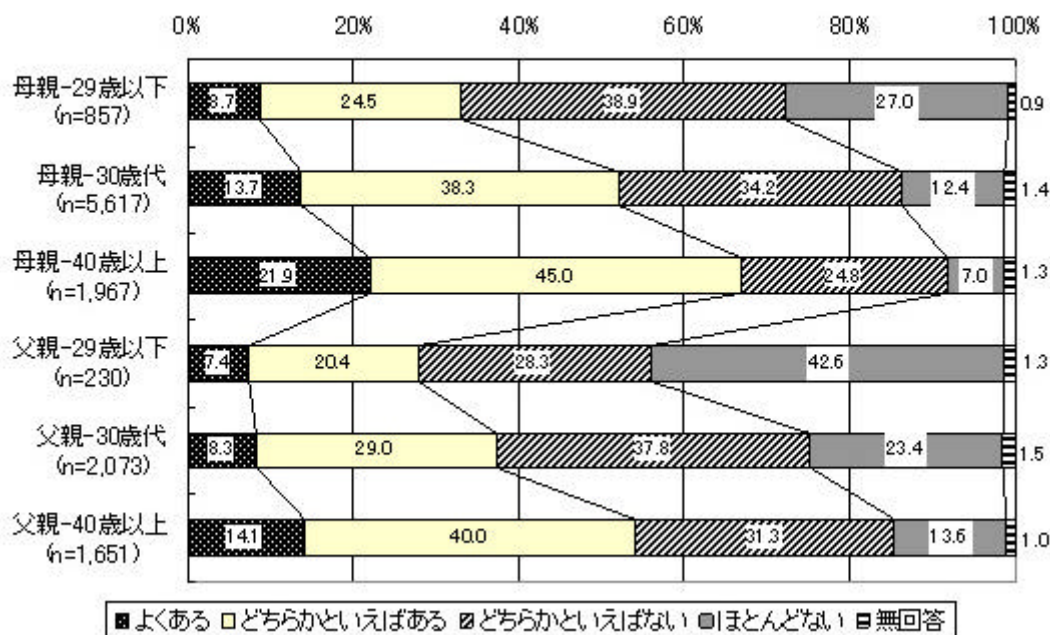
「よくある」(母親15.1%、父親10.7%)と「ほとんどない」(母親12.6%、父親20.4%)の母親と父親の回答の差に表れているように、母親のほうが体力的な不安を感じている人の割合が高いといえよう。(図表2-1-25)

図表2-1-25 体力的に不安を感じる【性別】  
(単数回答 母親 n=8,563 父親 n=3,995)



性・年齢別にみると、母親、父親ともに年齢が上がるほど体力的な不安を感じている人の割合が高くなるが、その割合は母親のほうが高い。(図表2-1-26)

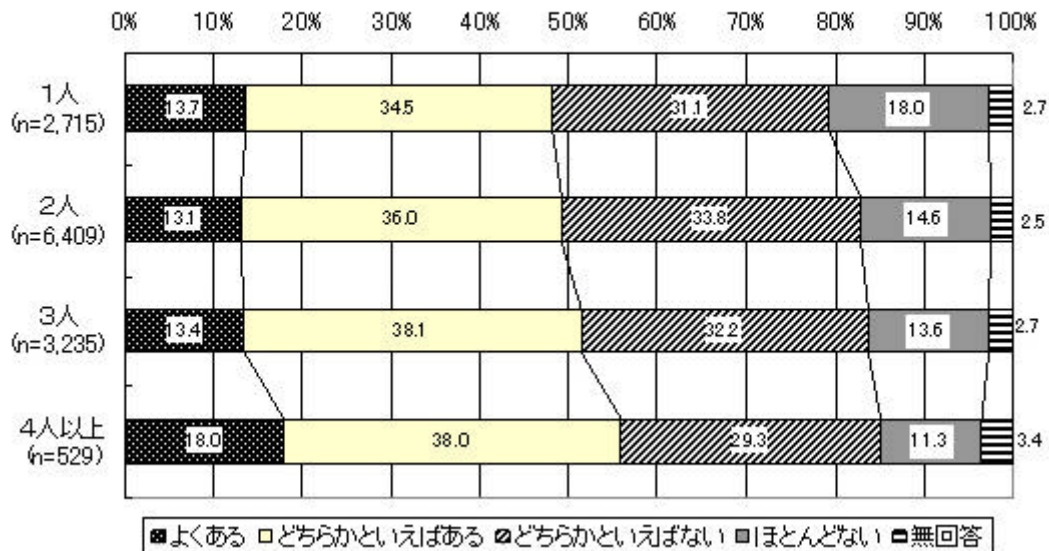
図表2-1-26 体力的に不安を感じる【性・年齢別】(単数回答)





体力的な不安について、子どもの数別にみると、「よくある」または「どちらかといえばある」と回答している割合は、子どもの数が増えるにつれて漸増するが、「よくある」と回答している割合だけを見ると、子どもが4人以上いる人が18.0%だが、子どもが1～3人の人では「よくある」と回答している割合にほとんど違いはなかった。(図表2-1-27)

図表2-1-27 体力的に不安を感じる【子どもの数別】(単数回答)

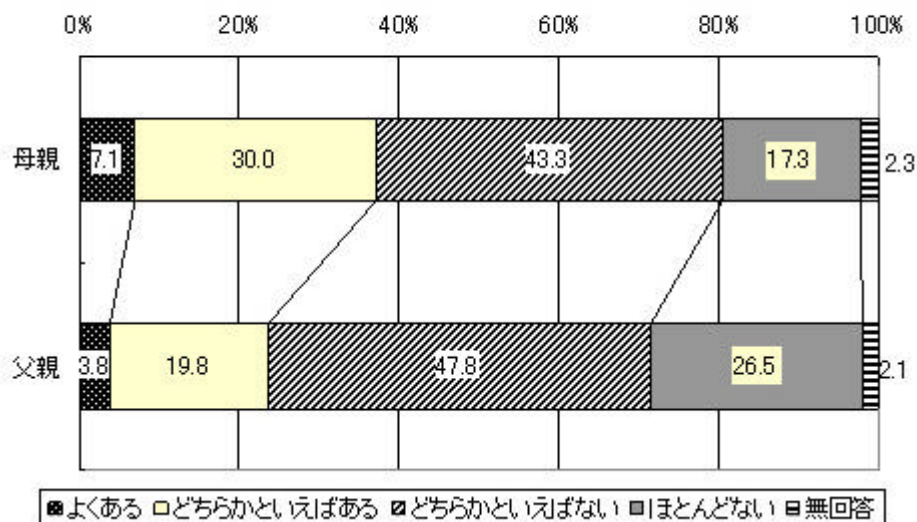


(8)人間関係(人付き合い)に不安を感じるか？

人間関係(人付き合い)に不安を感じるかについては、「ほとんどない」または「どちらかといえばない」と回答している割合は、母親は60.6%で、父親は74.3%であったが、「よくある」または「どちらかといえばある」と回答している母親は、父親の約1.6倍となっている。

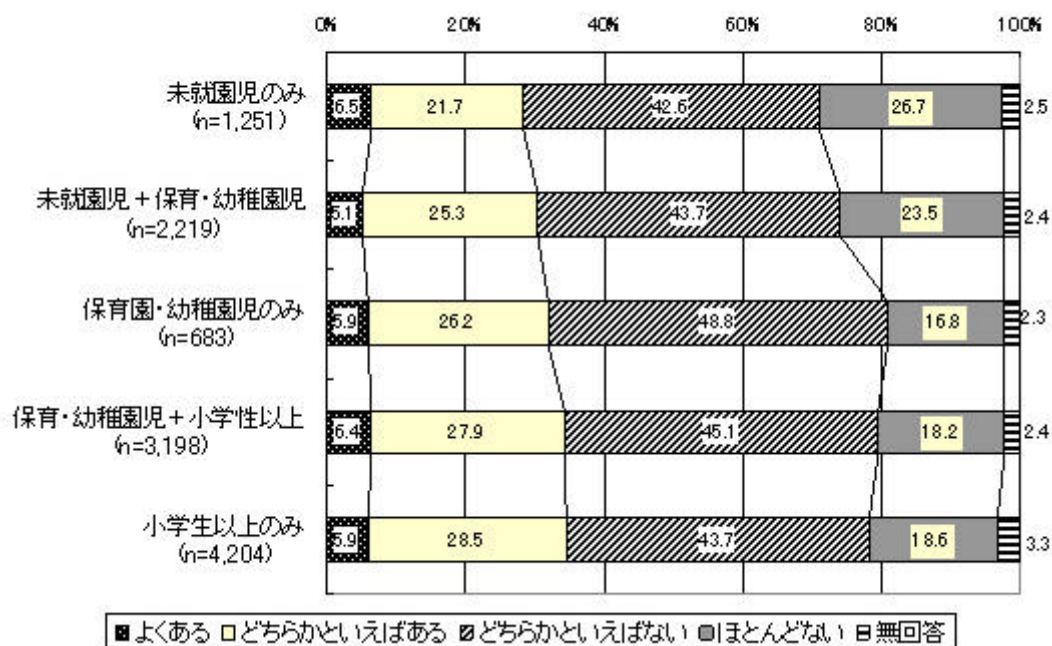
(図表2-1-28)

図表2-1-28 人間関係(人付き合い)に不安を感じる【性別】  
(単数回答 母親 n=8,563 父親 n=3,995)



子どもの学齢別にみると、子どもが大きくなるにつれて人間関係(人付き合い)に不安を感じる人の割合が漸増している。(図表2-1-29)

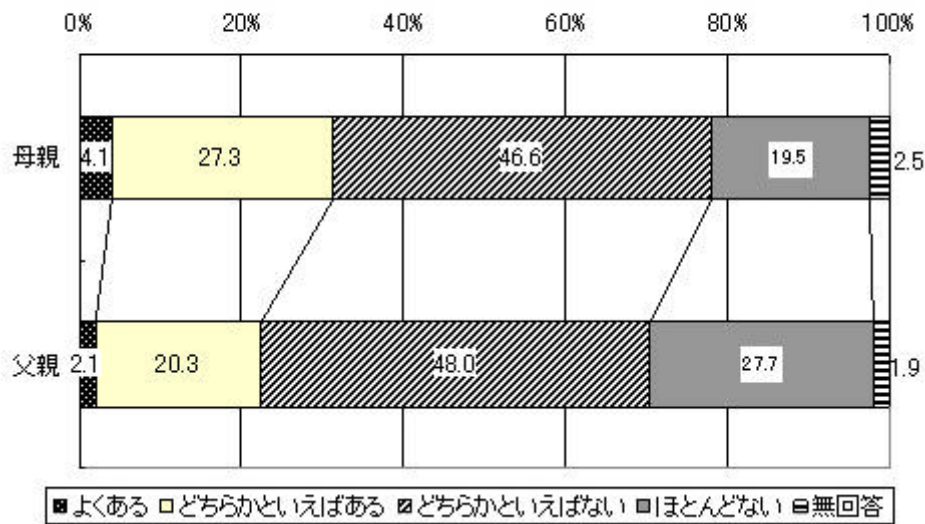
図表2-1-29 人間関係(人付き合い)に不安を感じる【子どもの学齢別】(単数回答)



(9)子どもをどう育てていいかわからないことがあるか？

子どもをどう育てていいかわからないことがあるかを尋ねたところ、「ほとんどない」または「どちらかといえばない」と回答している割合は、母親は66.1%、父親は75.7%であった。ただし、子どもをどう育てていいかわからないと感じている人は、母親で約3割、父親で約2割あった。  
 (図表2-1-30)

図表2-1-30 子どもをどう育てていいかわからない【性別】  
 (単数回答 母親 n=8,563 父親 n=3,995)



(10)配偶者が協力的でなくつらいことがあるか？

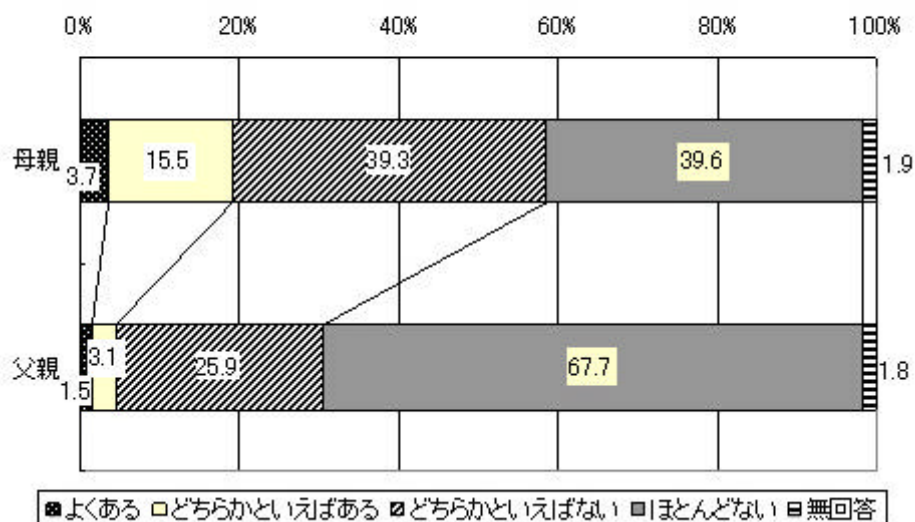
配偶者が協力的でなくつらいことがあるかを尋ねたところ、「ほとんどない」または「どちらかといえはない」と回答している割合は、母親は78.9%で、父親は93.6%であった。

母親で約8割、父親で約9割の人が配偶者は協力的であると感じているが、協力的でなくつらいと感じている人は、母親では19.2%と約2割あったが、父親では4.6%であった。

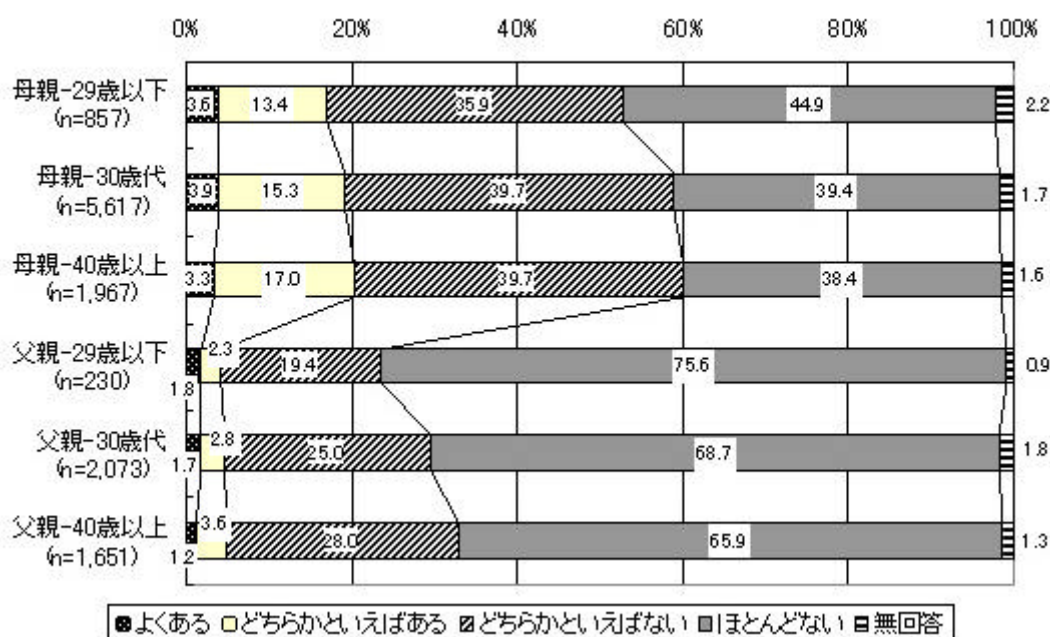
(図表2-1-31)

この傾向は、年代別にもすべての年代でうかがえる。(図表2-1-32)

図表2-1-31 配偶者が協力的でなくつらい【性別】  
(単数回答 母親 n=8,563 父親 n=3,995)



図表2-1-32 配偶者が協力的でなくつらい【性・年齢別】(単数回答)

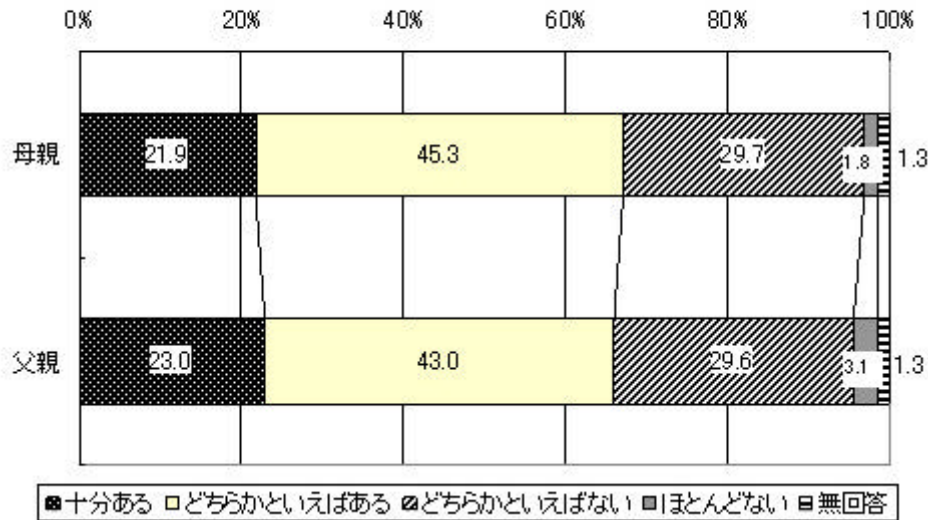


### 3. 生活の中で感じることにについて

#### (1) 睡眠時間

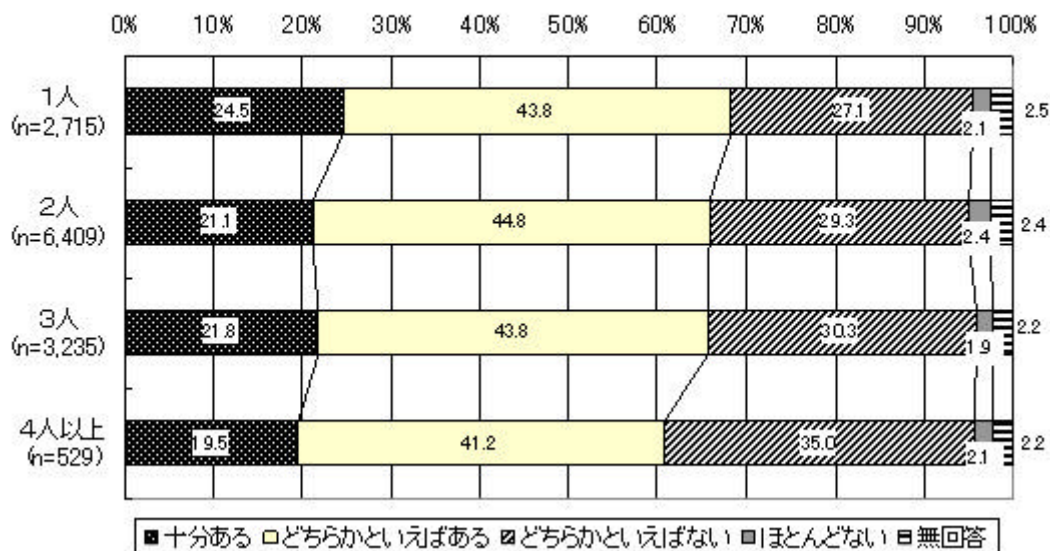
睡眠時間について尋ねたところ、「十分ある」または「どちらかといえばある」と回答している割合は、母親は67.2%で、父親も66.0%と、どちらも6割強程度であった。しかし、「ほとんどない」または「どちらかといえばない」と回答している人が、母親と父親ともに約3割あった。  
(図表2-1-33)

図表2-1-33 睡眠時間【性別】  
(単数回答 母親 n=8,563 父親 n=3,995)



子どもの数別にみると、子どもの数が多くなるにつれ、睡眠時間がないと感じている人の割合がやや高くなっている。(図表2-1-34)

図表2-1-34 睡眠時間【子どもの数別】(単数回答)

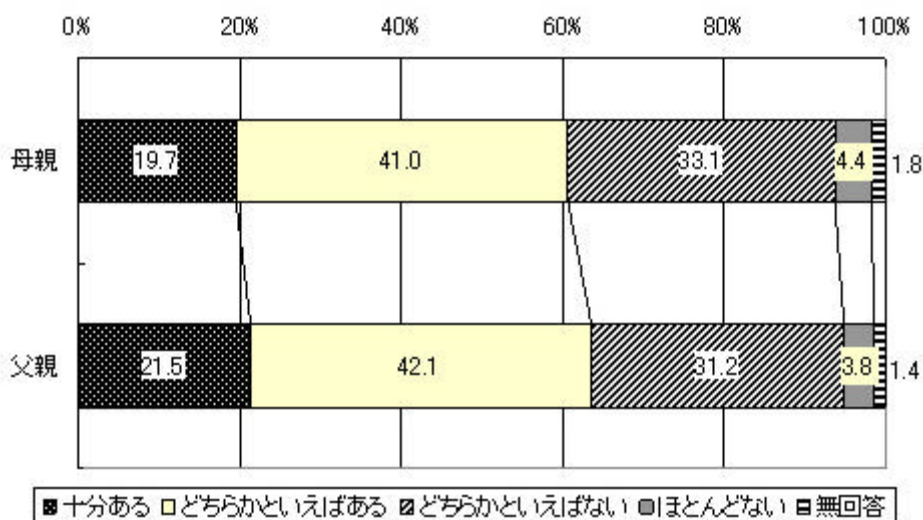




## (2)食事をゆっくりとる時間

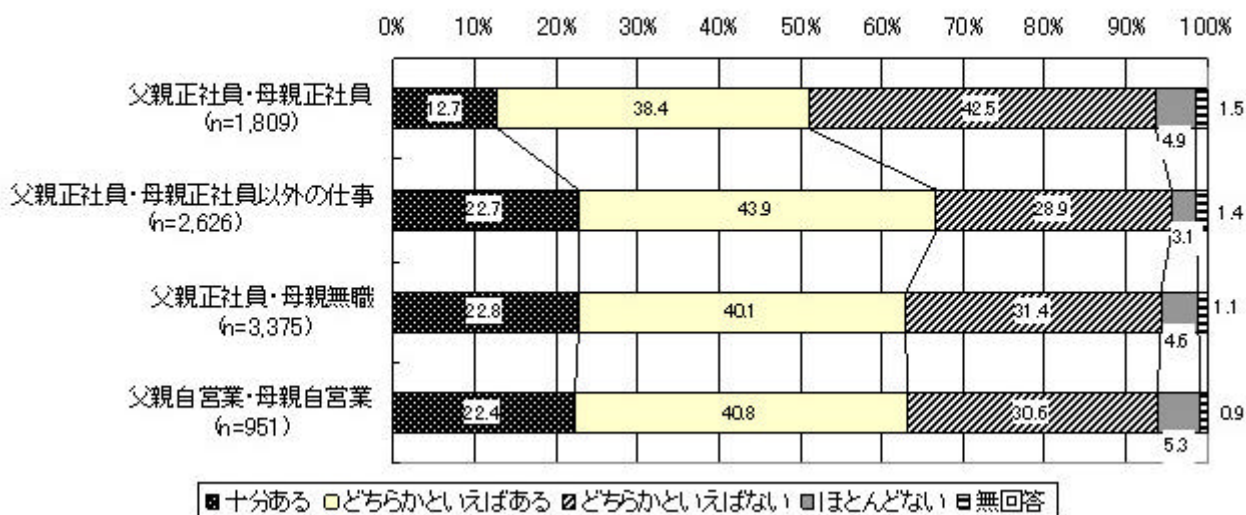
食事をゆっくりとる時間について尋ねたところ、「十分ある」または「どちらかといえばある」と回答している割合は、母親は60.7%で、父親も63.6%と、どちらも6割強程度であった。しかし、「ほとんどない」または「どちらかといえばない」と回答している人が、母親と父親ともに3割強あった。(図表2-1-35)

図表2-1-35 食事をゆっくりとる時間【性別】  
(単数回答 母親 n=8,563 父親 n=3,995)



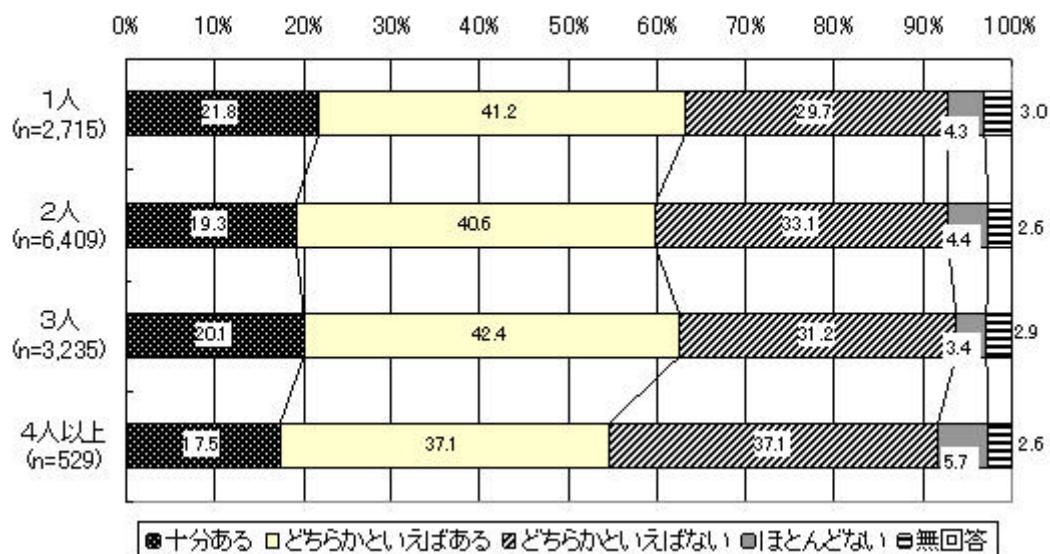
夫婦の就労状況別にみると、父親正社員・母親正社員のケースが、他の就労状況の組み合わせよりも食事をゆっくりとる時間がないと感じている割合が高かった。(図表2-1-36)

図表2-1-36 食事をゆっくりとる時間【夫婦の就労状況別】(単数回答)



食事の時間について、子どもの数別にみると、子どもの数が多くなるにつれ、食事をゆっくりとる時間がないと感じている人の割合が高くなっている。(図表2-1-37)

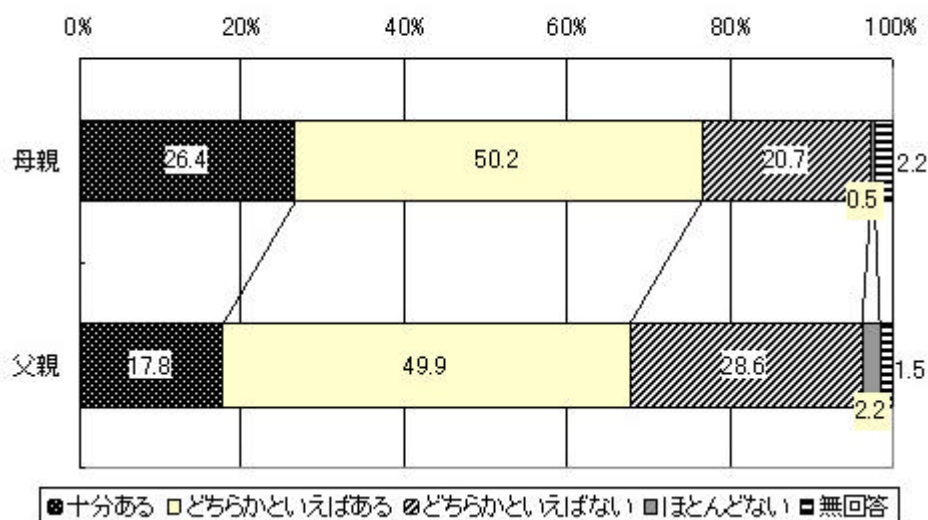
図表2-1-37 食事をゆっくりとる時間【子どもの数別】(単数回答)



### (3)子どもとのスキンシップ

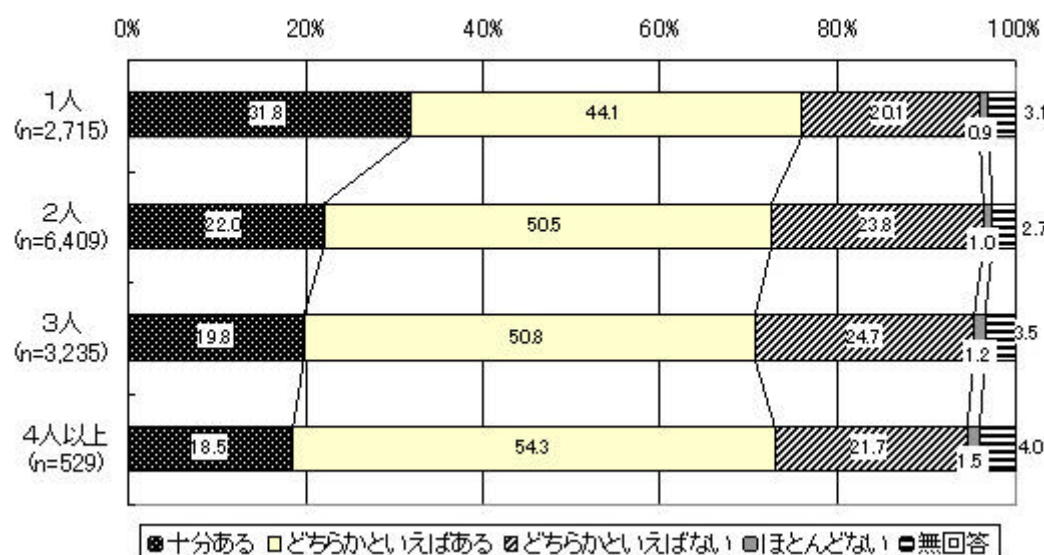
子どもとのスキンシップについて尋ねたところ、「十分ある」または「どちらかといえばある」と回答している割合は、母親は76.6%で、父親は67.7%であった。しかし、「ほとんどない」または「どちらかといえばない」と回答している割合は、母親で約2割、父親では約3割あった。(図表2-1-38)

図表2-1-38 子どもとのスキンシップ【性別】  
(単数回答 母親 n=8,563 父親 n=3,995)



子どもの数別にみると、子どもの数が多くなるにつれ、「十分ある」と回答している人の割合が、低くなっている。(図表2-1-39)

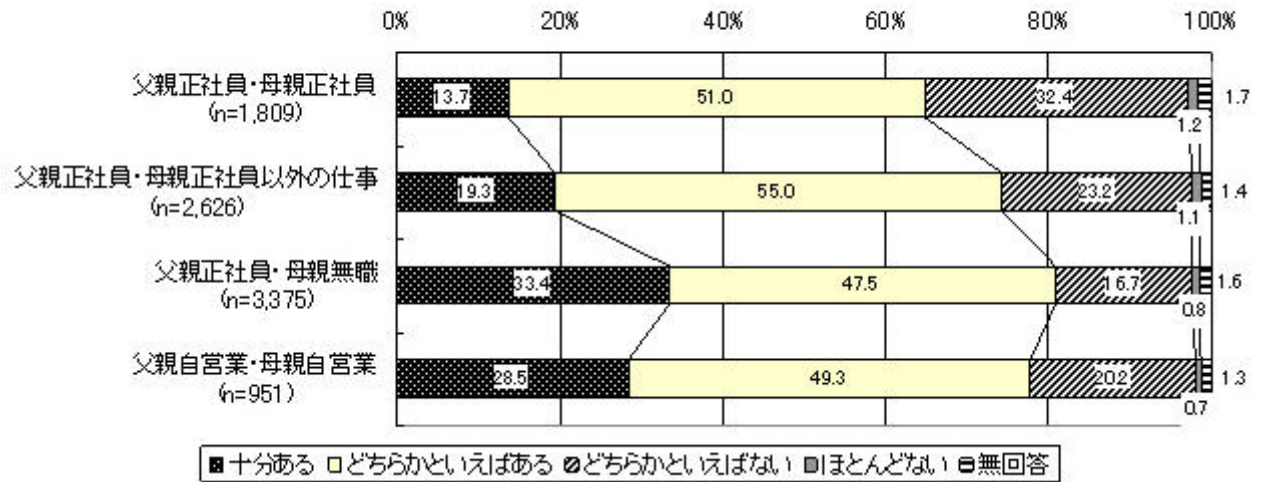
図表2-1-39 子どもとのスキンシップ【子どもの数別】(単数回答)





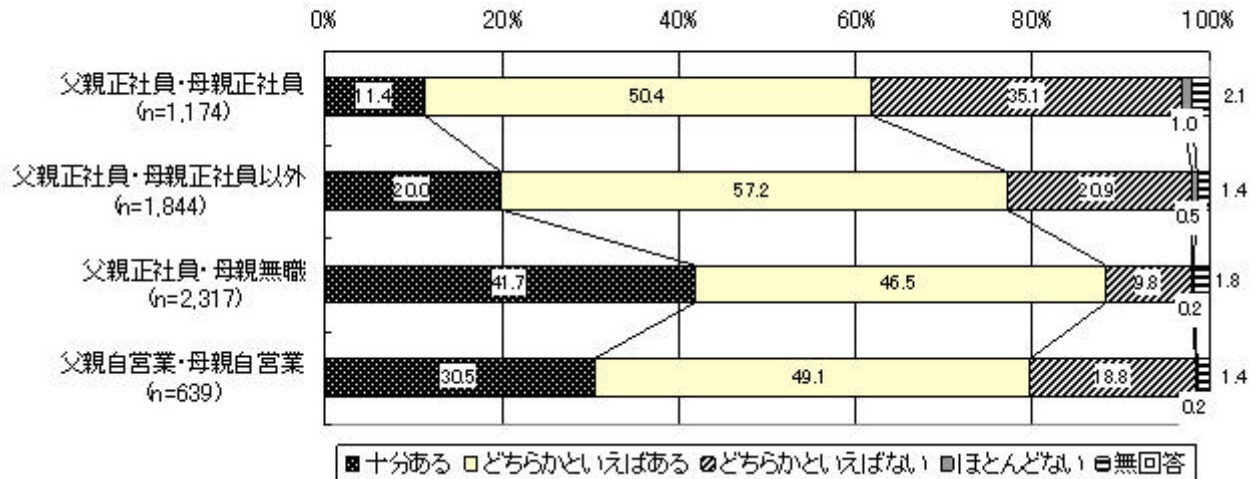
子どもとのスキンシップについて、夫婦の就労状況別にみると、父親正社員・母親正社員の場  
 合が、他の就労状況よりも子どもとのスキンシップをとる時間が十分ではないと感じている割合  
 が高かった。(図表2-1-40)

図表2-1-40 子どもとのスキンシップ【夫婦の就労状況別】(単数回答)

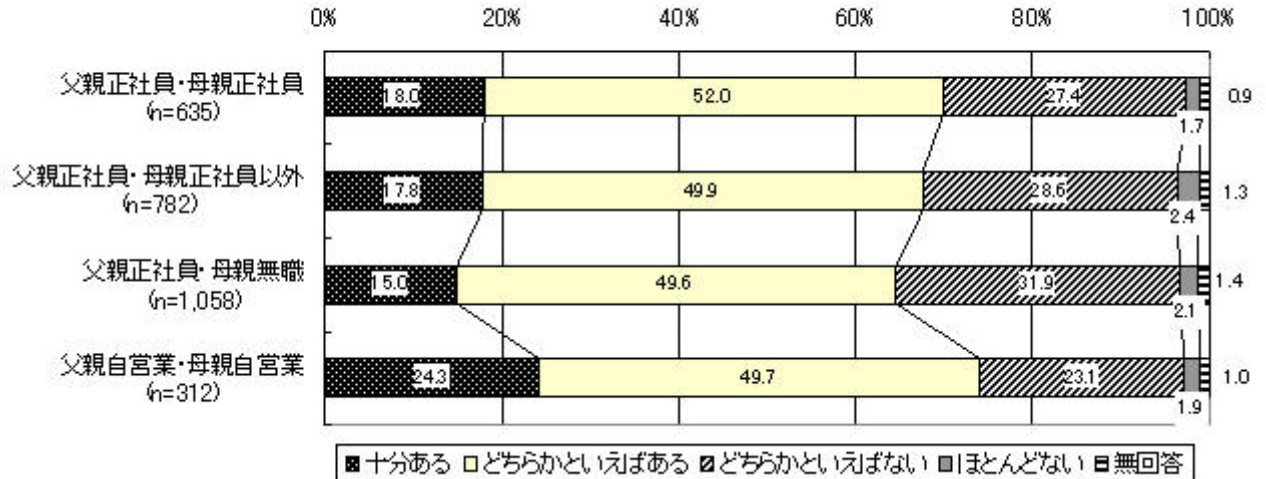


子どもとのスキンシップについて、さらに性別の就労状況別に「十分ある」または「どちらかといえばある」と回答した割合をみると、母親では父親正社員・母親無職の場合が88.2%と最も高かったが、父親では父親正社員・母親無職の場合が他の就労状況に比べて64.6%と最も低かった。(図表2-1-41、図表2-1-42)

図表2-1-41 子どもとのスキンシップ【母親・夫婦の就労状況別】(単数回答)



図表2-1-42 子どもとのスキンシップ【父親・夫婦の就労状況別】(単数回答)

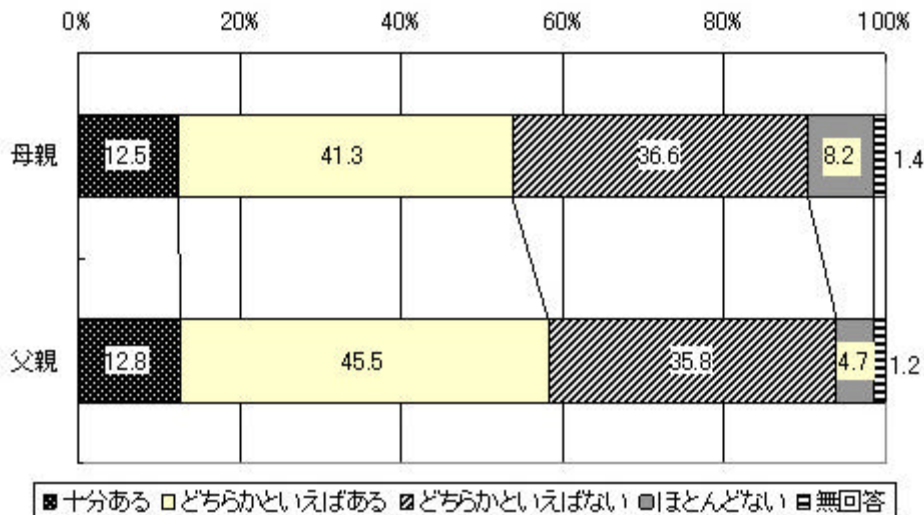


#### (4)夫婦でいろいろなことを話し合う時間

夫婦でいろいろなことを話し合う時間について尋ねたところ、「十分ある」または「どちらかといえばある」と回答している割合は、母親で53.8%、父親は58.3%であった。

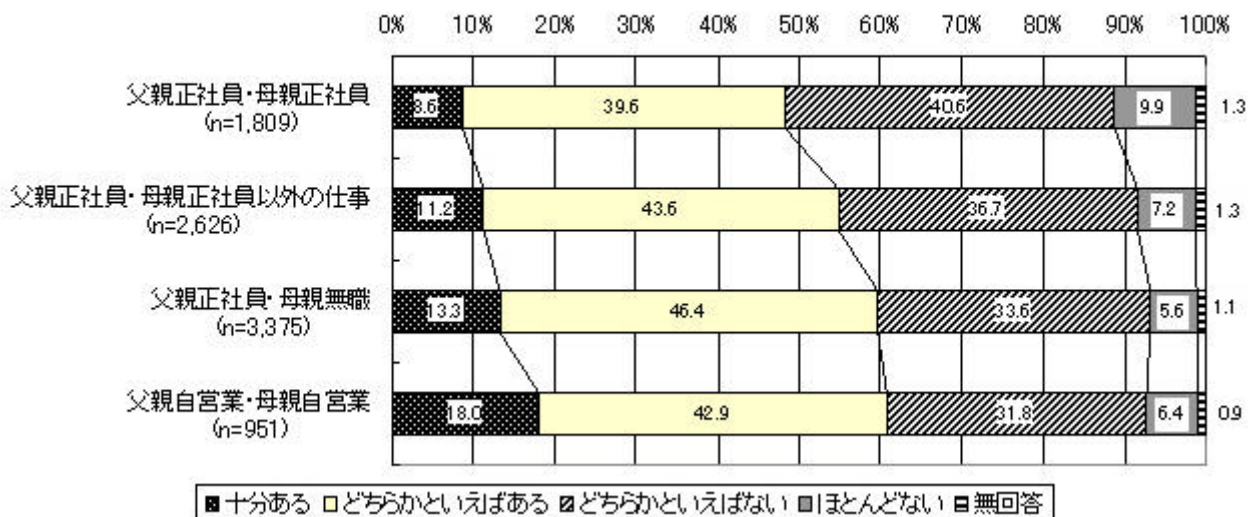
(図表2-1-43)

図表2-1-43 夫婦でいろいろなことを話し合う時間【性別】  
(単数回答 母親 n=8,563 父親 n=3,995)



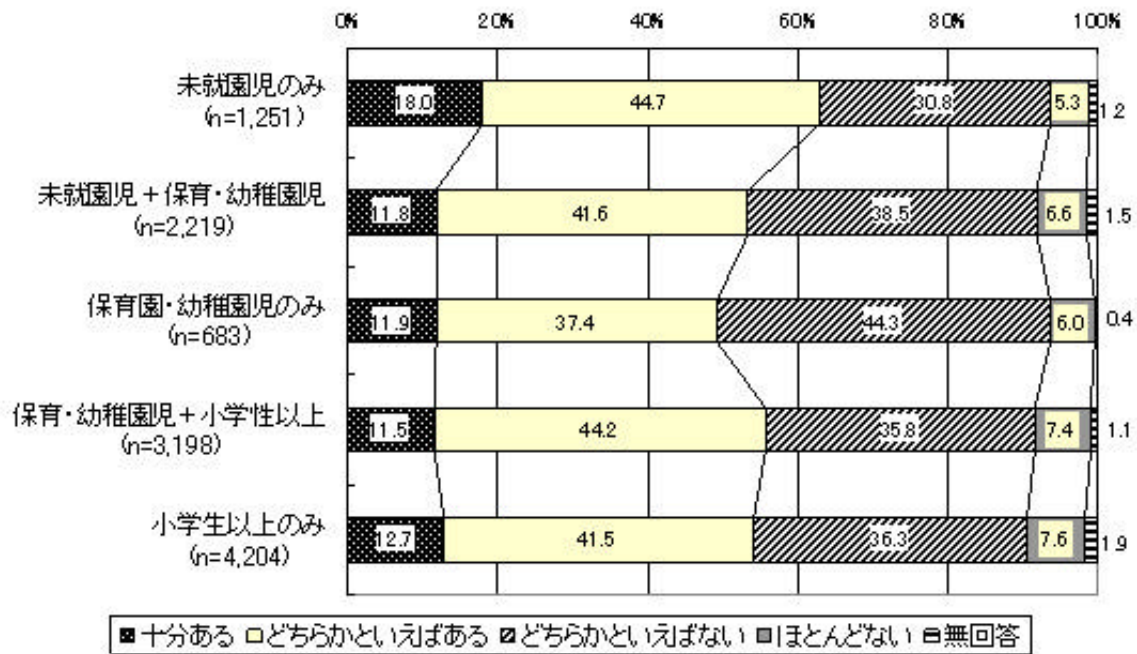
夫婦の就労状況別にみると、父親自営業・母親自営業の場合が「十分ある」または「どちらかといえばある」と回答している割合は、60.9%と最も高く、父親正社員・母親正社員の場合が、48.2%と最も低かった。(図表2-1-44)

図表2-1-44 夫婦でいろいろなことを話し合う時間【夫婦の就労状況別】(単数回答)



夫婦で話し合う時間について、子どもの学齢別にみると、未就園児のみの家庭が「十分ある」または「どちらかといえばある」と回答している割合が62.7%と最も高く、保育園・幼稚園児のみがいる家庭では49.3%と最も低かった。(図表2-1-45)

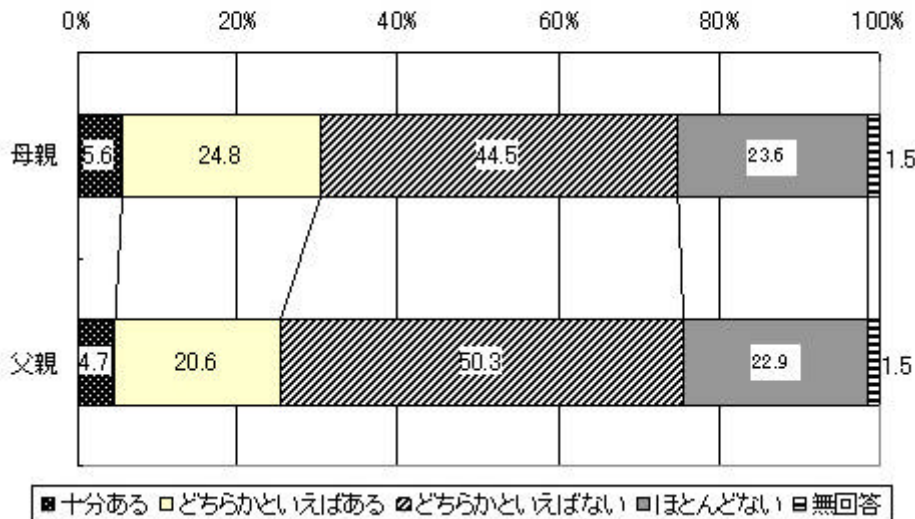
図表2-1-45 夫婦でいろいろなことを話し合う時間【子どもの学齢別】(単数回答)



(5)友だちとゆっくり会う時間

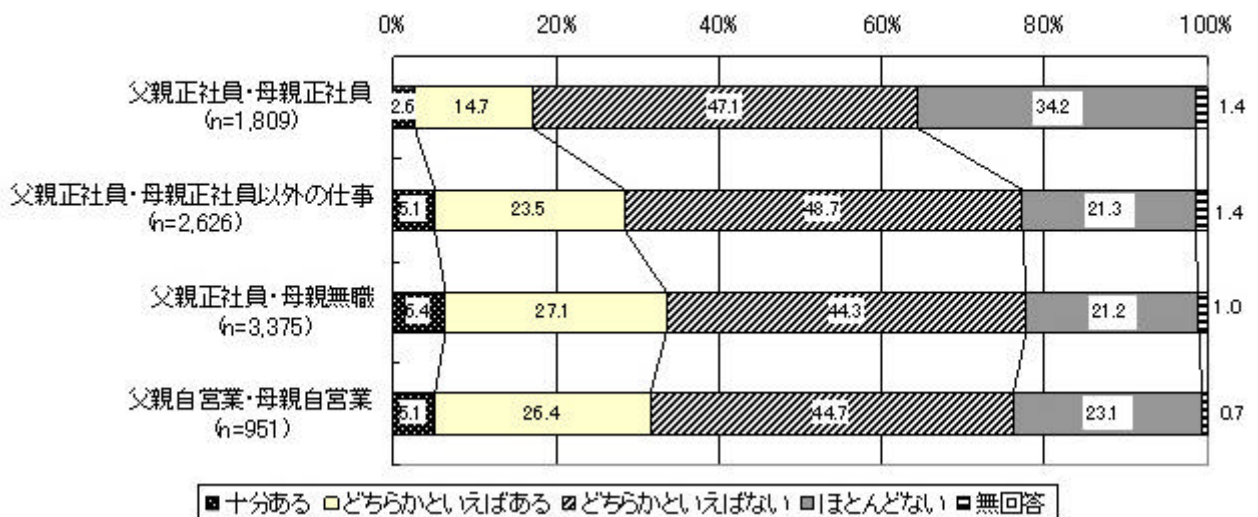
友だちとゆっくり会う時間について尋ねたところ、「ほとんどない」または「どちらかといえばない」と回答している割合は、母親で68.1%、父親は73.2%であった。(図表2-1-46)

図表2-1-46 友だちとゆっくり会う時間【性別】  
(単数回答 母親 n=8,563 父親 n=3,995)



夫婦の就労状況別にみると、父親正社員・母親正社員のケースが、「ほとんどない」または「どちらかといえばない」と回答している割合は81.3%と8割を超えている。(図表2-1-47)

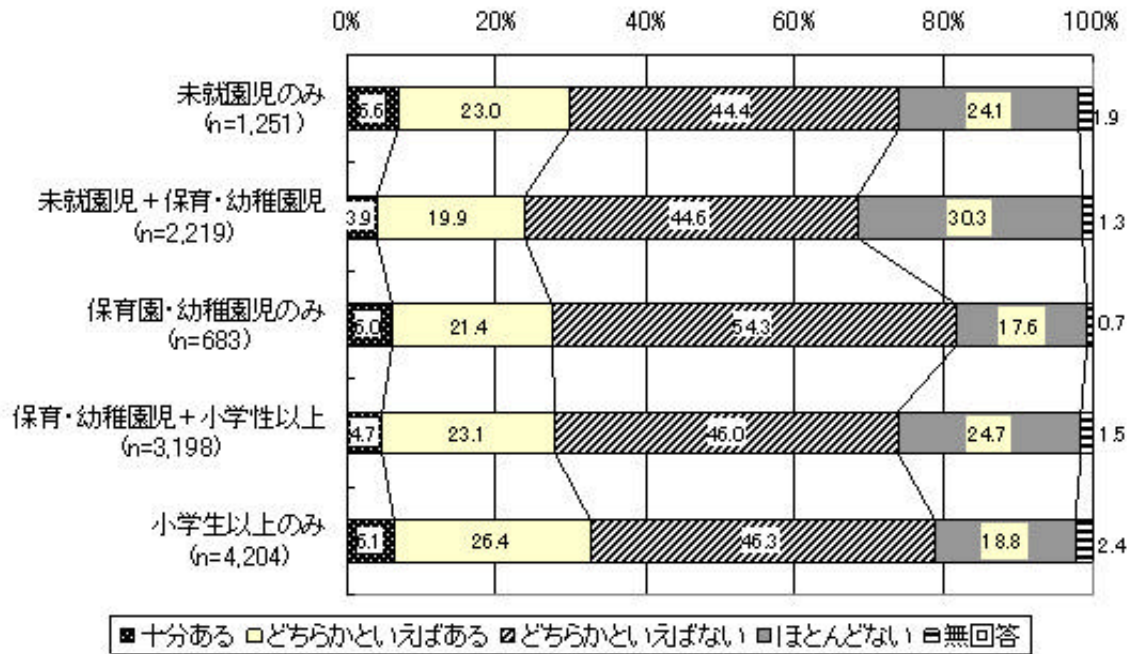
図表2-1-47 友だちとゆっくり会う時間【夫婦の就労状況別】(単数回答)





友だちとゆっくり会う時間について、子どもの学齢別にみると、「ほとんどない」または「どちらかといえばない」と回答している割合は、小学生以上の子どもを持つ親が 65.1%と最も低く、未就園児 + 保育・幼稚園児を持つ親が 74.9%と最も高かった。(図表 2 - 1 - 48)

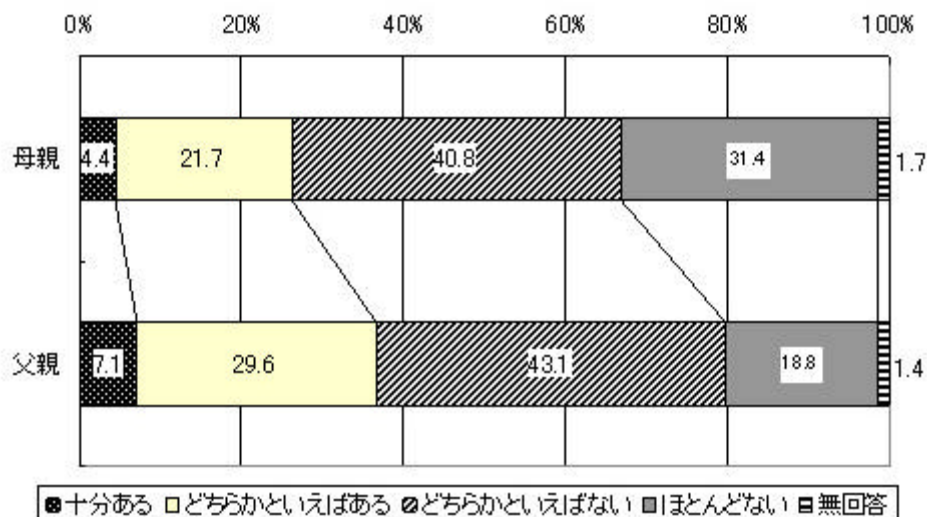
図表 2-1-48 友だちとゆっくり会う時間【子どもの学齢別】(単数回答)



### (6) 趣味の時間

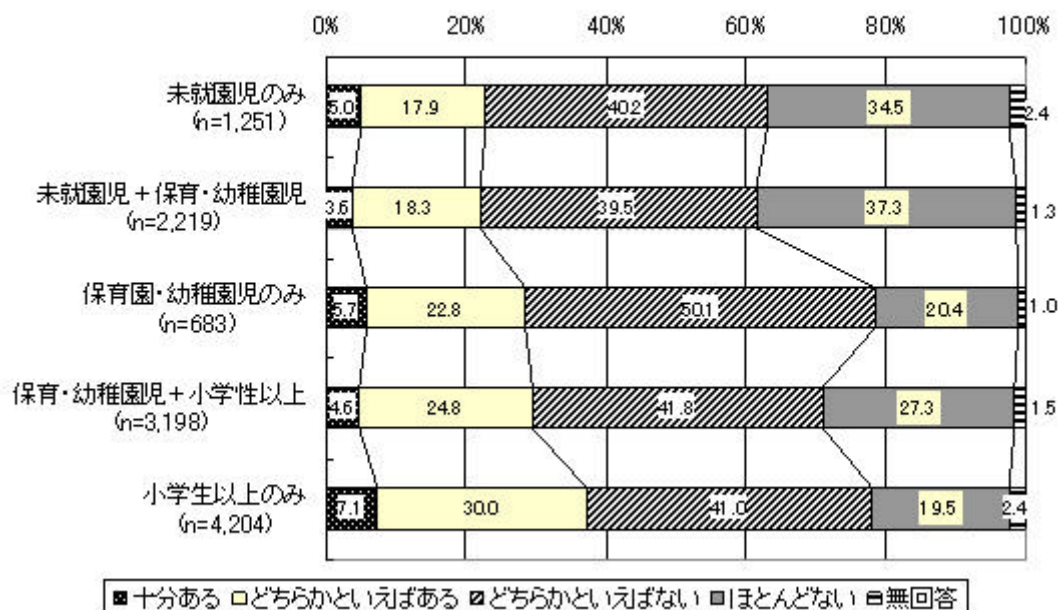
趣味の時間について尋ねたところ、「ほとんどない」または「どちらかといえばない」と回答している割合は、母親で72.2%、父親は61.9%であった。(図表2-1-49)

図表2-1-49 趣味の時間【性別】  
(単数回答 母親 n=8,563 父親 n=3,995)



子どもの年齢別にみると、「ほとんどない」または「どちらかといえばない」と回答している割合は、未就園児+保育・幼稚園児を持つ親が76.8%と最も高く、小学生以上の子どもを持つ親が60.5%と最も低かった。(図表2-1-50)

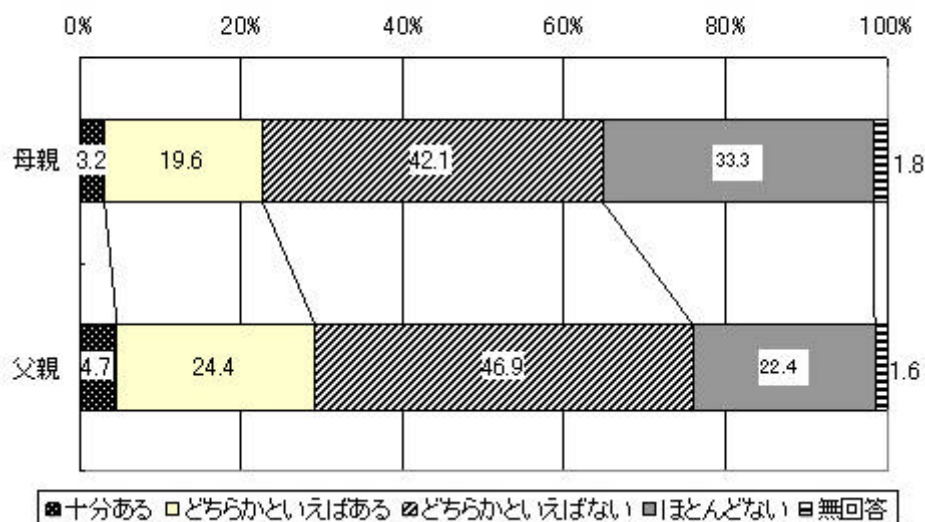
図表2-1-50 趣味の時間【子どもの年齢別】(単数回答)



### (7)学習の時間

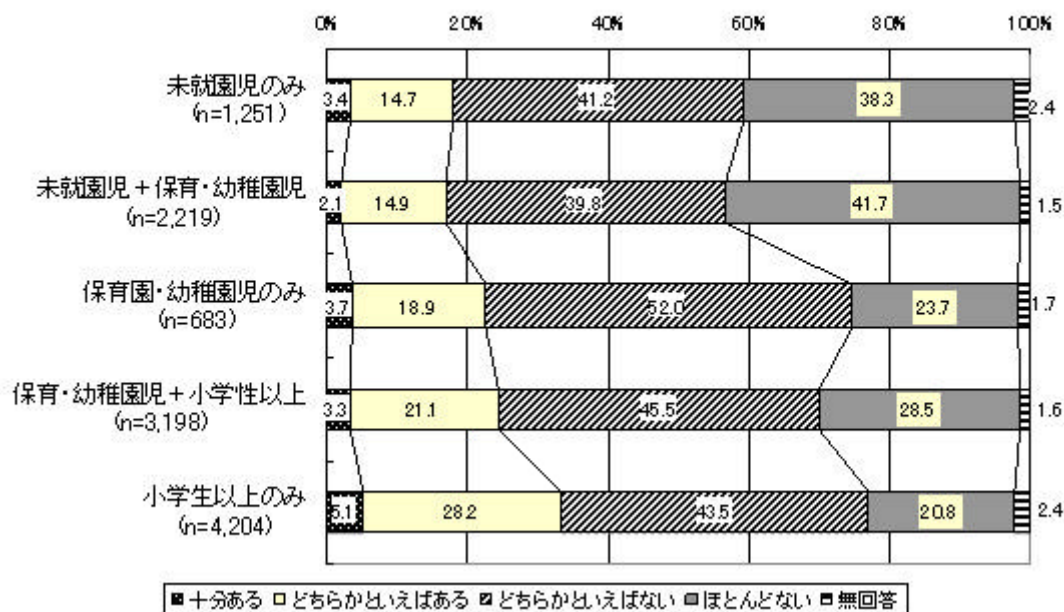
学習の時間について尋ねたところ、「ほとんどない」または「どちらかといえばない」と回答している割合は、母親で75.3%、父親は69.3%であった。(図表2-1-51)

図表2-1-51 学習の時間【性別】  
(単数回答 母親 n=8,563 父親 n=3,995)



子どもの年齢別にみると、「ほとんどない」または「どちらかといえばない」と回答している割合は、小学生以上の子どもを持つ親が64.3%と最も低く、未就園児+保育・幼稚園児を持つ親が81.5%と8割を超え、最も高かった。(図表2-1-52)

図表2-1-52 学習の時間【子どもの年齢別】(単数回答)





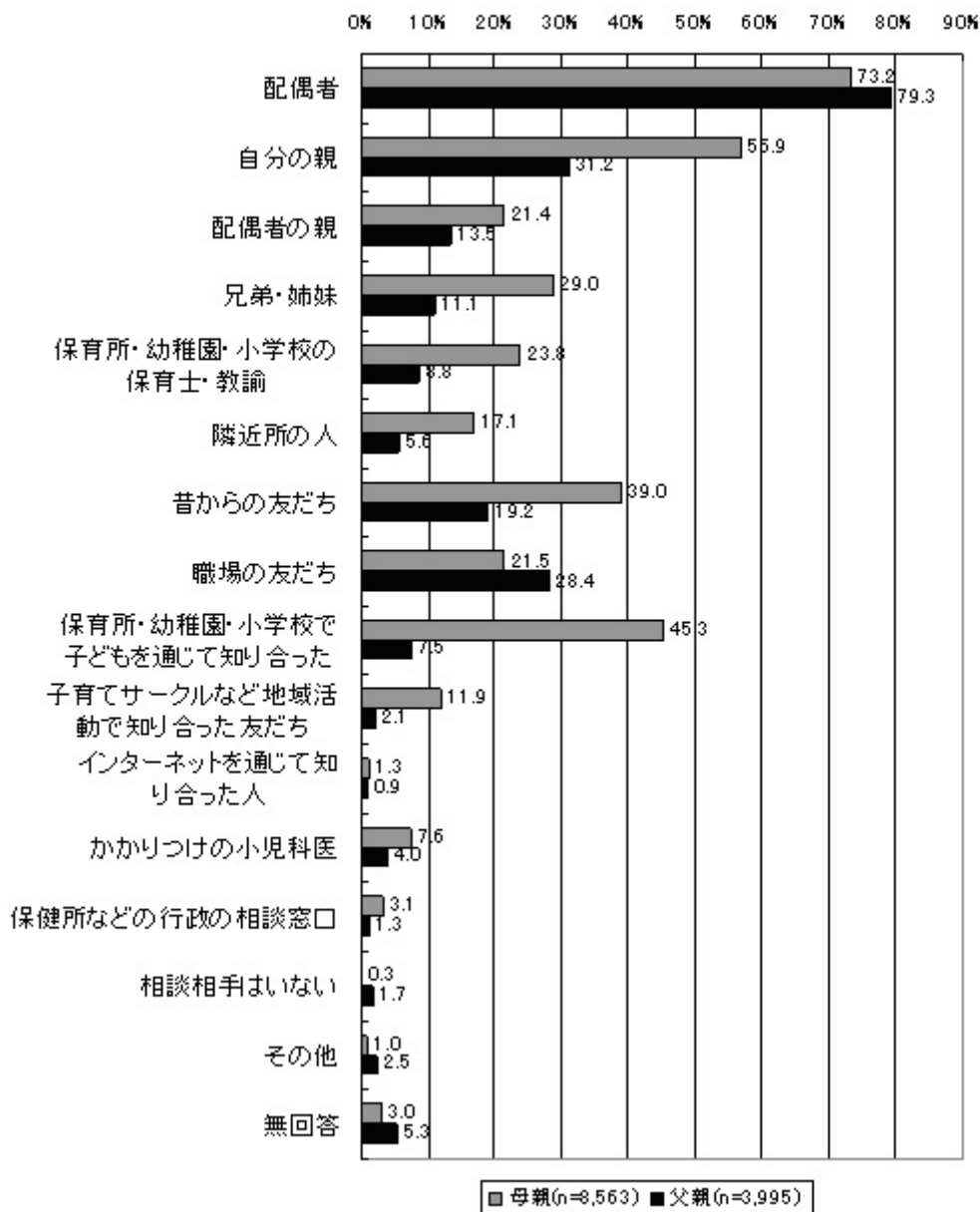
#### 4. 子育ての悩みの相談相手

子育ての悩みについての相談相手は、母親では、「配偶者」が73.2%と最も多く、次いで「自分の親」(56.9%)、「保育所・幼稚園・小学校で子どもを通じて知り合った友だち」(45.3%)となっている。父親でも、「配偶者」が79.3%と最も多く、「自分の親」(31.2%)、「職場の友だち」(28.4%)となっている。

母親と父親ともに相談相手としては親類、血縁者が多くを占めているが、「保育所・幼稚園・小学校で子どもを通じて知り合った友だち」(母親45.3%、父親7.5%)、「昔からの友だち」(母親39.0%、父親19.2%)、「子育てサークルなど地域活動で知り合った友だち」(母親11.9%、父親2.1%)など、母親のほうが自分でつくったネットワークを活用している。父親では親類、血縁者以外では、「職場の友だち」(母親21.5%、父親28.4%)が最も多かった。

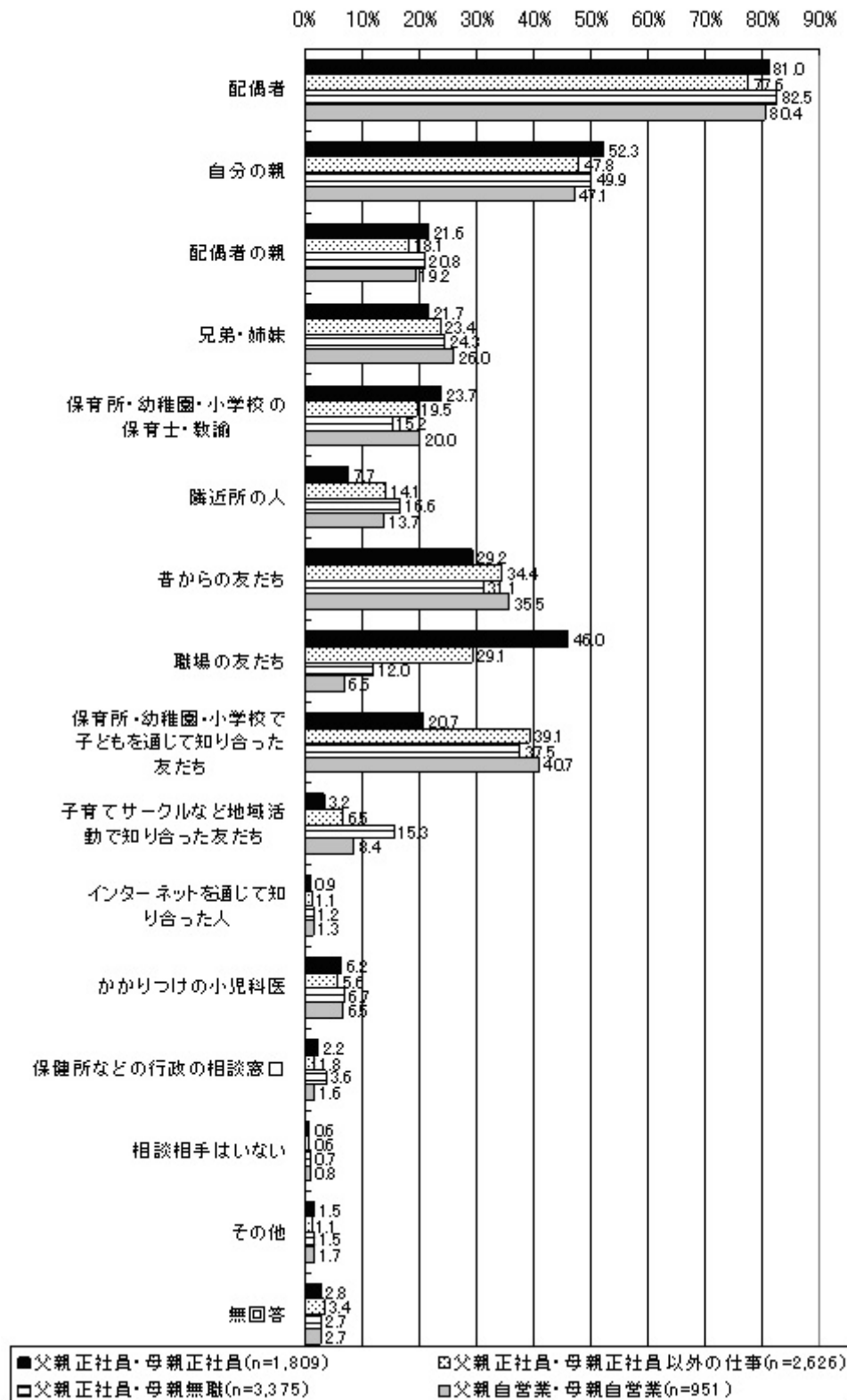
一方、「保健所などの行政の相談窓口」は母親3.1%、父親1.3%、「インターネットを通じて知り合った人」は父親1.3%、母親0.9%となっている。(図表2-1-53)

図表2-1-53 子育ての悩みの相談相手【性別】(複数回答)



子育ての悩み・相談相手について、夫婦の就労状況別にみると、父親正社員・母親正社員の場合、他の就労状況に比べて、「保育所・幼稚園・小学校で子どもを通じて知り合った友だち」が特に低く、「職場の友だち」が特に高かった。(図表2-1-54)

図表2-1-54 子育ての悩み相談相手【夫婦の就労状況別】(複数回答)

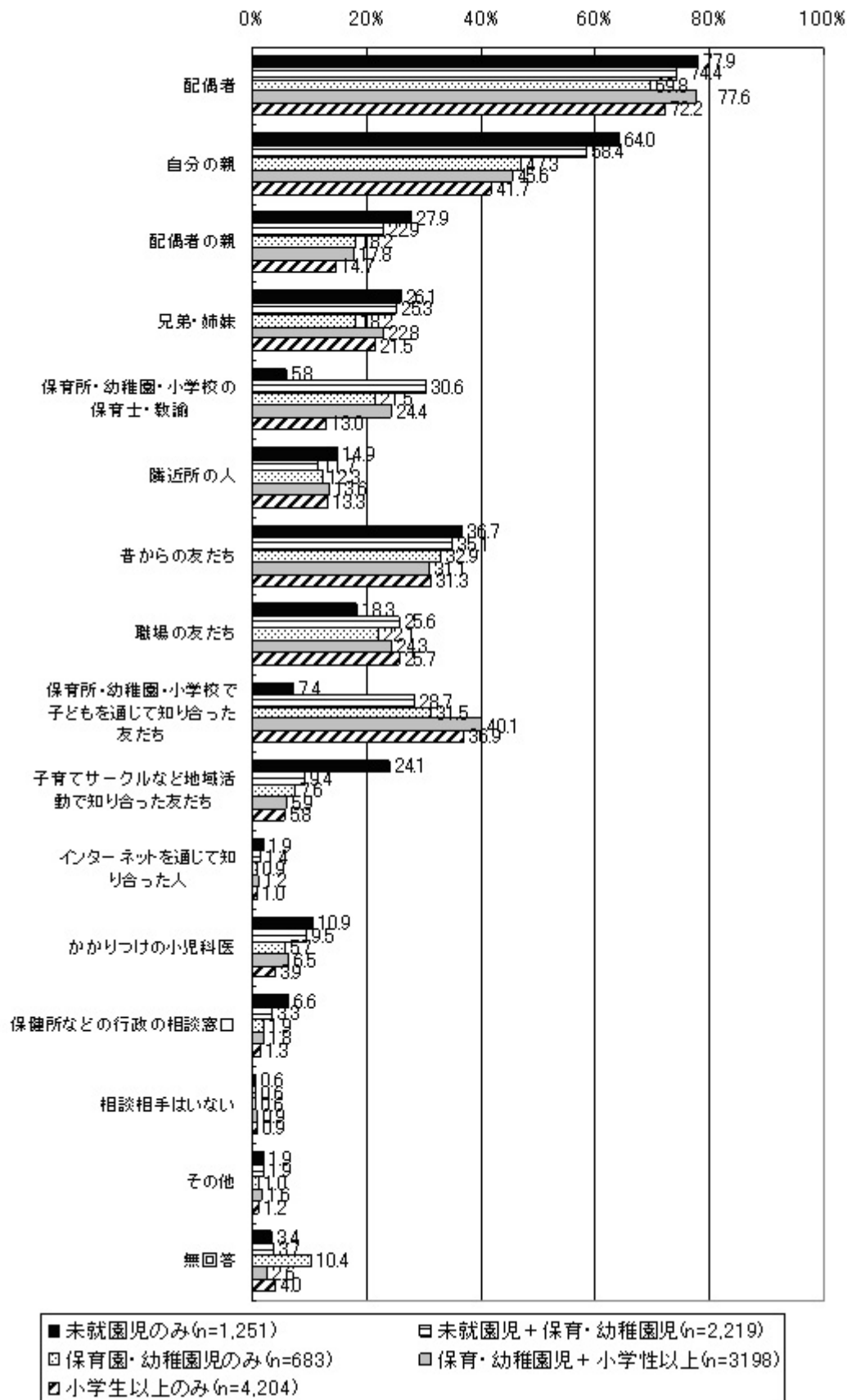


子育ての悩み・相談相手について、子どもの学齢別にみると、「子育てサークルなど地域活動で知り合った友だち」が、未就園児のみがいる人で24.1%と他よりもかなり高い割合になっており、子どもが保育所・幼稚園に通う前などにおいて、子育てサークルなどの地域活動が活用されている。

さらに、子どもが低年齢であるほど「自分の親」の割合が高く、子どもが大きくなるにつれて「保育所・幼稚園・小学校で子どもを通じて知り合った友だち」の割合が高くなっている。

(図表2 - 1 - 55)

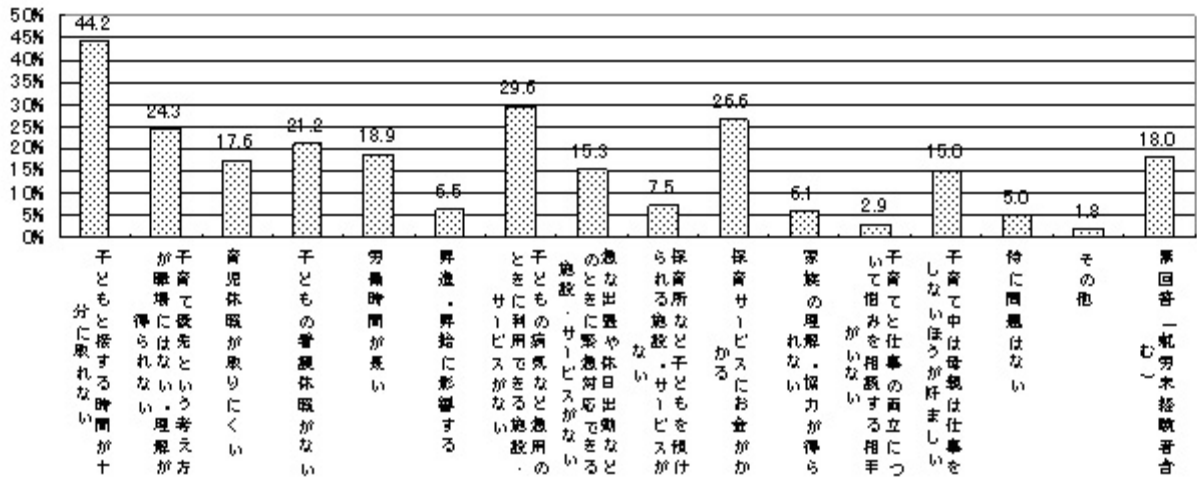
図表2-1-55 子育ての悩み相談相手【子どもの学齢別】(複数回答)



### 5. 子育てと仕事の両立で困ること

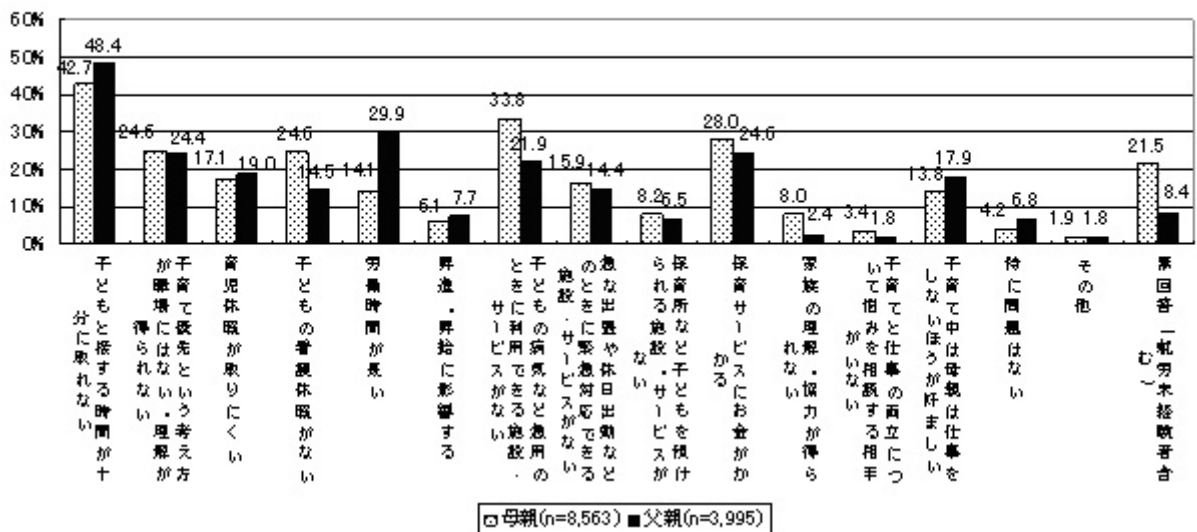
子育てをしながら働く際に困ることについて、現在働いている人もしくは働いた経験のある人に尋ねた。「子どもと接する時間が十分に取れない」(44.2%)、「子どもの病気など急用のときに利用できる施設・サービスがない」(29.6%)、「保育サービスにお金がかかる」(26.6%)、「子育て優先という考え方が職場にはない・理解が得られない」(24.3%)、「子どもの看護休暇がない」(21.2%)などがあげられている。(図表2-1-56)

図表2-1-56 子育てと仕事の両立で困ること (複数回答 n=12,895)



母親と父親を比較してみると、母親のほうが割合が高いものは、「子どもの病気など急用のときに利用できる施設・サービスがない」(母親 33.8%、父親 21.9%)、「子どもの看護休暇がない」(母親 24.6%、父親 14.5%)であり、一方父親のほうが割合が高いものは、「労働時間が長い」(母親 14.1%、父親 29.9%)、「子どもと接する時間が十分に取れない」(母親 42.7%、父親 48.4%)となっている。(図表2-1-57)

図表2-1-57 子育てと仕事の両立で困ること【性別】 (複数回答)

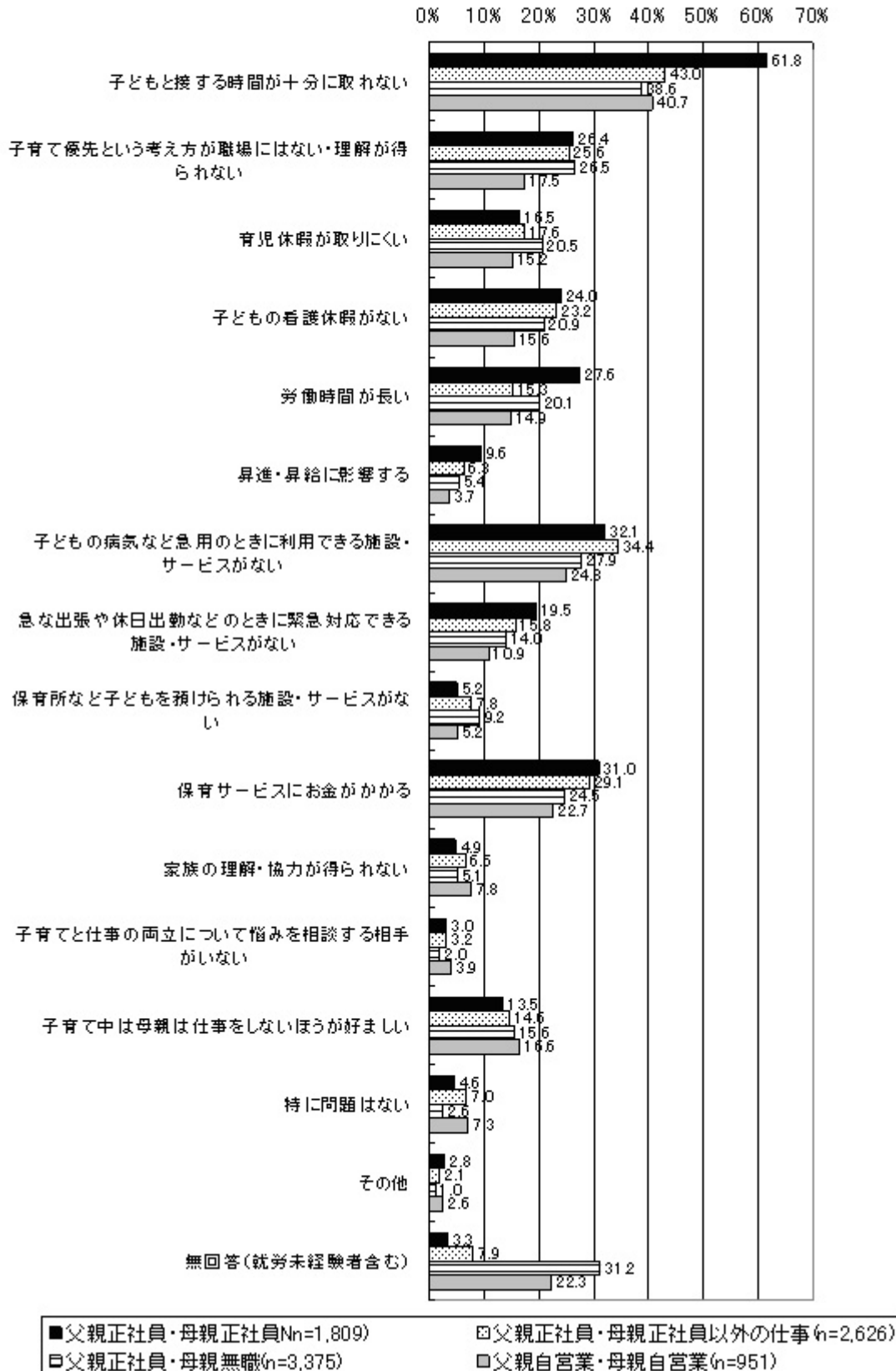


子育てをしながら働く際に困ることについて、就労状況別にみると、すべての就労状況において「子どもと接する時間が十分に取れない」が最も多かったが、特に父親正社員・母親正社員の場合、「子どもと接する時間が十分に取れない」は61.8%、「労働時間が長い」は27.6%と、他の就労状況よりも高かった。

また、「保育サービスにお金がかかる」は、父親正社員・母親正社員の場合 31.0%、父親正社員・母親正社員以外の仕事の場合 29.1%だが、父親正社員・母親無職の場合 24.5%、父親自営業・母親自営業 22.7%だった。

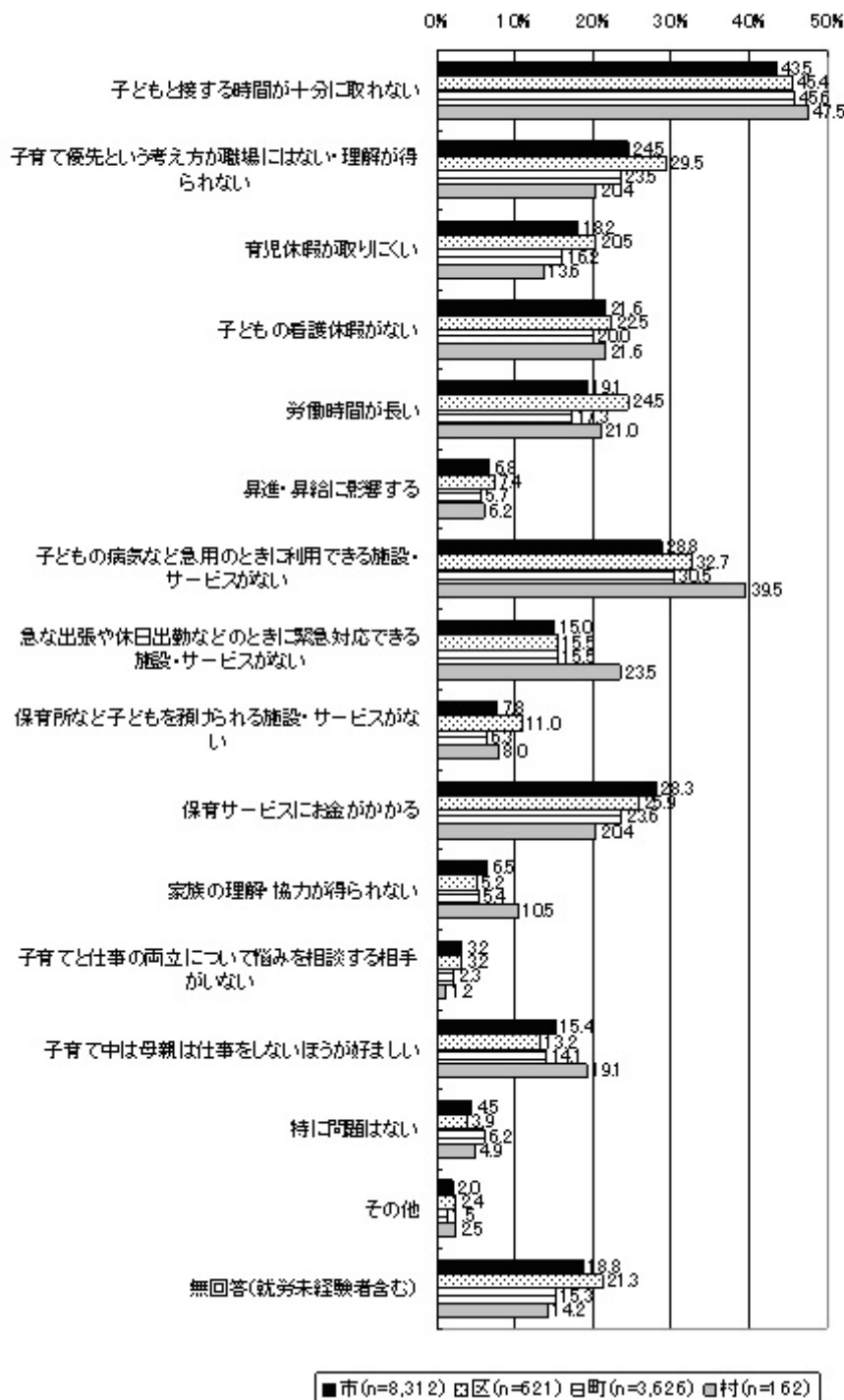
「子育て中は母親は仕事をしないほうが好ましい」は、父親自営業・母親自営業の場合 16.6%、父親正社員・母親無職の場合 15.6%、父親正社員・母親正社員以外の仕事の場合 14.6%、父親正社員・母親正社員の場合 13.5%だった。(図表 2 - 1 - 5 8 )

図表2-1-58 子育てと仕事に両立で困ること【夫婦の就労状況別】(複数回答)



子育てをしながら働く際に困ることについて、居住地別にみると、「子どもの病気などの急用のときに利用できる施設・サービスがない」が、市では28.8%だが、村では39.5%であり、「急な出張や休日出勤などのときに緊急対応できる施設・サービスがない」は、市・区・町では15%台であるのに対して、村では23.5%と割合が高くなっている。「保育サービスにお金がかかる」は、町が23.6%、村が20.4%だが、市が28.3%、区が25.9%と、町村に比べて市区で高い割合となっている。(図表2-1-59)

図表2-1-59 子育てと仕事に両立で困ること【居住地別】(複数回答)





## 6. 地域活動における子育て支援の利用と今後の期待について

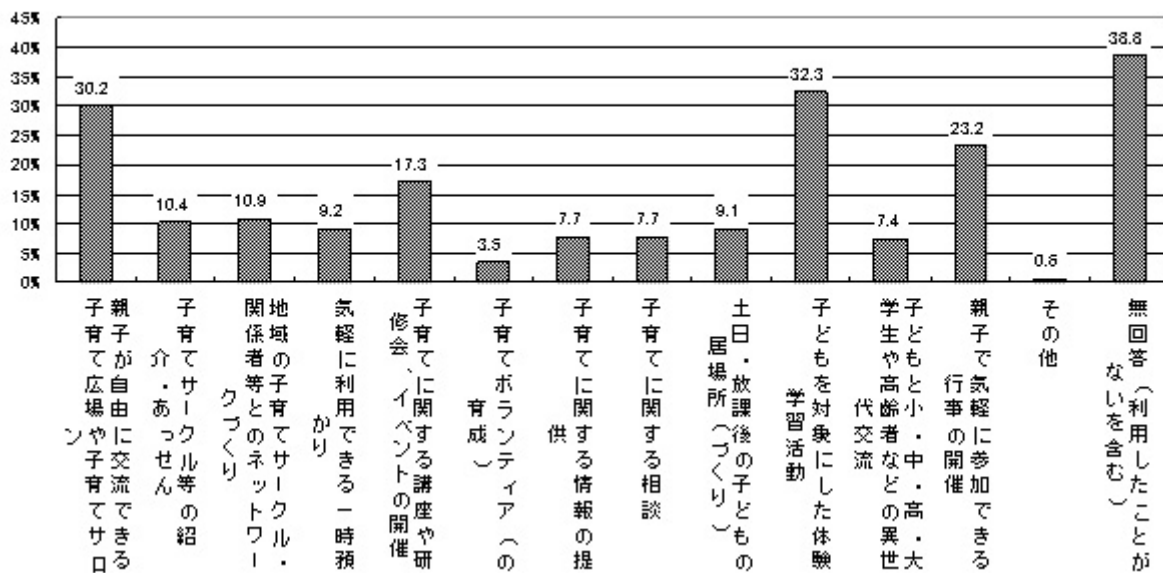
### (1) 地域活動・ボランティア活動による子育て支援の利用

地域活動・ボランティア活動による子育て支援のうち利用したことのあるものについては、「子どもを対象にした体験学習活動」が32.3%と最も多く、次いで「親子が自由に参加できる子育て広場や子育てサロン」が30.2%で、この二つが3割を超えている。次いで「親子で気軽に参加できる行事」が23.2%、「子育てに関する講座や研修会、イベント」が17.3%となっている。

この他の子育て支援についてみると、「地域の子育てサークル・関係者等とのネットワークづくり」(10.9%)、「子育てサークル等の紹介・あっせん」(10.4%)、「気軽に利用できる一時預かり」(9.2%)、「土日・放課後の子どもの居場所」(9.1%)、「子育てに関する情報の提供」(7.7%)、「子育てに関する相談」(7.7%)、「子どもと小・中・高・大学生や高齢者などの異世代交流」(7.4%)、「子育てボランティア」(3.5%)の利用者はいずれも1割以下であった。

なお、支援活動の有無に関係なく利用したことがないを含む「無回答」が38.8%あり、この回答が最も多かった。(図表2-1-60)

図表2-1-60 地域活動・ボランティア活動による子育て支援の利用 (複数回答 n=12,895)



利用したものについて、子どもの学齢別にみると、未就園児のみでは、「親子が自由に交流できる子育て広場や子育てサロン」(44.0%)、「地域の子育てサークル・関係者等とのネットワーク」(17.9%)、「子育てサークル等の紹介・あっせん」(15.6%)、「子育てに関する講座や研修会、イベントの開催」(15.5%)が、利用されているものの上位にあげられている。

各学齢の割合は、未就園児+保育・幼稚園児では、「親子が自由に交流できる子育て広場や子育てサロン」(34.2%)、「子育てに関する講座や研修会、イベントの開催」(16.1%)、「親子で気軽に参加できる行事」(15.8%)が、利用されているものの上位にあげられている。

保育園・幼稚園児のみでは、「親子が自由に参加できる子育て広場や子育てサロン」(32.1%)、「親子で気軽に参加できる行事」(17.4%)、「子どもを対象にした体験学習活動」(17.0%)が、利用されているものの上位にあげられている。

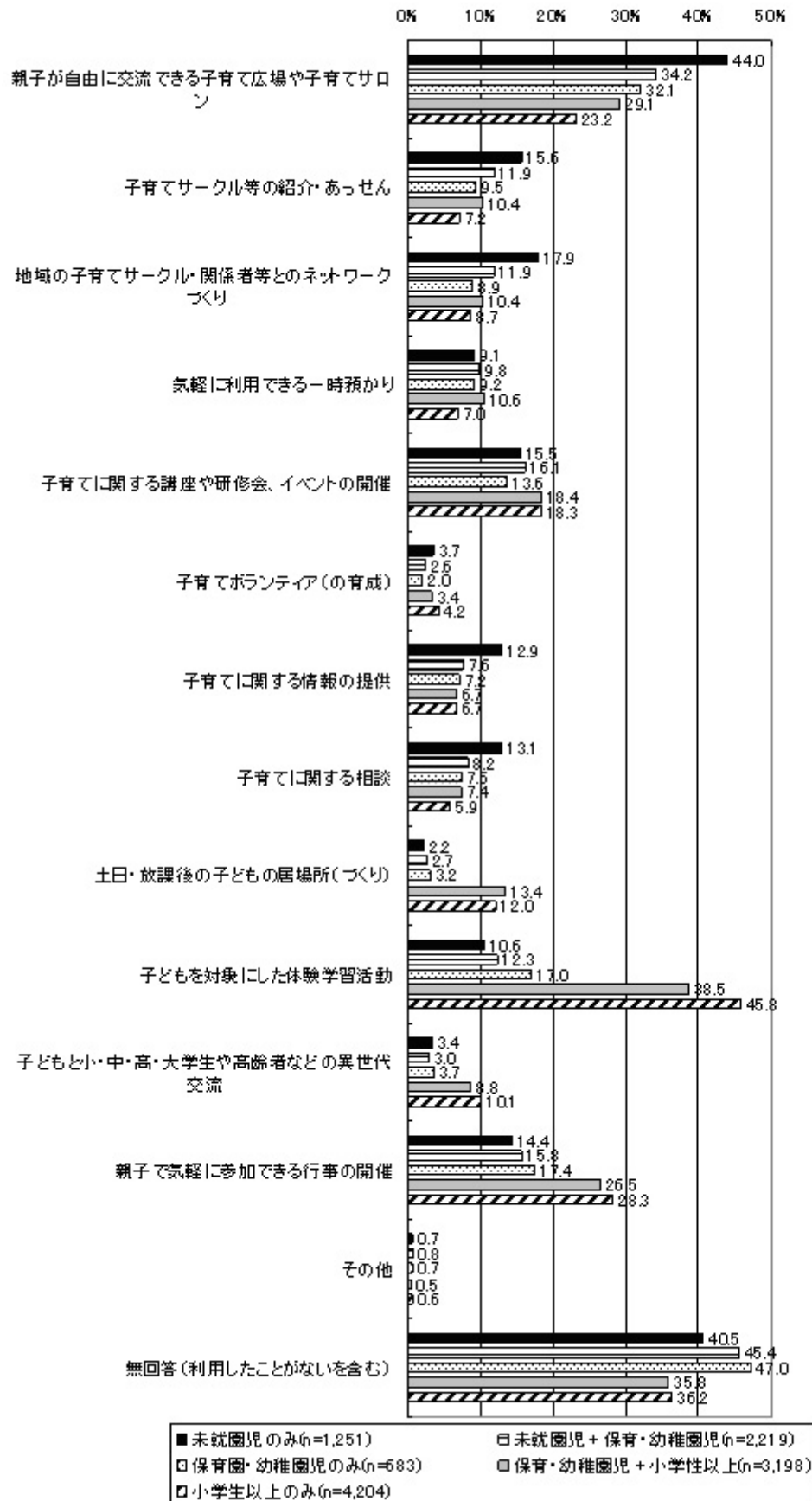
保育・幼稚園児+小学生以上では、「子どもを対象にした体験学習活動」(38.5%)、「親子が自由に参加できる子育て広場や子育てサロン」(29.1%)、「親子で気軽に参加できる行事」(26.5%)が、利用されているものの上位にあげられている。

小学生以上のみでは、「子どもを対象にした体験学習」(45.8%)、「親子で気軽に参加できる行事」(28.3%)、「親子が自由に交流できる子育て広場や子育てサロン」(23.2%)が、利用されているものの上位にあげられている。

なお、学齢が低いほど「親子が自由に参加できる子育て広場や子育てサロン」、「地域の子育てサークル・関係者等とのネットワーク」の利用が高く、学齢が高くなるほど「子どもを対象にした体験学習活動」、「親子で気軽に参加できる行事」の利用が高い傾向がうかがえる。

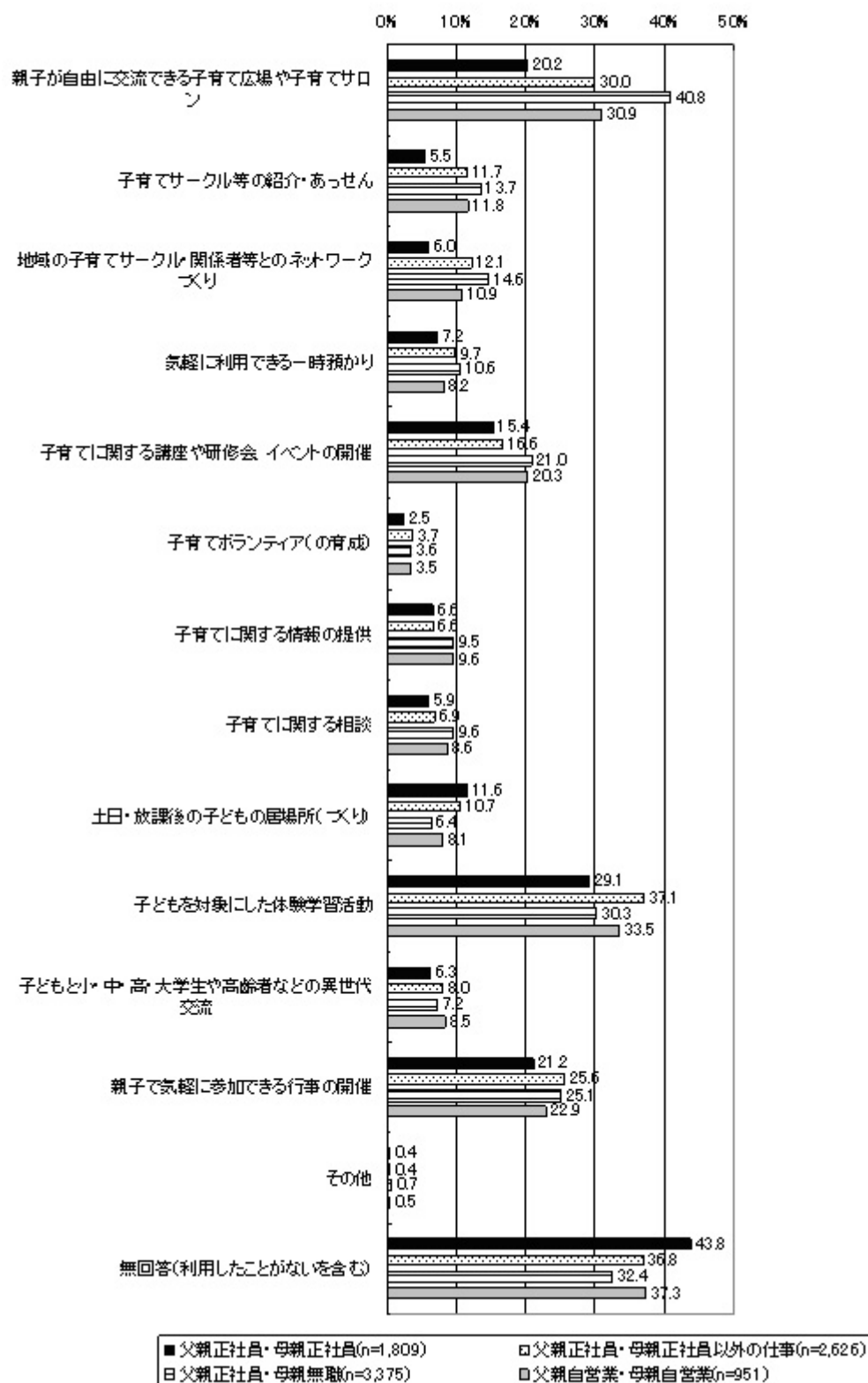
また、「利用したことがないを含む無回答」が、いずれの学齢別においても35%~47%もあった。(図表2-1-61)

図表2-1-6-1 地域活動・ボランティア活動による子育て支援の利用  
【子どもの学齢別】（複数回答）



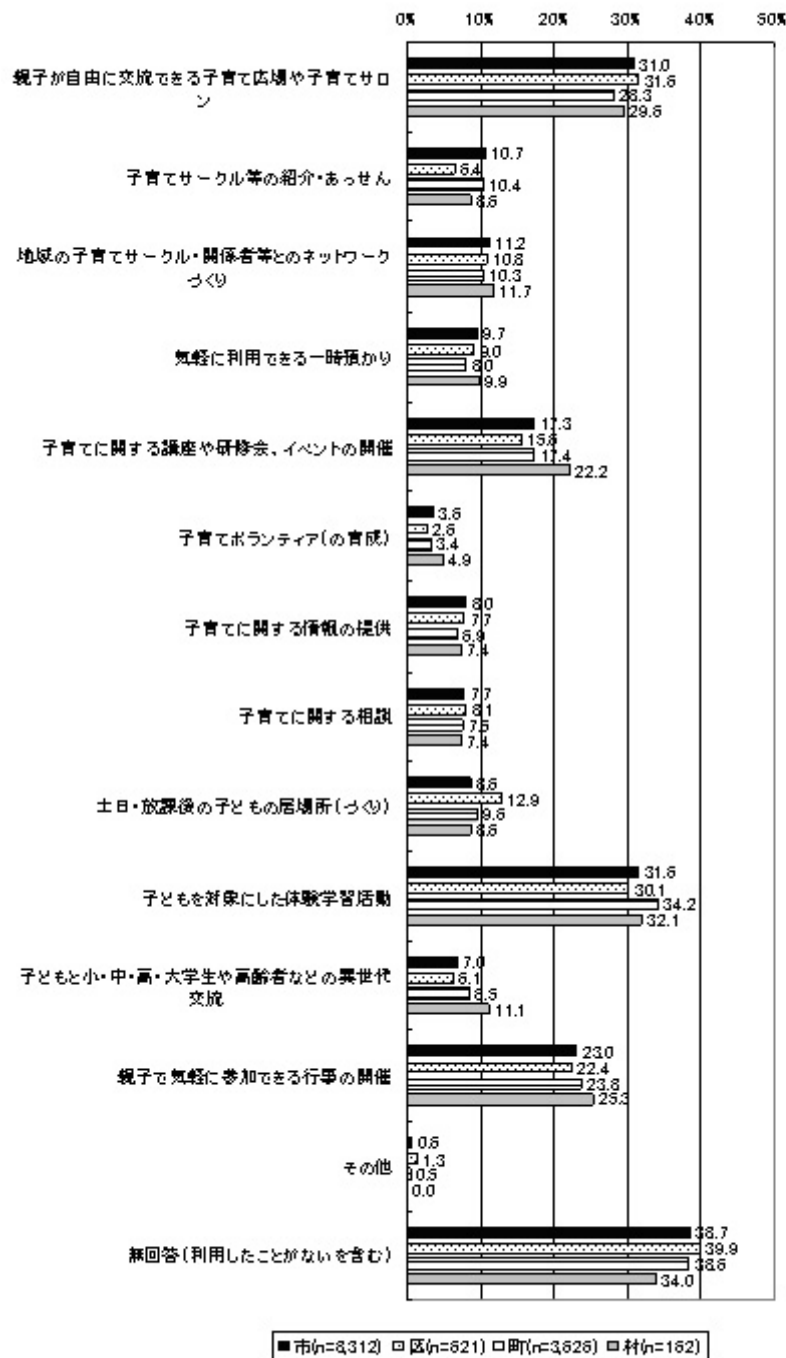
利用したものについて、就労状況別にみると、夫正社員・妻正社員の場合、他の就労状況と比べて利用したことがあるサービスがいずれも少なく、利用したことがないを含む無回答が43.8%と最も高くなっている。(図表2-1-62)

図表2-1-62 地域活動・ボランティア活動による子育て支援の利用  
【夫婦の就労状況別 (複数回答)】



利用したのについては、居住地によって差があるものは、「子育てに関する講座や研修会、イベントの開催」と「子どもと小・中・高・大学生や高齢者などの異世代交流」で、「子育てに関する講座や研修会、イベントの開催」は、村で22.2%、町で17.4%、市で17.3%、区で15.6%であった。また、「子どもと小・中・高・大学生や高齢者などの異世代交流」は、村で11.1%、町で8.5%、市で7.0%、区で6.1%であった。(図表2-1-63)

図表2-1-63 地域活動・ボランティア活動による子育て支援の利用  
【居住地別】(複数回答)

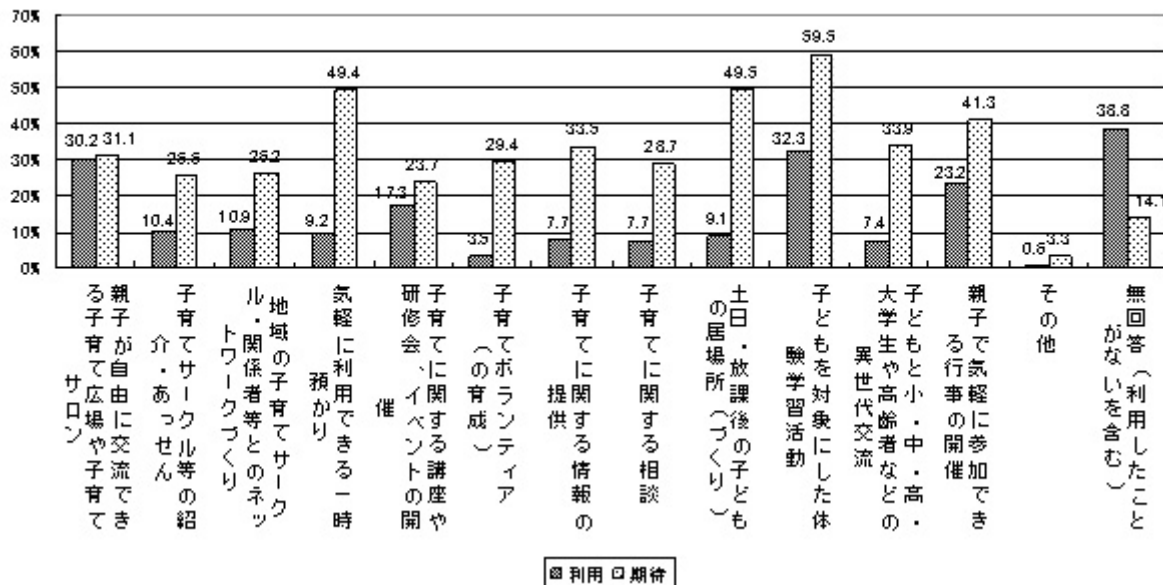


## (2) 地域活動・ボランティア活動による子育て支援への期待

子育て中の親が今後の子育て支援に関する地域活動・ボランティア活動に期待するものとしては、「子どもを対象にした体験学習活動」が最も多く59.5%であった(利用は32.3%)。次いで「土日・放課後の子どもの居場所づくり」が49.5%(利用は9.1%)、「気軽に利用できる一時預かり」が49.4%(利用は9.2%)となっている。

全体の傾向として、子どもを対象にした活動への期待が高く、親を対象とした活動への期待はいずれも2～3割程度となっている。(図表2-1-64)

図表2-1-64 地域活動・ボランティア活動による子育て支援の利用と期待 (複数回答 n=12,895)



子どもの学齢別に期待される活動の上位三項目をみると、未就園児のみでは、「一時預かり」が57.5%と最も多く、次いで「子どもを対象にした体験学習活動」(54.3%)、「親子で気軽に参加できる行事の開催」(49.6%)となっている。なお、「子育てに関する講座や研修会、イベントの開催」への期待が、他の学齢よりもやや高くなっている。

未就園児+保育・幼稚園児では、「子どもを対象にした体験学習活動」(57.2%)、「土日・放課後の子どもの居場所づくり」(54.8%)、「気軽に利用できる一時預かり」(54.7%)となっている。

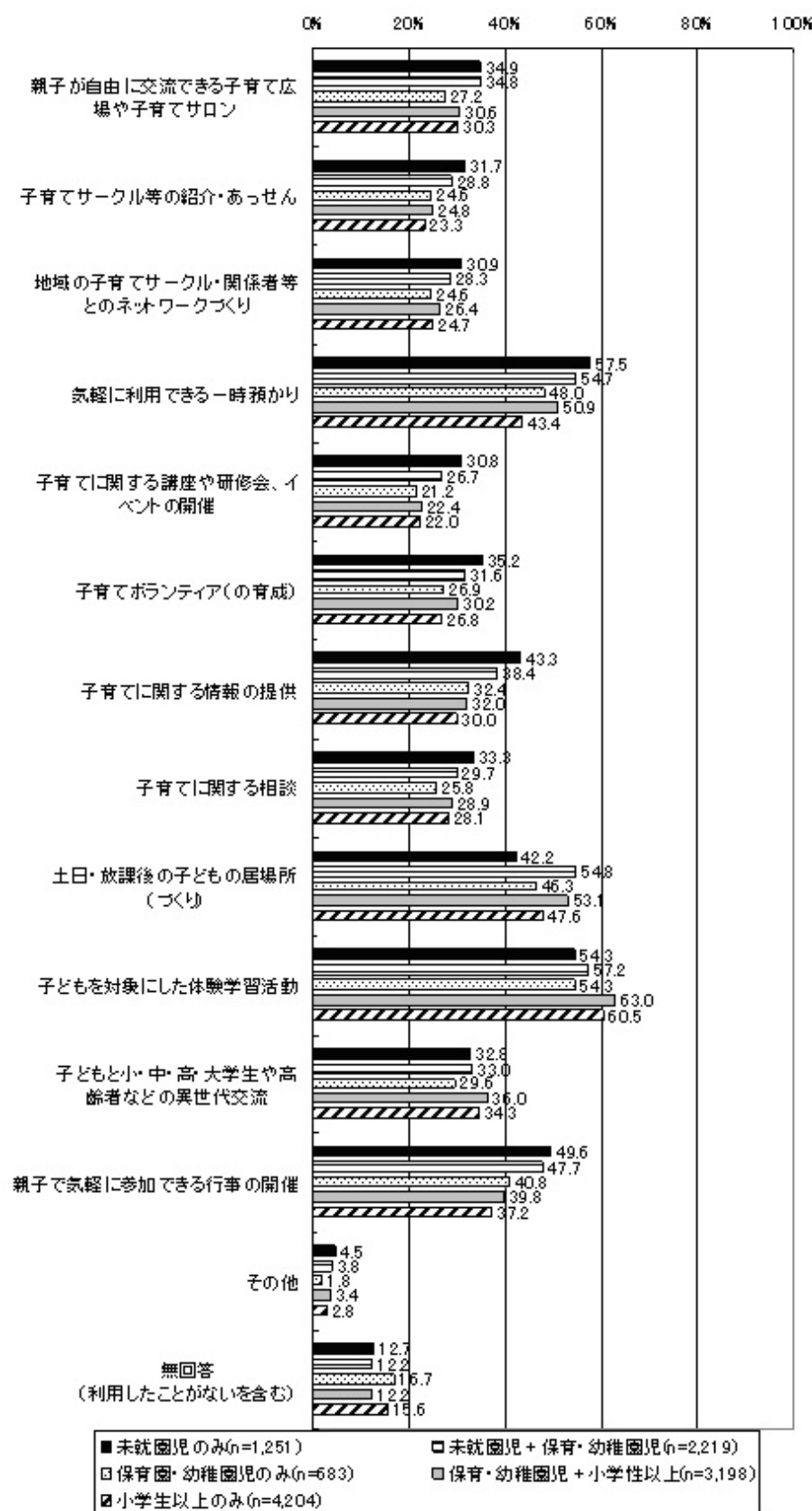
保育園・幼稚園児のみでは、「子どもを対象にした体験学習活動」が54.3%、「気軽に利用できる一時預かり」が48.0%、「親子で気軽に参加できる行事の開催」が40.8%となっている。

保育園児・幼稚園児+小学生以上でも、「子どもを対象にした体験学習活動」(63.0%)、「土日・放課後の子どもの居場所づくり」(53.1%)、「気軽に利用できる一時預かり」(50.9%)となっている。

小学生以上のみも、「子どもを対象にした体験学習活動」(60.5%)、「土日・放課後の子どもの居場所づくり」(47.6%)、「気軽に利用できる一時預かり」(43.4%)となっている。

(図表2-1-65)

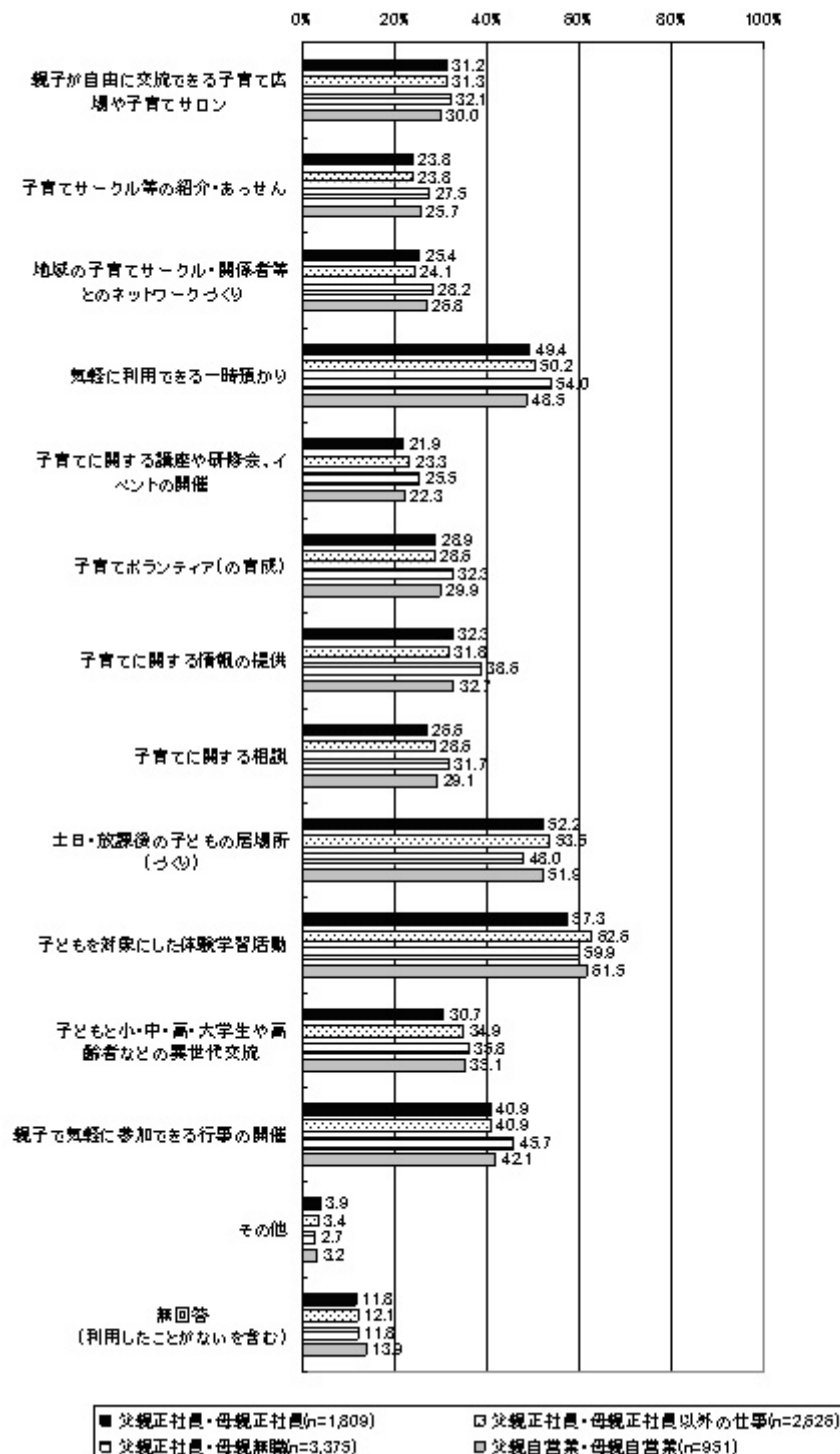
図表2-1-65 地域活動・ボランティア活動による子育て支援の期待  
【子どもの学齢別（複数回答）】





期待するものについて、夫婦の就労状況別にみても、いずれの就労状況でも高い期待は「体験学習」「土日・放課後の子どもの居場所づくり」「一時預かり」となっており、上位の傾向に違いはみられなかった。ただし、父親正社員・母親無職の場合、「気軽に利用できる一時預かり」(54.0%)、「親子で気軽に参加できる行事の開催」(45.7%)、「子育てに関する情報の提供」(38.6%)、「子育てに関する相談」(31.7%)への期待が、他の就労状況よりもやや高くなっている。  
(図表2-1-66)

図表2-1-66 地域活動・ボランティア活動による子育て支援の期待  
【夫婦の就労状況別】(複数回答)



期待するものについて、居住地別にみて、やや大きな差があるものは、「親子が自由に交流できる子育て広場や子育てサロン」「子どもを対象にした体験学習活動」「子どもと小・中・高・大学生や高齢者などの異世代交流」「親子で気軽に参加できる行事の開催」であった。

「親子が自由に交流できる子育て広場や子育てサロン」への期待は、村では 44.4%、区では 34.6%、町では 31.7%、市では 30.3%と村の居住者での期待が最も高い割合となっている。

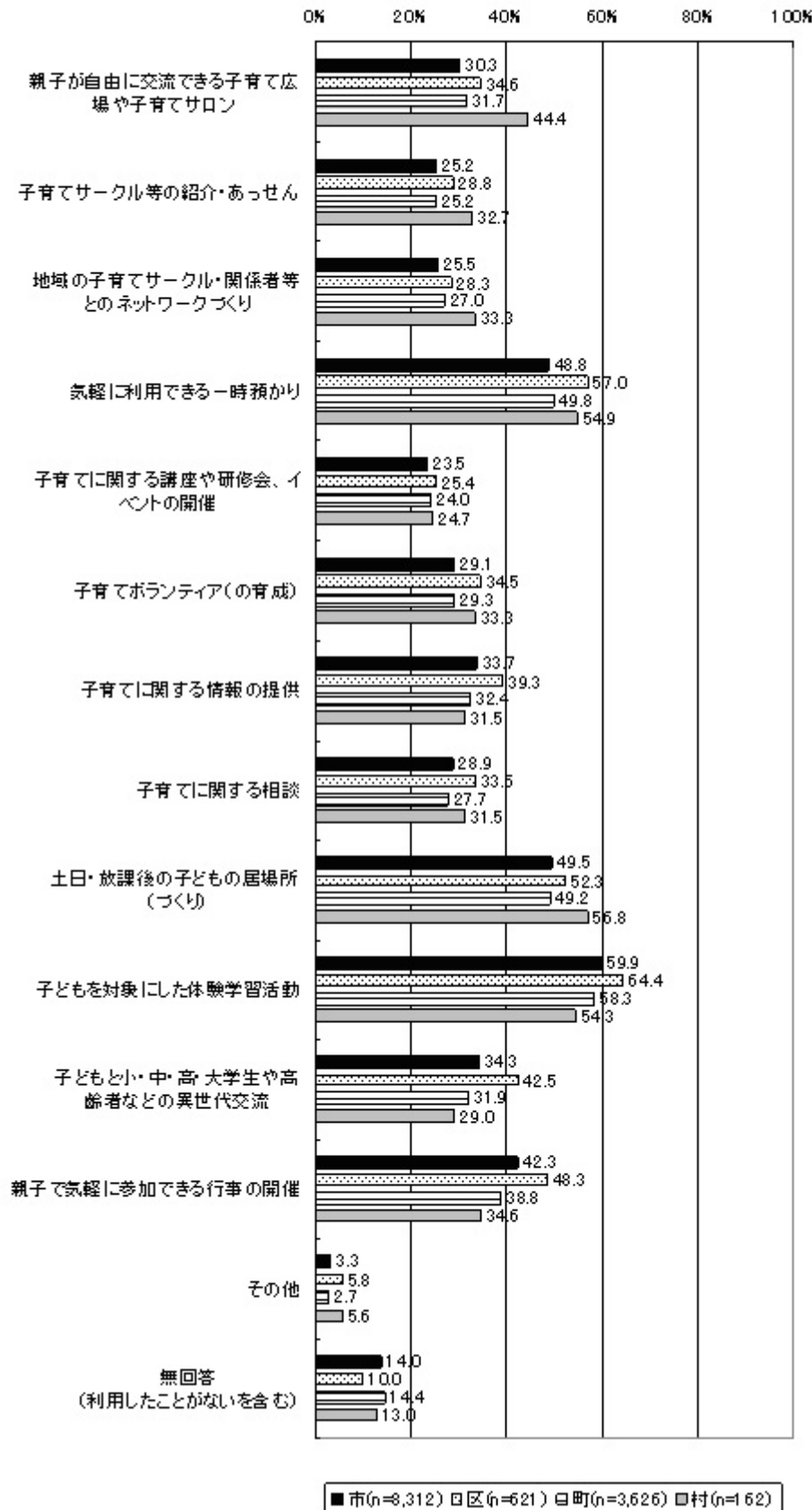
「子どもを対象にした体験学習活動」は、区では 64.4%、市では 59.9%、町では 58.3%、村では 54.3%で、市区部での期待が町村部よりも高くなっている。

「子どもと小・中・高・大学生や高齢者などの異世代交流」は、区では 42.5%、市では 34.3%、町では 31.9%、村では 29.0%で、これも町村部よりも市区部で期待が高くなっている。

「親子で気軽に参加できる行事の開催」は、区では 48.3%、市では 42.3%、町では 38.8%、村では 34.6%で、これも同じように市区部での期待が町村部よりも高くなっている。

なお、いずれの居住地でも期待が比較的高いものとしては「子どもを対象にした体験学習活動」と「気軽に利用できる一時預かり」であった。(図表 2 - 1 - 67)

図表2-1-67 地域活動・ボランティア活動による子育て支援の期待  
【居住地別】（複数回答）



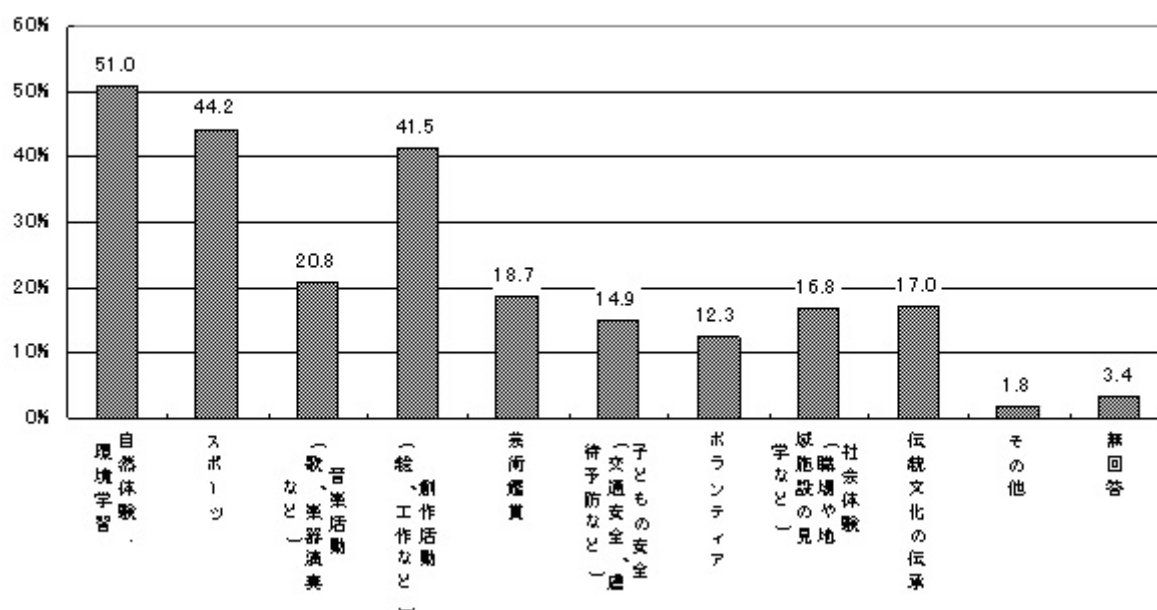
### (3) 地域活動・ボランティア活動による子どもを対象にした体験学習活動の利用

子育て中の親が利用したことがある子育て支援の中で「体験学習活動」と回答した人（4,163人）に、さらに、体験学習活動の内容を尋ねた。

「自然体験・環境学習」が51.0%と最も多く、次いで「スポーツ」が44.2%、「創作活動（絵、工作など）」が41.5%と、4割を超えたのはこの三項目で、他は2割以下だった。

子どもの社会参加として注目をされ始めた「ボランティア」は12.3%と最も低かった。なお、子どもをめぐる痛ましい事件・事故が相次いで起きているが、「子どもの安全（交通安全、虐待予防など）」は14.9%にとどまっている。これについては、本調査の実施時期が平成16年9～10月であったことを斟酌する必要があるかもしれない。（図表2-1-68）

図表2-1-68 子どもを対象にした体験学習活動の利用（複数回答 n=4,163）



体験学習活動の利用について、子どもの学齢別にみると、「自然体験・環境学習」は、小学生以上のみでは 55.9%、保育・幼稚園児 + 小学生以上では 53.1%だが、未就園児のみでは 22.6%、未就園児 + 保育・幼稚園児では 35.0%、保育園・幼稚園児のみでは 25.9%と、小学生以上がいる家庭のほうが利用の割合が高い傾向がうかがえる。

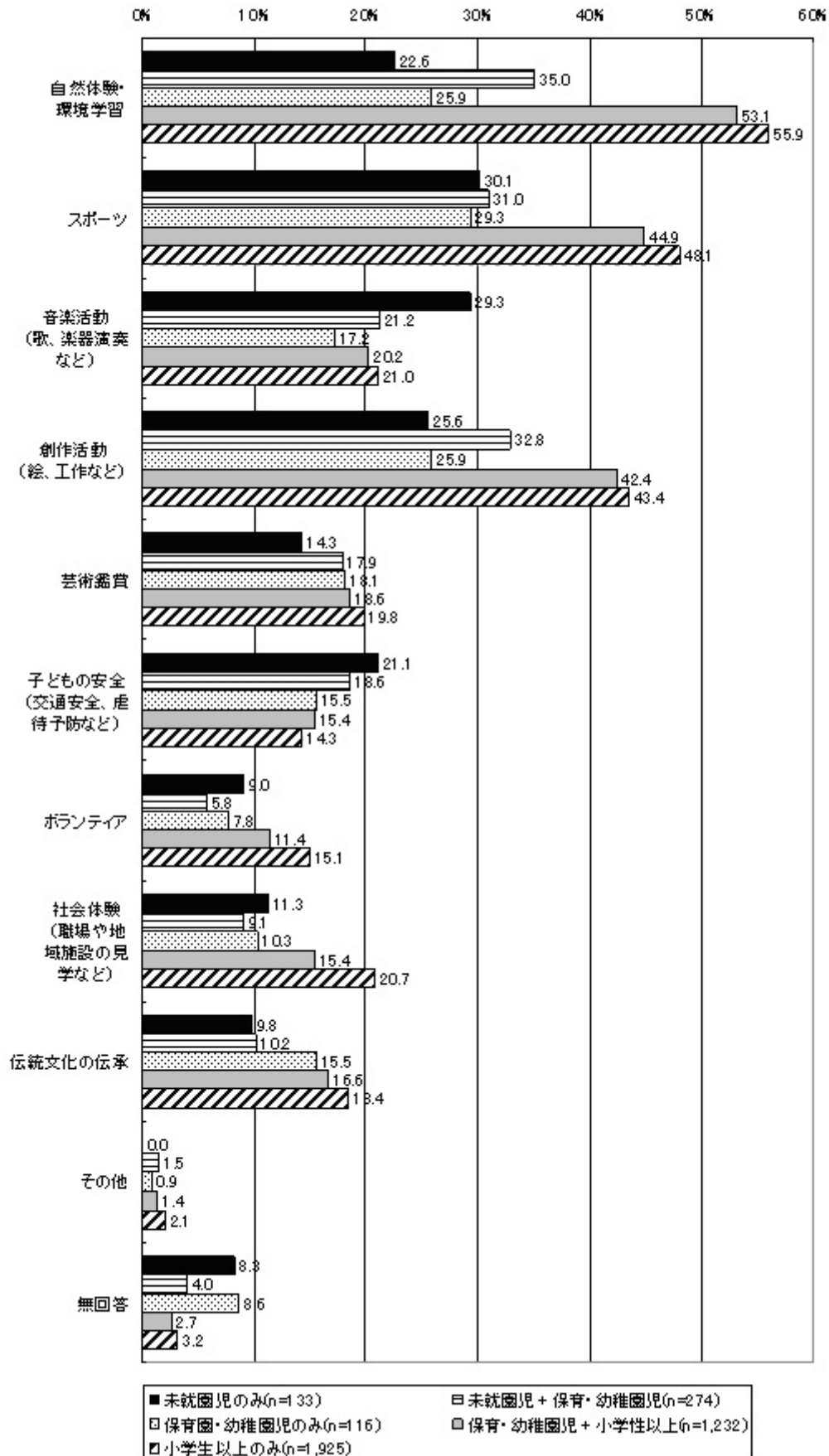
「スポーツ」でも同様に、小学生以上のみでは 48.1%、保育・幼稚園児 + 小学生以上では 44.9%だが、未就園児のみでは 30.1%、未就園児 + 保育・幼稚園児では 31.0%、保育園・幼稚園児のみでは 29.3%と、小学生以上がいる家庭のほうが利用の割合が高い傾向がうかがえる。

「創作活動（絵、工作など）」も、小学生以上のみでは 43.4%、保育・幼稚園児 + 小学生以上では 42.4%だが、未就園児のみでは 25.6%、未就園児 + 保育・幼稚園児では 32.8%、保育園・幼稚園児のみでは 25.9%と、小学生以上がいる家庭のほうが利用の割合が高い傾向がうかがえる。

一方「子どもの安全（交通安全、虐待予防など）」は、未就園児のみでは 21.1%、未就園児 + 保育・幼稚園児では 18.6%、保育園・幼稚園児のみでは 15.5%だが、保育・幼稚園児 + 小学生以上では 15.4%、小学生以上のみでは 14.3%と、子どもの学齢が低いほど利用の割合が高い傾向がうかがえる。

「音楽活動（歌、楽器演奏など）」は、未就園児のみで 29.3%と最も高いが、保育園・幼稚園児のみで 17.2%と最も低かった。（図表 2 - 1 - 69）

図表2-1-69 子どもを対象にした体験学習の利用【子どもの学齢別】（複数回答）



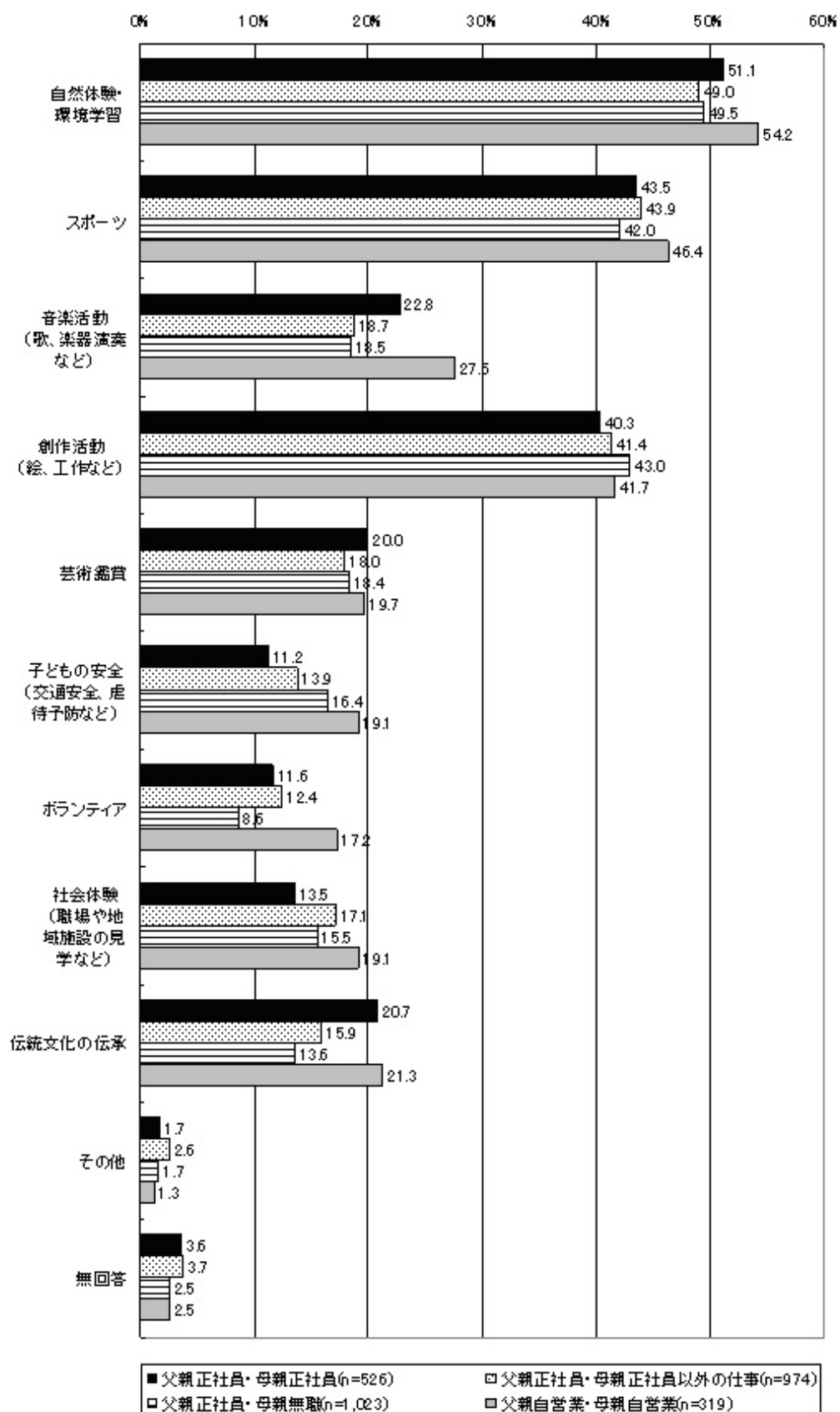
体験学習活動の利用について、夫婦の就労状況別にみると、上位三項目は同じであったが、「音楽活動（歌、楽器演奏など）」が、最も高い割合を示したのが父親自営業・母親自営業の27.6%、低い割合を示したのは父親正社員・母親無職の18.5%と父親正社員・母親正社員以外の仕事の18.7%であった。「伝統文化の伝承」や「芸術鑑賞」についても、ほぼ同様の傾向がみられた。

また、「子どもの安全（交通安全、虐待予防など）」では、最も高い割合を示したのが父親自営業・母親自営業の19.1%、最も低い割合を示したのは父親正社員・母親正社員の11.2%であった。

（図表2 - 1 - 70）



図表2-1-70 子どもを対象にした体験学習の利用【夫婦の就労状況別】  
(複数回答)



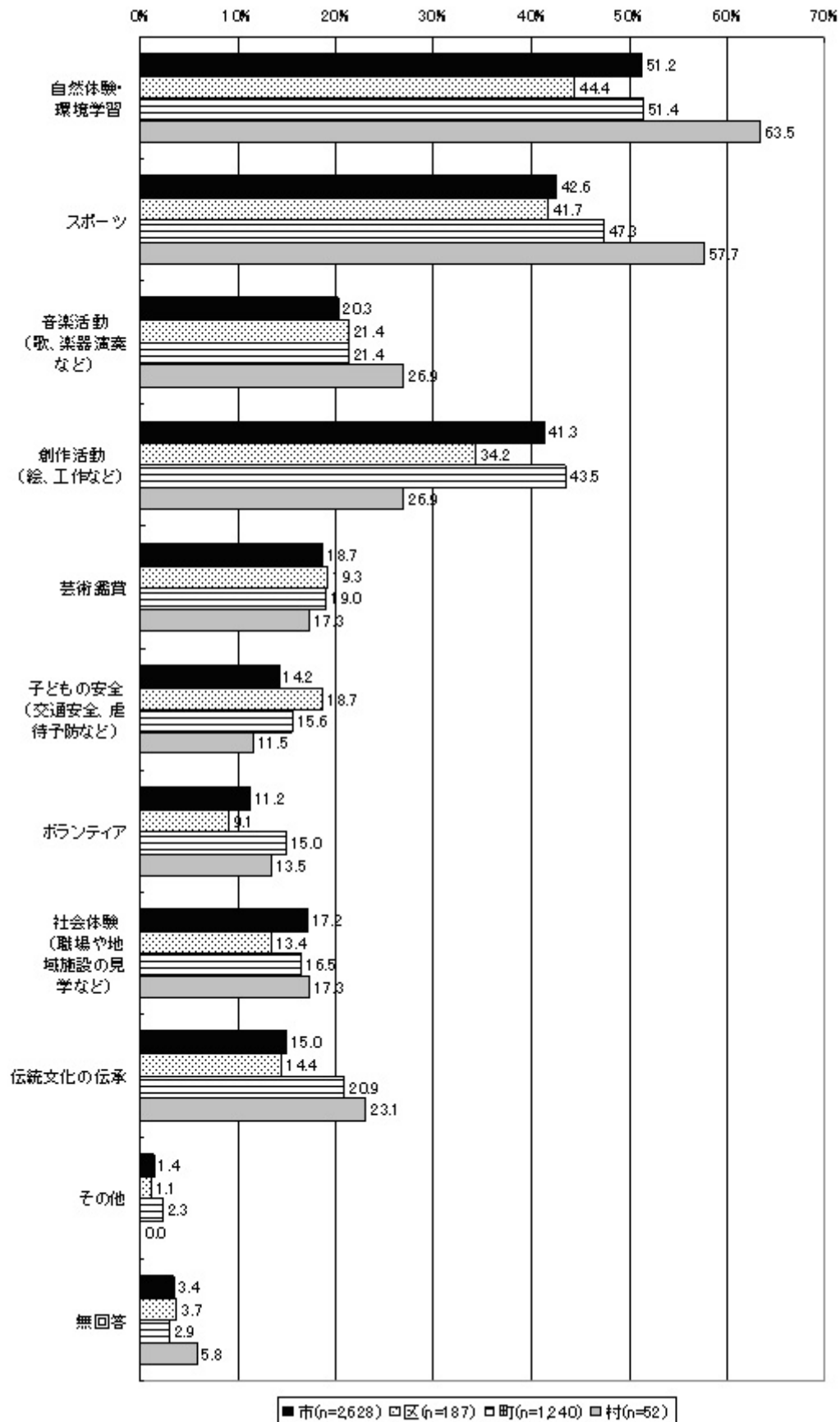
体験学習活動の利用について、居住地別にみても上位三項目は同じであったが、「自然体験・環境学習」は、村では63.5%だが、区では44.4%だった。

「スポーツ」も、市では42.6%、区では41.7%で、村では57.7%、町では47.3%と市区部よりも町村部での利用の割合が高い。

「伝統文化の伝承」も、市区部（市15.0%、区14.4%）よりも町村部（村23.1%、町20.9%）での割合が高かった。

「創作活動（絵、工作など）」は、最も高い割合は町の43.5%、最も低い割合は村の26.9%だった。（図表2 - 1 - 71）

図表2-1-71 子どもを対象にした体験学習の利用【居住地別】（複数回答）



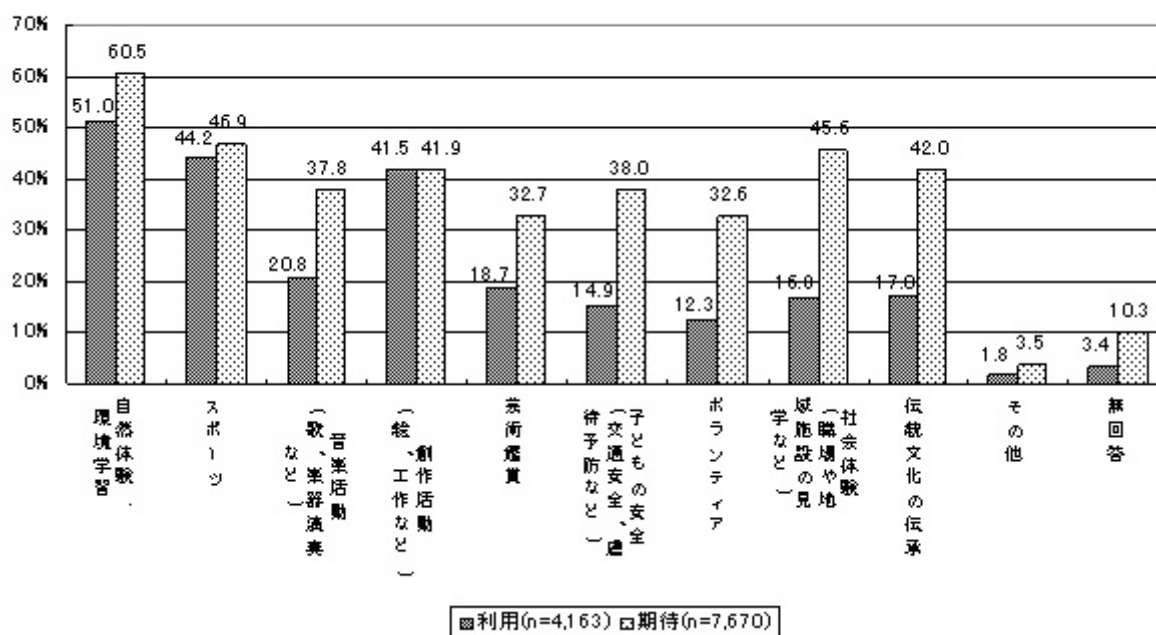
#### (4)地域活動・ボランティア活動による子どもを対象にした体験学習活動への期待

子育て中の親が地域活動・ボランティア活動に期待する子育て支援の中で「体験学習活動」と回答した人(7,670人)に、さらに、体験学習活動の内容を尋ねた。

「自然体験・環境学習」が60.5%(利用は51.0%)と最も多く、次いで「スポーツ」が46.9%(利用は44.2%)、「社会体験(職場や地域施設の見学など)」が45.6%(利用は16.8%)などとなっている。

利用と期待の差が顕著だったものは、「社会体験(職場や地域施設の見学など)」(期待45.6%、利用16.8%)、「伝統文化の伝承」(期待42.0%、利用17.0%)、「子どもの安全(交通安全、虐待予防など)」(期待38.0%、利用14.9%)、「ボランティア」(期待32.6%、利用12.3%)だった。(図表2-1-72)

図表2-1-72 子どもを対象にした体験学習活動の利用と期待 (複数回答)



体験学習活動への期待について、子どもの学齢別にみると、どの学齢の子どもを持つ父母でも「自然体験・環境学習」に最も期待している。その割合は、保育園・幼稚園児では68.5%、未就園児+保育・幼稚園児では67.4%、未就園児のみでは65.8%であるが、保育・幼稚園児+小学生以上は60.1%、小学生以上のみは54.6%となっており、より学齢の低い子どもを持つ父母に期待されている傾向がうかがえる。

「スポーツ」も同様に、未就園児+保育・幼稚園児では54.3%、未就園児のみでは53.9%、保育園・幼稚園児のみでは53.1%であるが、保育・幼稚園児+小学生以上は44.9%、小学生以上のみは42.0%と、より学齢の低い子どもを持つ父母に期待されている傾向がうかがえる。

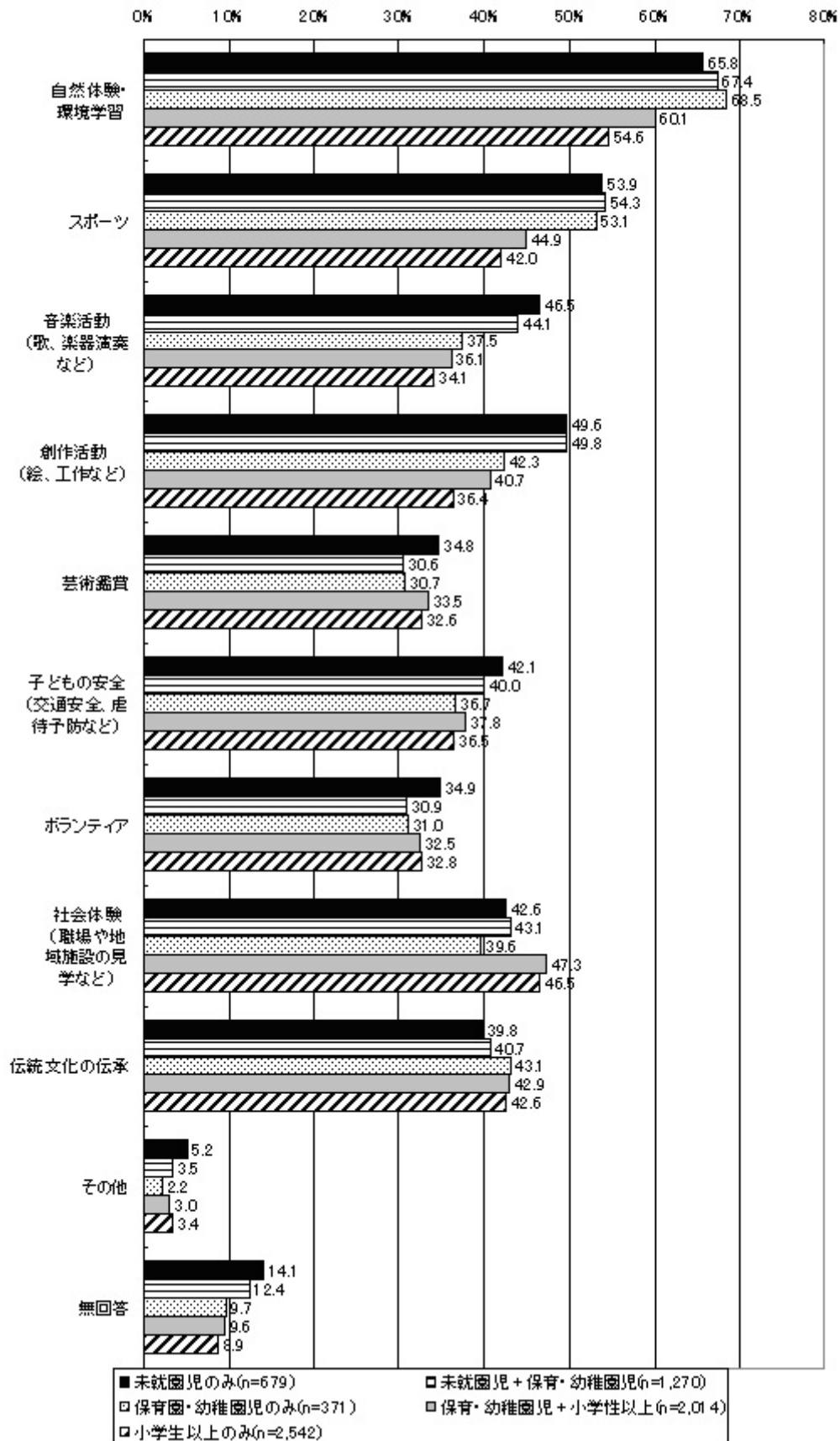
「創作活動（絵、工作など）」も、未就園児+保育・幼稚園児では49.8%、未就園児のみでは49.6%、保育園・幼稚園児のみでは42.3%であるが、保育・幼稚園児+小学生以上は40.7%、小学生以上のみは36.4%と、より学齢の低い子どもを持つ父母に期待されている傾向がうかがえる。

「音楽活動（歌、楽器演奏など）」でも同様に、未就園児のみで46.5%、未就園児+保育・幼稚園児で44.1%、保育園・幼稚園児のみで37.5%、保育・幼稚園児+小学生以上で36.1%、小学生以上のみで34.1%と、より学齢の低い子どもを持つ父母に期待されている傾向がうかがえる。

一方、「社会体験（職場や地域施設の見学など）」は、未就園児+保育・幼稚園児では43.1%、未就園児のみでは42.6%、保育園・幼稚園児のみでは39.6%であるが、保育・幼稚園児+小学生以上は47.3%、小学生以上のみは46.5%と、学齢の高い子どもを持つ父母に期待されている傾向がうかがえる。

「伝統文化の伝承」「ボランティア」では、学齢別に大きな差はみられず、「伝統文化の伝承」については約4割程度、「ボランティア」については約3割程度の期待がどの学齢の子どもを持つ父母からも寄せられている。（図表2 - 1 - 73）

図表2-1-73 子どもを対象にした体験学習への期待【子どもの年齢別】（複数回答）

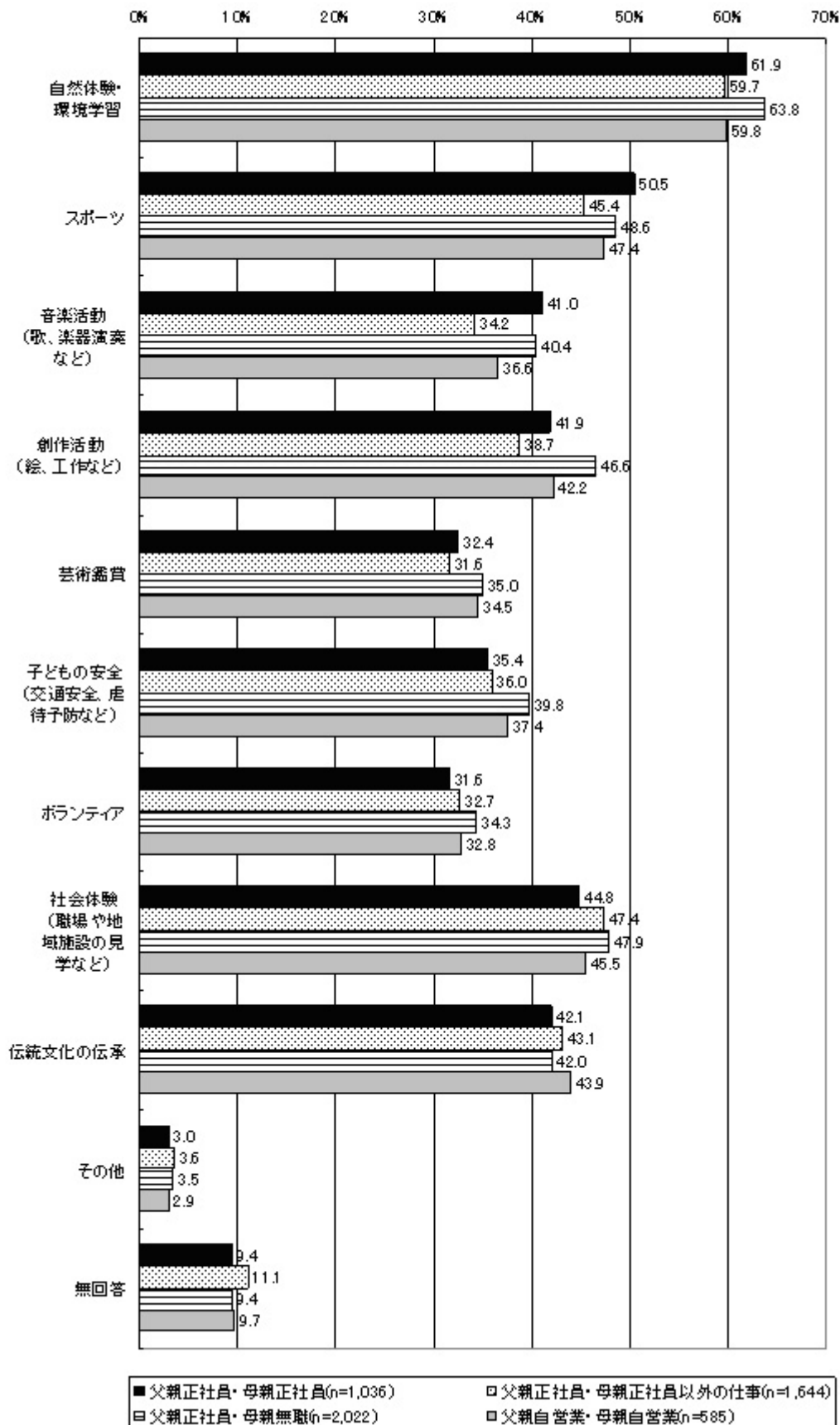


体験学習活動への期待について、夫婦の就労状況別にみても、いずれの就労状況でも期待される活動の上位三項目は「自然体験・環境学習」「スポーツ」「社会体験（職場や地域施設の見学など）」となっている。

就労状況による差がみられるものは、「音楽活動（歌、楽器演奏など）」と「創作活動（絵、工作など）」で、「音楽活動（歌、楽器演奏など）」は、父親正社員・母親正社員では 41.0%、父親正社員・母親無職では 40.4%だが、父親正社員・母親正社員以外の仕事では 34.2%だった。また、「創作活動（絵、工作など）」は、父親正社員・母親無職では 46.6%だが、父親正社員・母親正社員以外の仕事では 38.7%だった。（図表 2 - 1 - 7 4）

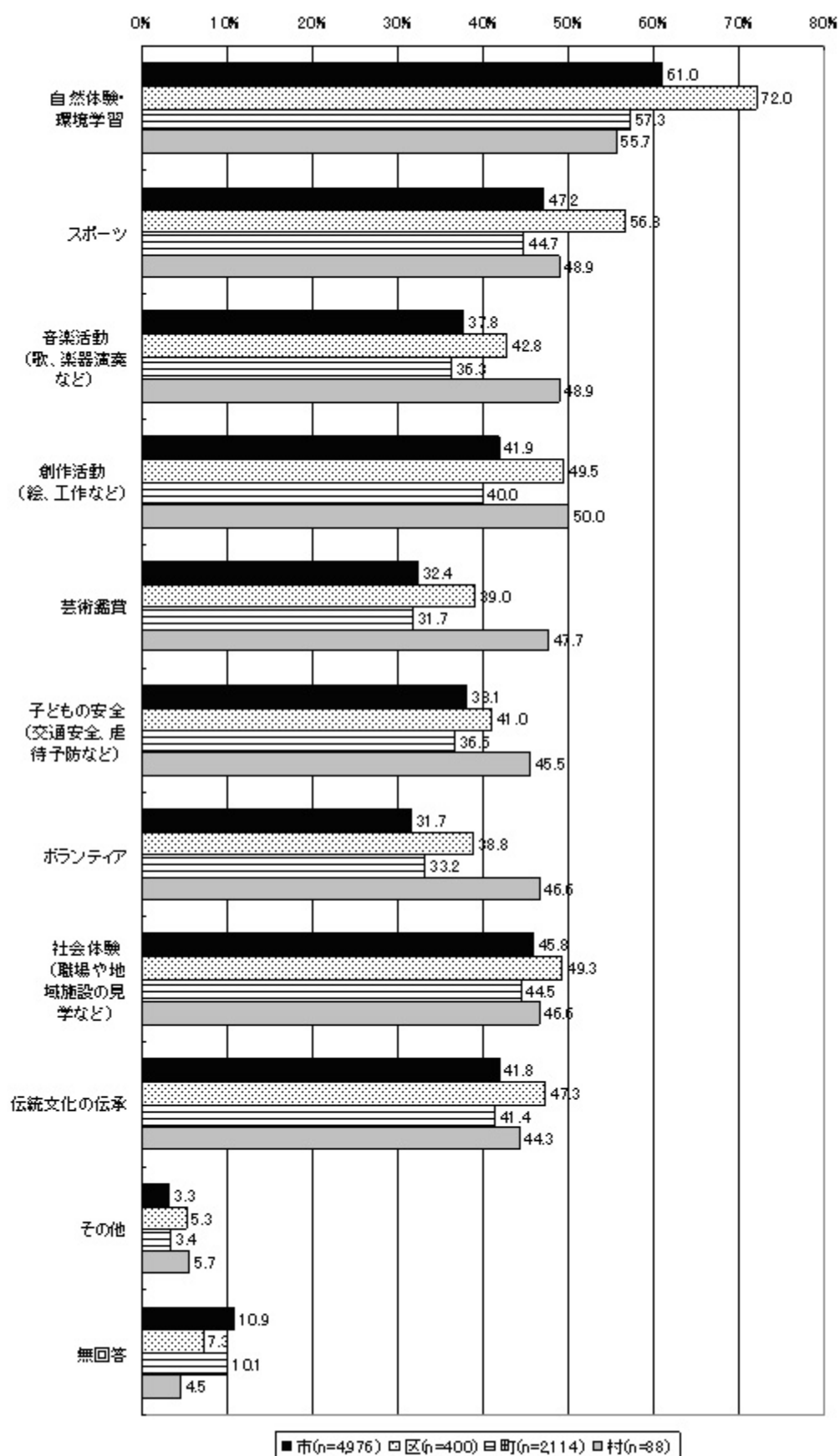


図表2-1-74 子どもを対象にした体験学習への期待【夫婦の就労状況別】  
(複数回答)



体験学習活動への期待について、居住地別にみると、「自然体験・環境学習」(区 72.0%、市 61.0%、町 57.3%、村 55.7%)と「スポーツ」(区 56.8%、村 48.9%、市 47.2%、町 44.7%)は、区部で期待が最も高かった。また、「芸術鑑賞」は、村では 47.7%と約 5 割であるが、市区町では 3 ~ 4 割であった。「ボランティア」も、村では 46.6%であるが、市区町では 3 ~ 4 割弱であった。「社会体験(職場や地域施設の見学など)」と「伝統文化の伝統」は居住地別の差は少なかった。(図表 2 - 1 - 75)

図表2-1-75 子どもを対象にした体験学習への期待【居住地別】（複数回答）

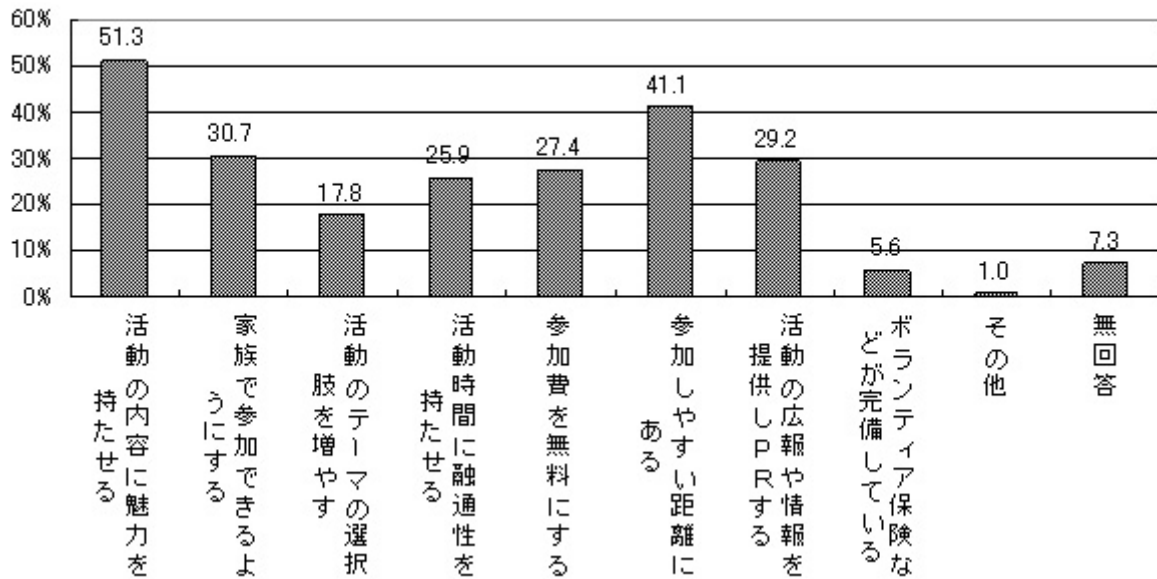


## 7. 子育て支援に関する地域活動への参加条件について

地域活動に参加しやすくなるための条件については、「活動の内容に魅力を持たせる」が51.3%で最も高く、次いで「参加しやすい距離にある」(41.1%)、「家族で参加できるようにする」(30.7%)、「活動の広報や情報を提供しPRする」(29.2%)、「参加費を無料にする」(27.4%)、「活動時間に融通性を持たせる」(25.9%)となっている。

「ボランティア保険などが完備している」は5.6%と低かった。(図表2-1-76)

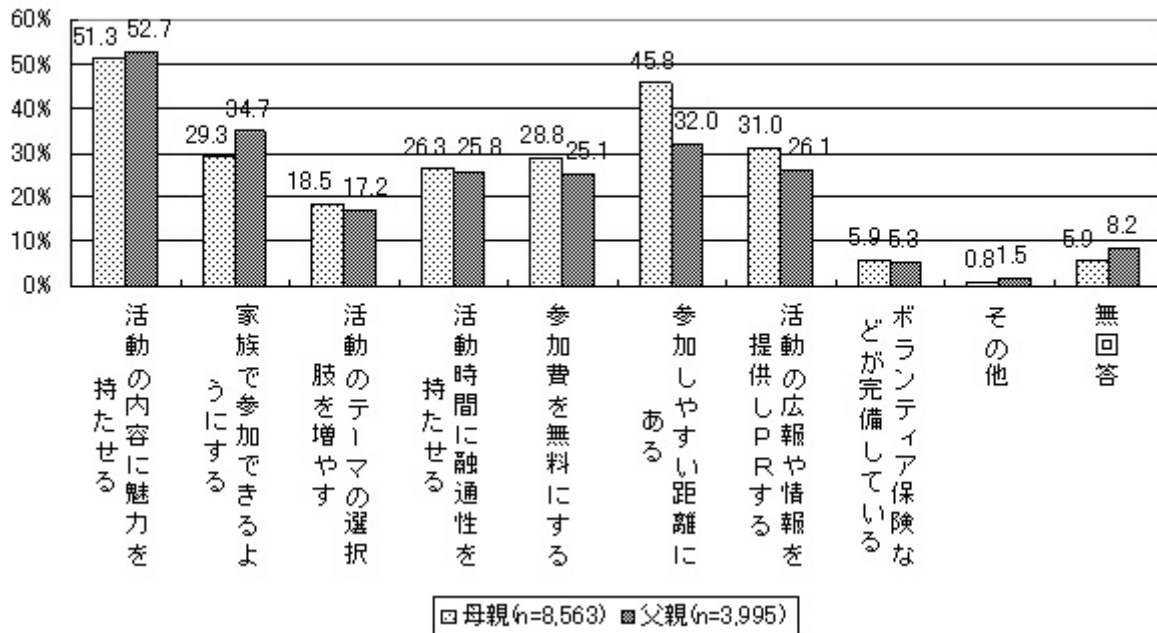
図表2-1-76 活動に参加しやすくなる条件(複数回答(3つまで) n=12,895)



参加条件について、性別にみると、母親と父親ともに「活動の内容に魅力を持たせる」が5割を超えているが、母親では「参加しやすい距離にある」(母親45.8%、父親32.0%)「活動の広報や情報を提供しPRする」(母親31.0%、父親26.1%)が参加しやすい条件として父親より上回っている。父親では「家族で参加できるようにする」(父親34.7%、母親29.3%)が参加しやすい条件として母親より上回っている。

母親と父親の差が最も大きいものは「参加しやすい距離にある」(母親45.8%、父親32.0%)で、母親が父親を13.8ポイント上回っている。(図表2-1-77)

図表2-1-77 活動に参加しやすくなる条件【性別】(複数回答(3つまで))

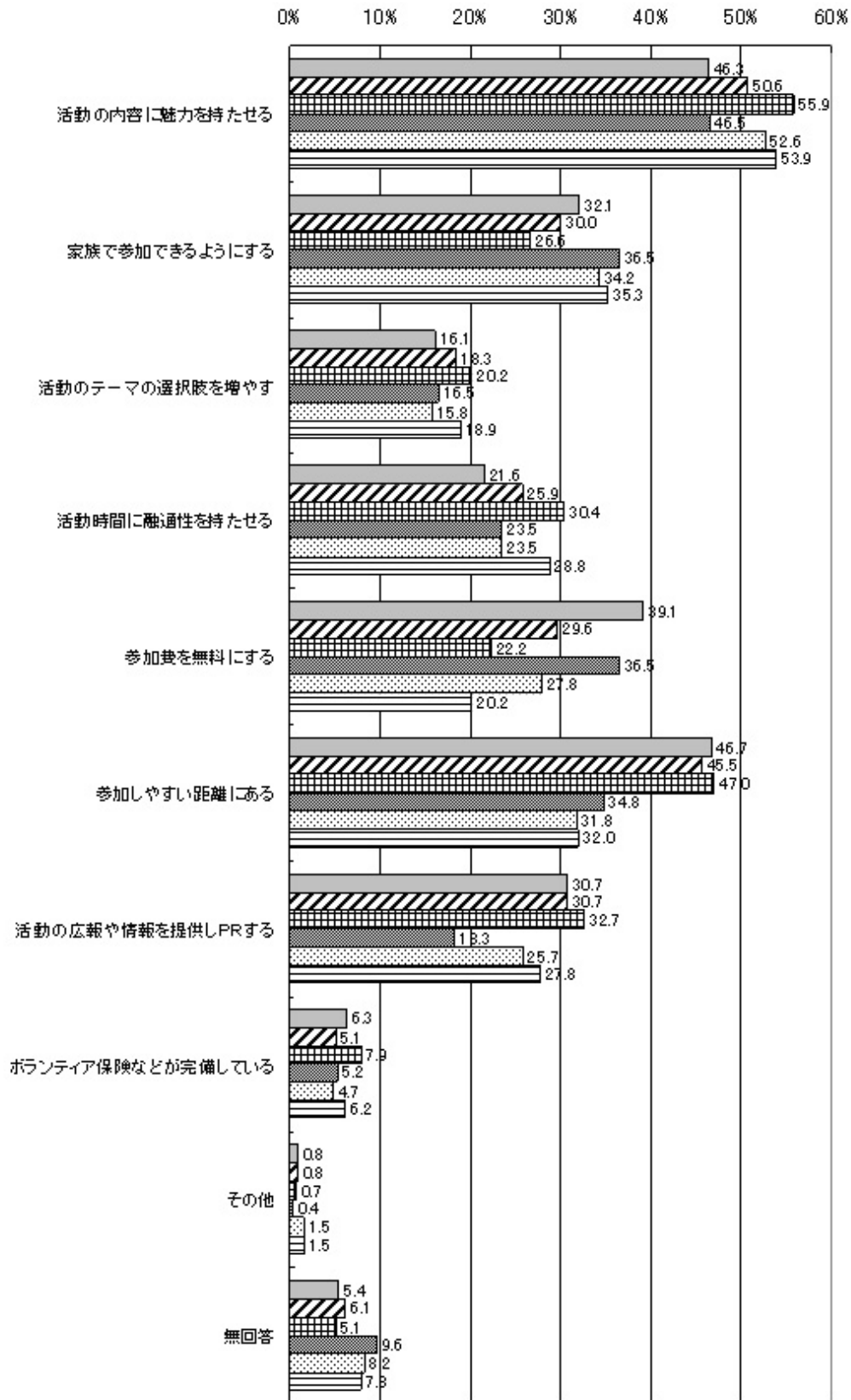


参加条件について、本人の年代別にみると、「活動の内容に魅力を持たせる」は、母親と父親ともに年齢があがるほど割合が高くなっている。こうした傾向は、「活動時間に融通性を持たせる」、「活動の広報や情報を提供しPRする」にもうかがえる。

一方、「参加費を無料にする」では、母親と父親ともに年齢がさがるほど割合が高くなっている。29歳以下では、「参加費を無料にする」が母親で39.1%、父親で36.5%と、他の年齢層よりも参加しやすくなる条件としてあげている人の割合が高い。

また、母親の場合「家族で参加できるようにする」が、年齢がさがるほど割合が高くなっている。(図表2 - 1 - 78)

図表2-1-78 活動に参加しやすくなる条件【性・年齢別】  
(複数回答(3つまで))



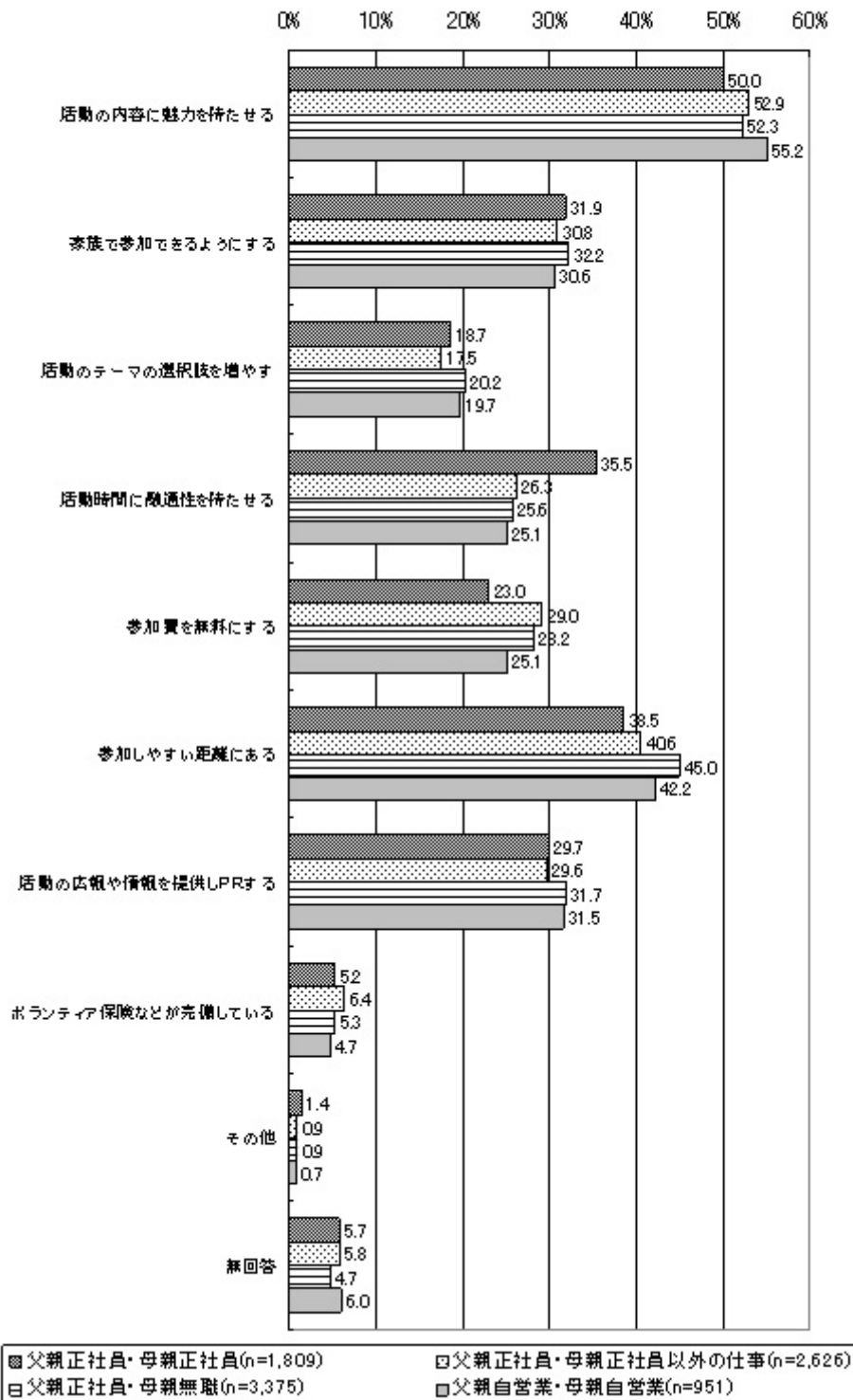
□ 母親-29歳以下(n=857)    ▨ 母親-30歳代(n=5,617)    ▩ 母親-40歳以上(n=1,967)  
 ▤ 父親-29歳以下(n=230)    ▥ 父親-30歳代(n=2,073)    ▦ 父親-40歳以上(n=1,651)



参加条件について、就労状況別にみると、「参加しやすい距離にある」は、父親正社員・母親正社員の 경우에는 38.5%だが、父親正社員・母親無職の 경우에는 45.0%となっている。

父親正社員・母親正社員の 경우에、「活動時間に融通性を持たせる」が 35.5%と、他の就労状況よりも高い割合になっている。(図表2-1-79)

図表2-1-79 活動に参加しやすくなる条件【夫婦の就労状況別】  
(複数回答(3つまで))



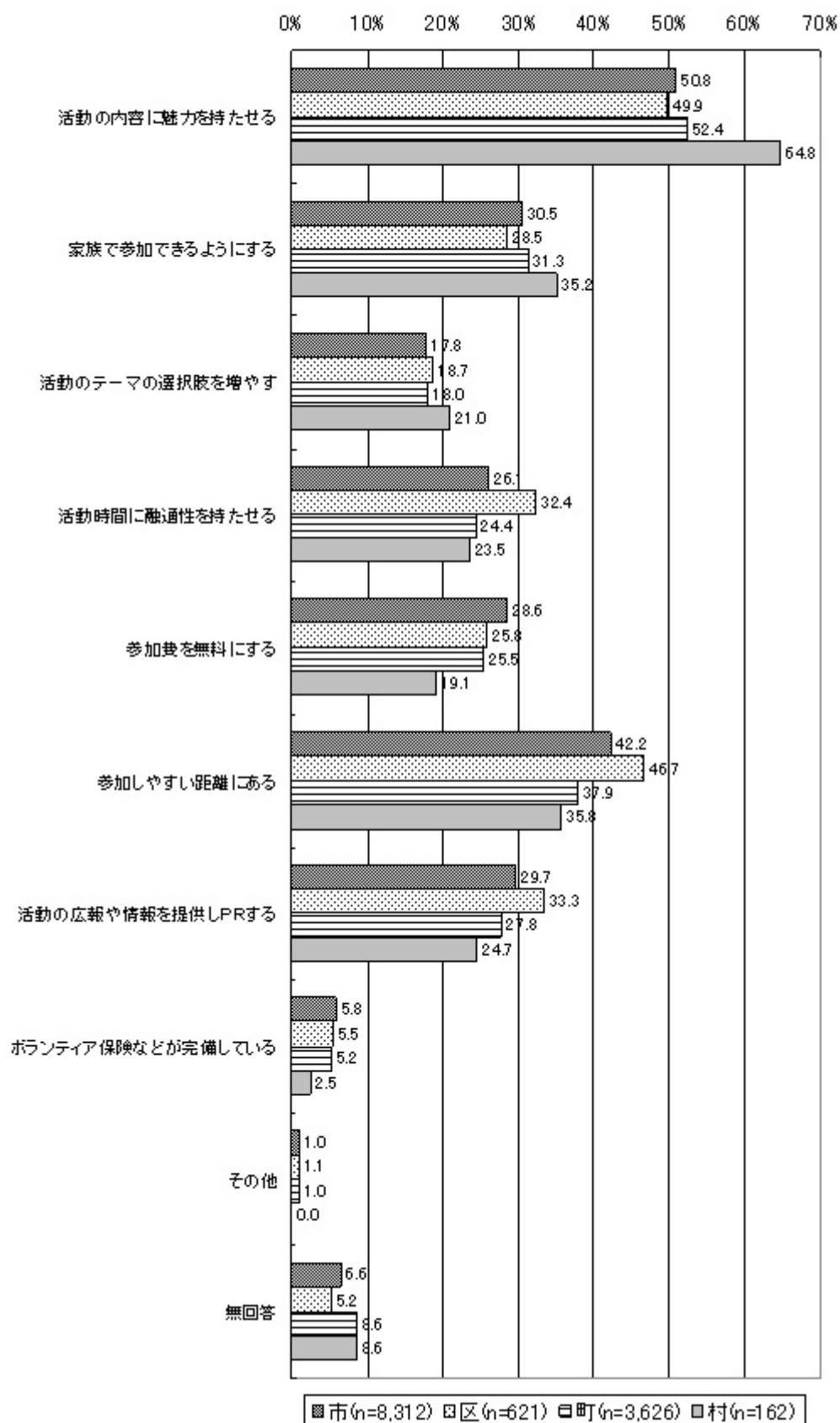
参加条件について、居住地別にみると、「活動の内容に魅力を持たせる」が、村で 64.8%と、市（50.8%）区（49.9%）町（52.4%）よりも高い割合だった。

「参加しやすい距離にある」は、区 46.7%、市 42.2%であるが、町 37.9%、村 35.8%と、市区部のほうが高い割合を示している。

「参加費を無料にする」は、市 28.6%、区 25.8%、町 25.5%、村 19.1%であった。

「活動の広報や情報を提供しPRする」は、区で 33.3%と最も高かったが、村で 24.7%と最も低かった。（図表 2 - 1 - 80）

図表2-1-80 活動に参加しやすくなる条件【居住地別】（複数回答(3つまで)）

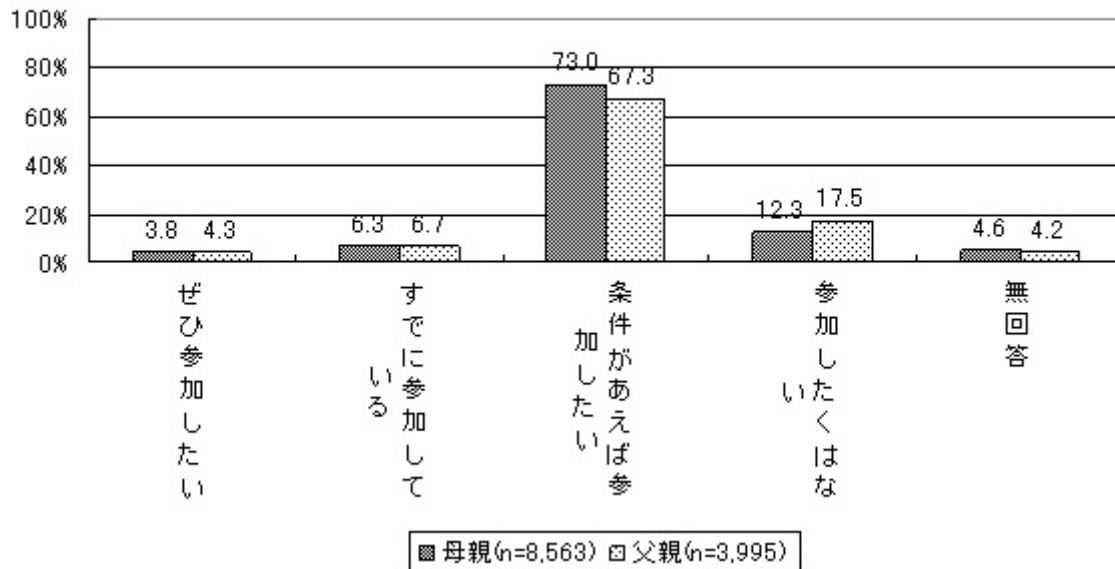


## 8. 子育て支援に関する地域活動への参加意欲について

### (1) 子育て支援関連の地域活動・ボランティア活動への参加意欲

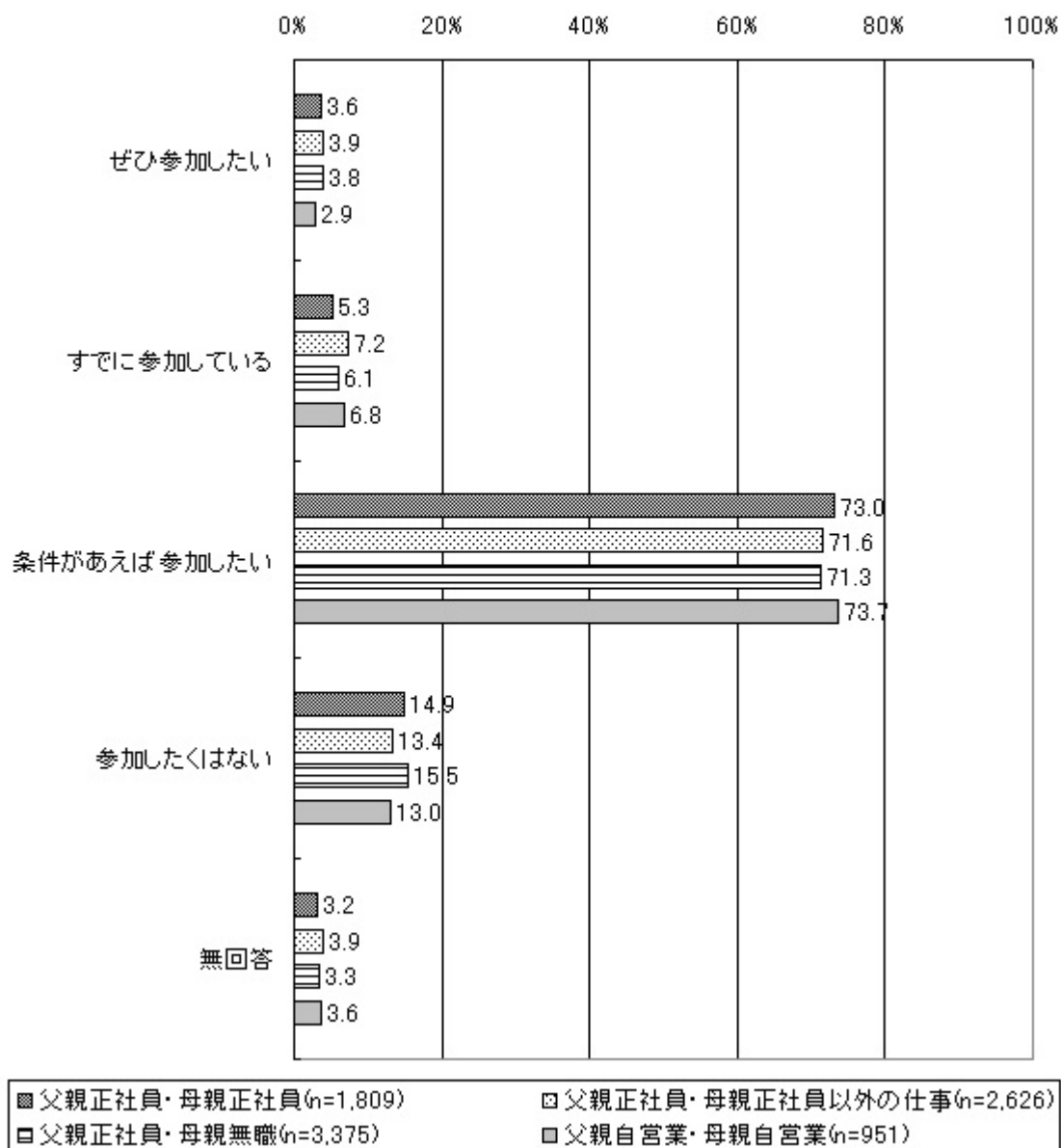
今後「支援する側」として地域活動に参加する意欲については、「すでに参加している」は7%だが、母親と父親ともに「ぜひ参加したい」と「条件があれば参加したい」を合わせると、7割を超える人が今後地域活動への参加を希望している。(図表2-1-81)

図表2-1-81 地域活動への参加希望【性別】(単数回答)



地域活動への参加意欲について、夫婦の就労状況別にみると、いずれの就労状況であっても「条件があれば参加したい」は7割を超えている。(図表2-1-82)

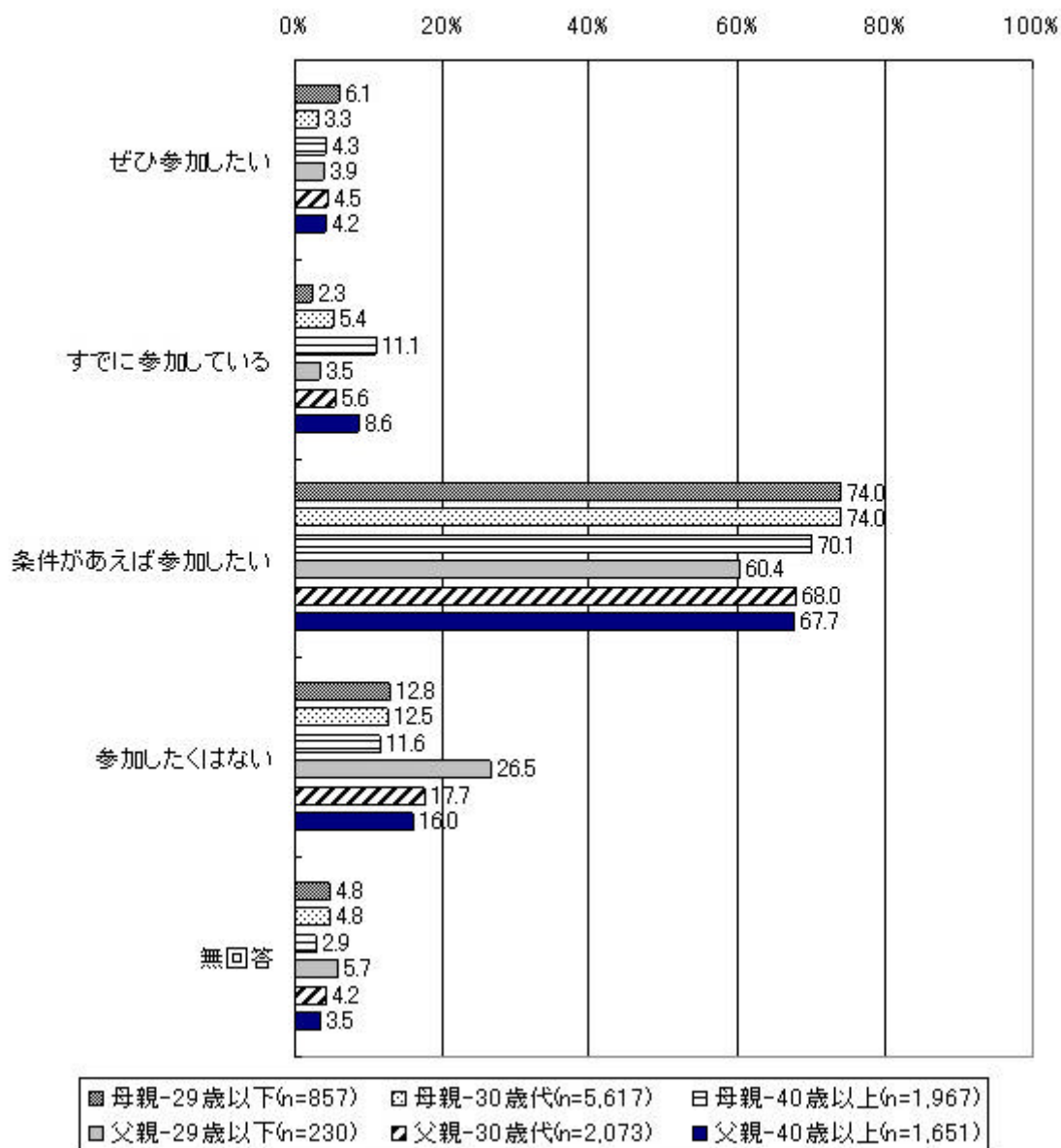
図表2-1-82 地域活動への参加希望【夫婦の就労状況別】(単数回答)



地域活動への参加意欲について、性・年齢別にみると、「条件があれば参加したい」は、すべての年代で父親よりも母親のほうが割合が高い。

「参加したくはない」との回答が最も多かったのは、父親の29歳以下で、26.5%であった。  
 (図表2-1-83)

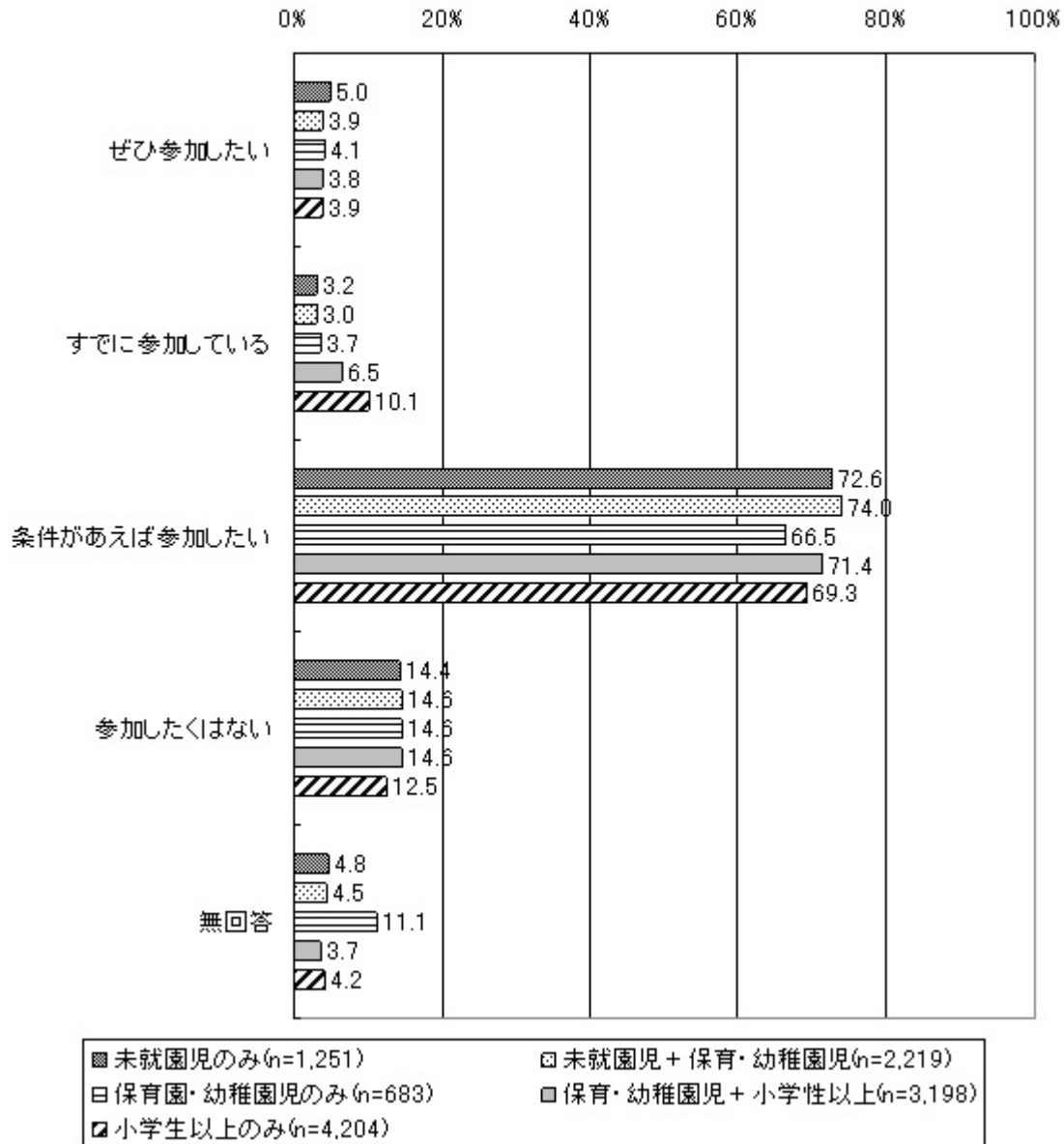
図表2-1-83 地域活動への参加希望【性・年齢別】(単数回答)



地域活動への参加意欲について、子どもの学齢別にみると、「すでに参加している」人は、子どもの学齢が高くなるにつれ漸増する傾向がうかがえる。

「条件があれば参加したい」人は、未就園児＋保育・幼稚園児を持つ人が74.0%と最も高く、保育園・幼稚園児のみの人が66.5%と最も低かった。(図表2-1-84)

図表2-1-84 地域活動への参加希望【子どもの学齢別】(単数回答)



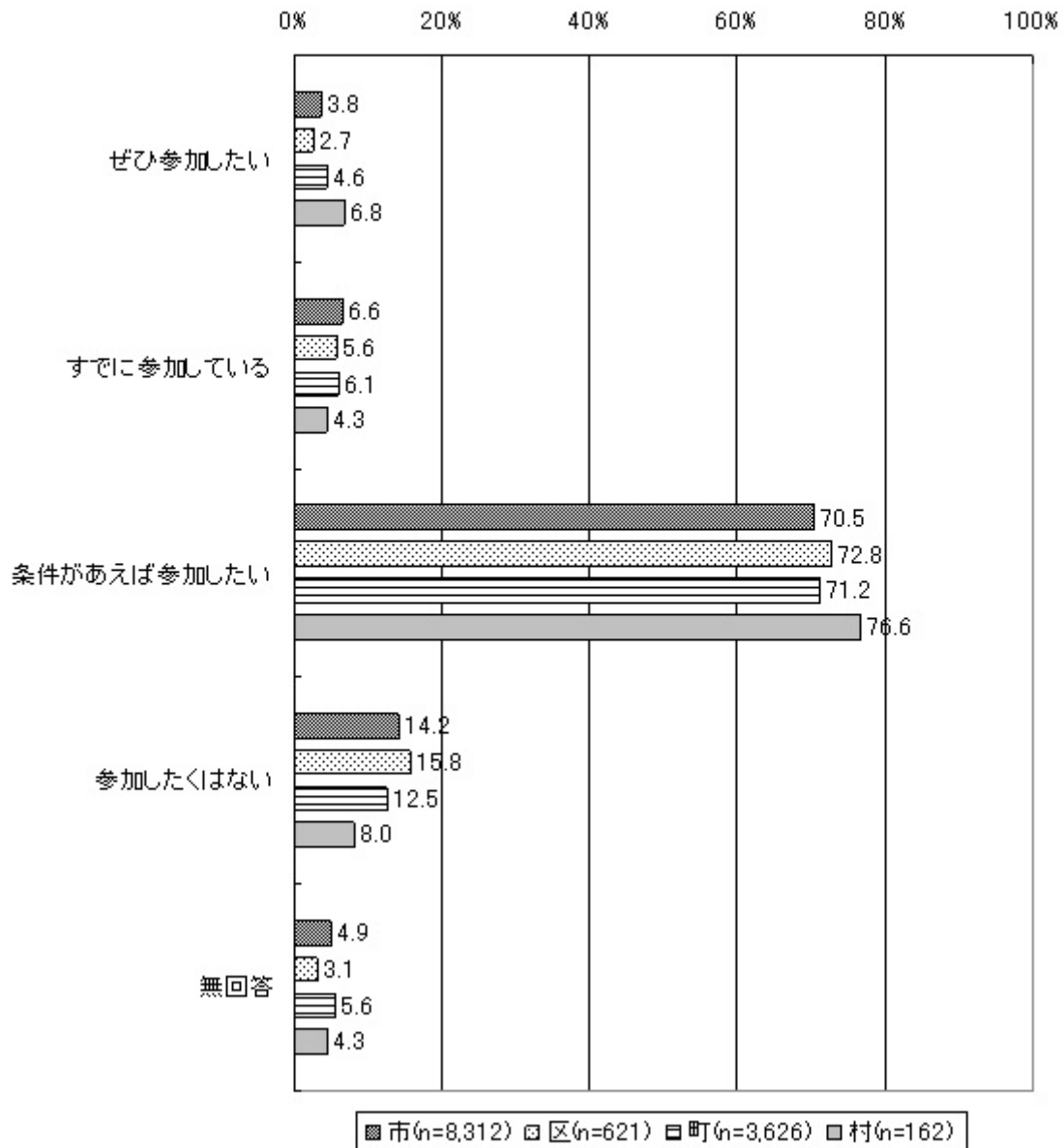


地域活動への参加意欲について、居住地別にみると、「条件があれば参加したい」と回答している人の割合は、村部で76.6%と最も高くなっている。「参加したくはない」が最も少ないのも8.0%の村部である。

また、「ぜひ参加したい」と回答している人は、区部から市部、町部、村部になるにつれて漸増し、「すでに参加している」は市部が最も高く6.6%で、村部が最も低く4.3%である。

(図表2 - 1 - 85)

図表2-1-85 地域活動への参加希望【居住地別】(単数回答)

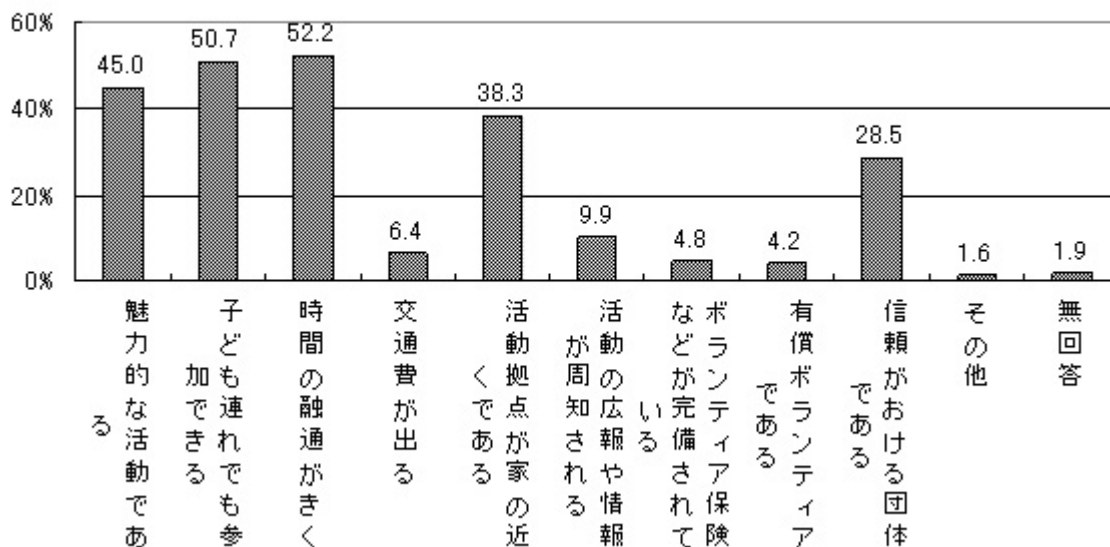


## (2)子育て支援関連の地域活動・ボランティア活動への参加条件

条件があれば今後地域活動に参加したいと考える人(9,127人)に、参加条件を尋ねたところ、「時間の融通性がきく」が52.2%と最も多く、次いで「子ども連れでも参加できる」(50.7%)、「魅力的な活動である」(45.0%)、「活動拠点が家の近くである」(38.3%)、「信頼がおける団体である」(28.5%)となっている。

「交通費が出る」(6.4%)、「有償ボランティアである」(4.2%)といった金銭的な条件は1割以下であった。(図表2-1-86)

図表2-1-86 地域活動への参加条件(複数回答(3つまで) n=12,895)



地域活動への参加条件について、性別にみると、母親と父親ともに年齢が若いほど「子ども連れで参加できる」ことを条件にあげる人の割合が高く、年齢が上がるほど「時間の融通がきく」ことを条件にあげる人の割合が高かった。また、「魅力的な活動である」は、母親の場合は、年齢が上がるほど条件にあげる人の割合が高く、父親では年齢がさがるほど条件にあげる人の割合が高かった。(図表2-1-87)

図表2-1-87 地域活動への参加条件【性・年齢別】(複数回答(3つまで))

